

庶務局庶務部

寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件	一六	檀信徒總代新舊交替期之件	一六九
無住寺院整理ニ關スル件其一	一七	檀家異動御記録訂正願之件	一七〇
其二	一八	檀家異動訂正願ニ關スル事項之件	一七三
住職死亡及退職ノ節六十日以內ニ後任者出願之件	一九	檀家總代改選ニ關スル件	一七三
死亡又ハ失踪等ニ關スル届出之件	二〇	御繪傳繪解ニ關スル件	一七三
僧侶歸俗出願之手續ノ件	二一	寺院住職小學校訓導交互兼務之件	一七三
副住職辭退者資格之件	二二	危險思想取締之件	一七三
兼務人承諾書之件	二三	托鉢規程	一七四
所屬寺轉換度牒裏書之件	二四	托鉢證牌下附ニ關スル注意之件	一七五
得度試驗項目之件	二五	二物願之件	一七六
得度試驗之件	二六	本堂後門之件	一七六
得度御式定日之件	二七	御厨子入形祖師聖人御影下附之件	一七六
一字名改名願之件	二八	勅語拜受ニ付訓告之件	一七六
一字名改稱ニ付改名願之件	二九	勅語御寫下附之件	一七六
俗名ヲ改名スヘキ之件	三〇	勅語御寫下附申請心得之件	一七六
地方廳開濟之願事速ニ届出ヘキ件	三一	勅語御寫兼務住職ノ寺院及説教所ヘ下附之件	一七六
檀家總代ニ關スル件	三二	財團課規定	一七六
檀家總代本山ヘ届出之件	三三		

庶務局庶務部

○法類參與規程

(明治三十六年十月) 教示第十七號

改正 昭和七、五

- 第一條 法類ト稱スルハ寺法細則第二章第八條ニ依リ定メタル組内各寺院ヲ云フ
- 第二條 組長ハ此規程ニ依リ其組法類總代ノ任アルモノトス
- 第三條 前條組長ノ外其組内寺院ノ住職タル者ハ何人ニテモ此規程ニ依リ組長ト共ニ法類總代トシテ他寺院ノ事件ニ參與ス
- 第四條 前條法類總代ハ豫メ其人ヲ一定セス其事件ノ度毎ニ於テ第五條第一號ノ場合ハ組内寺院協議ノ上之ヲ定メ同條第二號ノ場合ハ組長之ヲ定ム
- 第五條 法類總代トシテ組内他寺院ノ事件ニ參與スヘキ場合ハ左ノ如シ
  - 一、寺院ハ創設移轉廢合其他都テ組内各寺院ニ利害ヲ及ホスヘキ重大ノ件
  - 二、前號ノ外規定ニ基キ參與スヘキ件

庶務局庶務部・法類參與規程 別格寺資格規程

○別格寺資格規程

(明治四十一年一月) 教示第十六號

改正 明治四二、一

- 第六條 法類總代トシテ前條ノ事件ニ參與シ規定ニ依リ書面ニ連署スル手續左ノ如シ
    - 一、第一號ハ組内各寺院ノ協議ヲ經タル後之ニ連署ス
    - 二、第二號ハ其事件ノ屬スル寺院ノ利害ヲ考察シ差支ナキモノト認メタル後之ニ連署ス
  - 第七條 本規程ニ於テ教會及説教所ハ寺院ニ準シ其設立者ハ住職ニ準ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス
- 第一條 自今左ノ資格ヲ備フル寺院ヲ別格寺トス
    - 一、別格別院ニシテ事故アリ一般末寺トナリシトキ

庶務局庶務部・別格寺資格規程

- 二、法主若クハ嗣法ノ一般末寺トシテ兼務セシトキ
- 第二條 前條ニ依ラスシテ一般末寺ハ何等ノ事故アルモ別格寺ノ稱號ヲ受クルコトヲ得ス
- 第三條 別表ニ記セル從前ヨリ別格寺准別格寺ノ稱號ヲ受ケシ寺院ハ第一條ノ資格ヲ有スルモノト同一ニシテ永遠ニ其稱號ヲ繼續スルコトヲ得
- 第四條 別格寺住職副住職ハ總テ宗正ノ上申ニ依リ特命ス
- 第五條 別格寺ニ於テ衆徒ヲ置キ又ハ轉換ノ場合ハ必ス宗正ノ認可ヲ經ヘシ
- 第六條 別格寺住職副住職又ハ前住職ニシテ懲戒處分ヲ受クルトキハ別格寺ノ稱號及禮遇ヲ停止ス
- 第七條 懲戒處分ヲ特赦セラレタルトキハ別格寺ノ稱號ヲ復スルコトヲ得ト雖モ被懲罰者ノ禮遇ヲ停止ス
- 第八條 曾テ懲戒處分ヲ受ケシ者ハ別格寺住職又ハ副住職タルコトヲ得ス
- 第九條 別格寺衆徒ニシテ懲戒處分ヲ受ケタルトキハ宗正ノ申請ニ依リ一定ノ期間該寺住職ノ禮遇ヲ停止スルコトアルヘシ
- 第十條 別格寺ニシテ義務金息納セルトキハ懲戒處分

ヲ待タスシテ其禮遇ヲ停止ス  
 第十一條 別格寺住職副住職及子弟ニシテ衆徒タルモノハ法主ノ褫諱ヲ法名ニ冠ラスコトヲ得  
 第十二條 從前ノ諸規程ニ准別格寺ノ稱號アルモノハ之ヲ廢ス  
 (別表)

別格寺

- 越前國吉田郡東藤島村大字藤島 超勝寺
- 東京市麻布區山元町 善福寺
- 東京市下京區東中筋學林町 常樂寺
- 京都市上京區西丸太町 順興寺
- 攝津國川邊郡小濱村 毫攝寺
- 大阪府西區薩摩堀北之町 廣教寺
- 攝津國有馬郡鹽瀨村ノ内名鹽 教行寺
- 大和國吉野郡下市町大字下市 願行寺
- 伊勢國桑名郡桑名町大字萱町 法盛寺
- 近江國高島郡高島村字黒谷村 慈敬寺
- 近江國神崎郡八幡村大字種 本行寺
- 能登國珠洲郡松波村大字松波 松岡寺
- 越中國射水郡伏木町大字古國府 勝興寺

○別格寺表

- 福井縣吉田郡東藤島村大字藤島 超勝寺
- 庶務局庶務部・別格寺資格規程 別格寺表

- 准別格寺
- 越前國丹生郡立待村大字杉本 西光寺
  - 越前國福井市尾上々々町 本覺寺
  - 能登國鹿島郡七尾町大字所口 光德寺
  - 京都市下京區新町通御前通下平野町 明覺寺
  - 尾張國名古屋市白山町 興善寺
  - 三河國額田郡美合村大字和合 本宗寺
  - 越後國中頸城郡高田町大字横春日 瑞泉寺
- 附則  
 此教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
 自今末寺ニテ別格寺ノ稱號ヲ受クルモノハ甲達ヲ以テ告示ス

- 東京市麻布區山元町 善福寺
- 京都市下京區花屋町通學林町 常樂寺
- 京都市上京區西丸太町 順興寺
- 兵庫縣川邊郡小濱村 毫攝寺
- 大阪府西區薩摩堀北之町 廣教寺
- 兵庫縣有馬郡鹽瀨村ノ内名鹽 教行寺
- 奈良縣吉野郡下市町大字下市 願行寺
- 三重縣桑名郡桑名町大字萱町 法盛寺
- 滋賀縣高島郡高島村大字黒谷村 慈敬寺
- 滋賀縣神崎郡八幡村大字種 本行寺
- 石川縣珠洲郡松波村大字松波 松岡寺
- 富山縣射水郡伏木町大字古國府 勝興寺
- 福井縣丹生郡立待村大字杉本 西光寺
- 福井市尾上々々町 本覺寺
- 石川縣鹿島郡七尾町大字所口 光德寺
- 京都市下京區新町通正面下平野町 明覺寺
- 名古屋市白山町 興善寺
- 愛知縣額田郡美合村大字和合 本宗寺
- 新瀉縣中頸城郡高田町大字横春日 瑞泉寺
- 山梨縣東山梨郡等々力村 萬福寺

庶務局庶務部・別格寺表 教區會規則

大阪府泉南郡貝塚町	願泉寺
新潟市西堀通五番丁	淨光寺
大阪府中河内郡八尾村字荳振	惠光寺
新潟市西堀町十一番丁	淨光寺
福井市尾上々町	照護寺
福井縣南條郡武生町大字泉町	陽願寺

○教區會規則 (大正五年十二月 法度第六號)

改正 大正一〇、七 大正一四、四 昭和二、九  
 昭和 三、四 昭和 六、五 昭和七、五

第一條 各教區ニ教區會ヲ設ク

第二條 教區各組内成年以上ノ教師、準教師ニシテ教區會衆選舉人名簿ニ登錄セラレタル者ハ選舉權ヲ有ス

第三條 年齡滿二十歲以上ニシテ教師タル者ハ被選舉權ヲ有ス

第四條 會衆ノ選舉ハ左ノ率ニ依リ各組ニ於テ之ヲ行フ

一、三十ヶ寺迄ノ組ハ一名トス

二、三十一ヶ寺以上ノ組ハ二十ヶ寺未滿ヲ増ス毎二

一名ヲ加フルモノトス

第五條 左ノ一ニ觸ル、者ハ選舉人及被選舉人タルヲ得ス

一、寺法第二十八條ノ趣意ニ戻ル末寺ニ屬スル者前項第一號ノ規定ハ教會及説教所ニ準用ス但シ一人一票トシ希望ノ個所ニ於テ行使シ得ル如クス

二、教區會ノ決議ニ依リ本山ノ認可ヲ經テ賦課シタル協議費ヲ意納セル末寺ニ屬スル者

三、輕懲戒以上處分中ノ者又ハ處分ヲ受ケ決行猶豫中ノ者及處分解除後輕懲戒ハ滿一年、重懲戒ハ滿二年ヲ經過セサル者

第十二條 議案ハ豫メ本山ノ承認ヲ經テ管事之ヲ提出ス

第十三條 教區會ハ開會ノ初ニ於テ會長副會長ヲ互選シ管事ニ報告スヘシ但シ會長副會長ノ任期ハ次會開會ノ前日迄トス

第十四條 教區會ハ教區内ニ於ケル左ノ事項ヲ議決ス

一、教學發展ニ關スル方法

二、教區費ノ豫算決算並ニ賦課徵集方法

三、會衆ノ建議並ニ正副住職教師ノ建白

第十五條 管事ハ開會ノ始メニ於テ前年度ノ出納決算ヲ報告シ之カ承認ヲ求ムヘキモノトス但シ教區會ヲ開カサルトキハ文書ヲ以テ之ヲ報告シ次ノ教區會ニ於テ更ニ之カ承認ヲ求ムヘシ

第十六條 教區會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキ若クハ教區會ヲ開カサルトキハ管事ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第十七條 教區會ハ全會衆ノ過半数來集スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

第十八條 議事ハ出席會衆過半数ニ依リテ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

庶務局庶務部・教區會規則

四、總代會衆及教區會衆選舉ニ關シ輕懲戒以上處分中ノ者又ハ處分ヲ受ケ決行猶豫中ノ者及處分ヲ受ケタル後滿四年ヲ經過セサル者

第六條 前條第二號、第三號、第四號ノ資格調査ハ毎年確定スヘキ總代會衆選舉人名簿ニ依リ同條第二號ノ資格調査ハ各教區管事ニ於テ毎年度調製シ本山ノ認可ヲ經テ確定シタル協議費納否名簿ニ依ル

第七條 教區會衆選舉人名簿ニハ毎年確定スヘキ總代會衆選舉人名簿並ニ協議費納否名簿ニ於テ共ニ有資格ナル者ヲ有資格者トシテ登錄シ其ノ一方ノ名簿ニ於テ無資格ナル者ハ之ヲ無資格者トス

第八條 會衆選舉ノ方法ハ達示ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 會衆ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四年トス

補缺會衆ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十條 教區會ハ管事ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ全會衆三分ノ一以上ノ發議ニ依リ本山ヘ經何ノ上之ヲ開ク其日數ハ七日以内トス

第十一條 教區會ハ管事之ヲ召集ス

召集ハ開會ノ日ヨリ十五日以前ニ會場ヲ指定シ會衆ニ通知スヘシ但シ緊急ノ場合ハ此限リニアラス

庶務局庶務部・教區會規則 教區會會衆選舉規程

- 第十九條 教區會ハ正當ノ理由ナクシテ召集ニ應セス又ハ事故ヲ告ケスシテ參會セサル會衆ノ處分ヲ議定スルコトヲ得
- 第二十條 教區會ノ決議ハ管事之ヲ本山ニ申請シ認可ヲ經テ施行ス但シ特別ノ場合ニ依リテハ本山ハ原案ノ施行ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十一條 教區會ハ自ら議事細則ヲ制定シ施行スルコトヲ得
- 第二十二條 教區會ノ議事宗制寺法度教示並ニ本山ノ諸達示ニ觸ル、コトアリト認ムルトキ若クハ管事ニ於テ不當ト認ムルトキハ管事ハ停會シテ本山ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ
- 前項ノ場合ニ於テハ本山ヨリ教區會ヲ解散スルコトアルヘシ
- 第二十三條 教區會解散セラレタルトキハ更ニ會衆ヲ選ビ解散ノ日ヨリ二ヶ月以内ニ之ヲ召集スヘシ
- 第二十四條 教區ノ事情ニ依リ常備會衆ヲ置クコトヲ得
- 第二十五條 常備會衆ハ教區會ニ於テ會衆中ヨリ三名乃至五名ヲ互選スルモノトス

其任期權限等ハ教區會ニ於テ之ヲ定メ本山ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 教區會又ハ常備會衆會ノ決議ニシテ本山ノ認可ヲ得タルモノハ教區内ノ末寺ハ之ニ服從スルノ義務アルモノトス

第二十七條 教區會ハ會衆ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得但シ教區會閉會中ハ會長ヲシテ之ニ當ラシム

第二十八條 前各條ハ之ヲ教會及說教所ニ準用ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○教區會會衆選舉規程 (大正五年十二月 甲達第三十號)

- 改正 大正一、一〇 大正一四、一一 昭和四、二 昭和五、一一 昭和七、五 昭和八、一一
- 第一條 教區會會衆ハ教區會規則第三條ノ規定ニ依リ各組ニ於テ選舉ス
- 第二條 總選舉ハ會衆ノ任期終了ノ年又ハ教區會解散セラレタルトキ之ヲ行フ其期日ハ管事之ヲ定メ三十

庶務局庶務部・教區會會衆選舉規程

- 日以前ニ發布ス
- 第三條 補缺選舉ハ會衆中缺員アルトキ又ハ會衆ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ選舉ヲ要スルトキ之ヲ行フ其期日ハ管事之ヲ定メ二十日以前ニ發布ス
- 第四條 選舉ノ全部成立セサルトキ又ハ本規程ニ特定アル場合ニ於テハ再選舉ヲ行フ其期日ハ管事之ヲ定メ二十日以前ニ發布ス
- 第五條 協議費納否名簿ハ各組毎ニ協議費ノ種別納否寺號ヲ記入スルモノトス
- 第六條 協議費納否名簿ハ毎年管事ニ於テ協議費納期經過後二十日以内ニ之ヲ調製シ本山ニ經伺ノ上其正本ヲ教務所ニ据置キ副本ヲ組長ニ交付スヘシ
- 第七條 管事ハ毎年四月二十日ヲ以テ前年度ニ於テ確定シタル總代會衆選舉人名簿及協議費納否名簿ニ依リ教區會會衆選舉人名簿ヲ調製シ副本ヲ組長ニ交付スヘシ
- 本名簿ノ調製ハ教區會規則第七條ニ依ル
- 第八條 組長ハ教區會會衆選舉人名簿ノ副本ヲ受ケタルトキハ直ニ組長事務所ニ於テ組内各寺ノ縱覽ニ供スヘシ但シ距離遠隔又ハ交通不便ノ爲メ自ら組長事務所ニ到リテ縱覽スルコト能ハサルモノハ其旨組長ニ申立テ組長ハ之ニ對シ選舉資格ノ有無ヲ本人ニ通知スヘシ
- 第九條 選舉資格アル者教區會會衆選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載シタルヲ發見シタルトキハ其理由及證據ヲ具シテ組長ニ訂正シ申立ツルコトヲ得
- 第十條 組長ハ前條申立ヲ受ケタルトキハ直ニ管事ニ具申スヘシ
- 管事ハ直ニ調査ヲナシ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ教區會會衆選舉人名簿正本ヲ訂正シ其旨組長ニ通知シテ副本ヲ訂正セシメ組長ハ其旨本人ニ通知スヘシ若シ申立正當ナラサルトキハ其理由ヲ組長ニ通知シ組長ハ更ニ本人ニ通知スヘシ
- 第十一條 教區會會衆選舉人名簿ハ第九條第十條ノ手續ヲ經テ其確定期日ヲ五月三十一日トス
- 第十二條 教區會會衆選舉人名簿ハ其確定ノ日ヨリ次ノ教區會會衆選舉人名簿確定マテ之ヲ据置クモノトス確定後ハ第十四條ニ依リ失格セル者ノ外如何ナル理由アリトモ變更スルコトヲ得ス
- 第十三條 兼務寺所屬組ニ於テ投票ヲ爲サムトスル選

庶務局庶務部・教區會衆選舉規程

舉人ハ當該教區選舉人名簿確定前本山ニ届出ノ上選舉資格ヲ其組ニ移動スルコトヲ得但其兼務寺ニシテ教區會規則第五條第一號若ハ第二號ニ當ルトキハ此限ニ在ラス

兼務寺ニシテ同教區ニ屬スル場合ニ於テハ本務地組長兼務地組長及管事ヲ經由シ他教區ニ屬スル場合ニ於テハ本務地組長及管事並ニ兼務地組長及管事ヲ經由シテ前項ノ届出ヲ爲スヘシ  
選舉資格ヲ移動シタル後四年間ハ之ヲ他ニ移動スルコトヲ得ス

第十四條 總代會衆選舉人名簿ニ於テ其資格ヲ失ヒタル者ハ同時ニ教區會衆選舉人名簿ニ於ケル資格ヲモ失フモノトス

第十五條 管事ハ教區會衆選舉人名簿確定ノ上ハ該名簿ノ副本ヲ本山ニ提出スヘシ

第十六條 選舉ハ依リ之ヲ行フ

第十七條 組長ハ投票ヲ管理シ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス組長事故アルトキハ副組長之ヲ代理スヘシ但シ副組長代理シタルトキハ直ニ管事ニ届出ツヘシ  
第十八條 組長ハ選舉期日ヨリ七日以前ニ投票所ヲ指

定シ組内ニ告知スヘシ

第十九條 組長ハ組内ノ選舉人中ヨリ投票立會人二名ヲ選定シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ  
投票立會人ハ正當ノ理由ナクシテ辭任スルコトヲ許サス

第二十條 投票所ハ午前八時ニ開キ午後六時ニ閉ツ  
第二十一條 投票ハ選舉ノ當日選舉人自ラ投票所ニ於テ投票スヘシ

第二十二條 投票用紙ハ管事ヨリ組長ニ交付シ組長ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ選舉人ニ交付スヘシ  
第二十三條 投票ハ選舉人ニ於テ被選人ノ寺號姓名ヲ記シ及自己署名捺印ノ上封緘シテ組長ニ差出スヘシ  
一タヒ差出シタル投票ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十四條 投票ハ總テ單記トス  
第二十五條 組長ハ投票ヲ終リタルトキハ投票録ヲ作製シ立會人ト共ニ署名捺印ノ上投票ト共ニ直ニ管事ニ送致スヘシ  
第二十六條 組長ハ前條發送ニ付テハ必ス其封筒ニ投票録及投票在中ナルコトヲ表記シ立會人ト共ニ封印スヘシ

第二十七條 選舉人ノ所屬寺、投票所ト距離遠隔又ハ交通不便ニシテ第二十一條ヲ適用シ難キ事情アルトキハ選舉人ノ申出ニ依リ組長ハ管事ノ認可ヲ經テ投票用紙ヲ選舉人ニ郵送シ及選舉人ヲシテ第二十三條第一項ノ手續ヲ爲サシメ組長ニ郵送セシムルコトヲ得

前項郵便投票ハ選舉期日ノ前日マテニ投票所ニ到着スルニアラサレハ其效ナシ  
郵便投票ニ依ルトキハ選舉人必ス投票在中ト表記シ又組長ハ封緘ノ儘第二十五條合封ノ手續ヲナスヘシ

第二十八條 組長ニシテ其規定ニ背キタルカ爲メ選舉事務ノ進行セサルトキハ管事ハ臨時選舉事務取扱者ヲ置キ之ヲ進行セシムルコトアルヘシ

第二十九條 天災事變ノ爲メ豫定ノ期日ニ投票ヲ行フ能ハス又ハ投票ヲ失ヒタルトキハ管事ハ其組ニ限り更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシム其期日ハ組長ヲシテ七日以前ニ組内ニ告知セシムヘシ

第三十條 管事ハ各組ノ投票總テ到達シタルトキハ直チニ開票期日ヲ定メ七日以内ニ開票ヲ行フヘシ  
前項開票會日ハ五日以前ニ教區内ニ告示スヘシ

庶務局庶務部・教區會衆選舉規程

第三十一條 管事ハ組長ヨリ送達セル各組ノ投票ヲ開票會日マテ封緘ノ儘保管スヘシ

第三十二條 投票ノ開票審査ハ教區内選舉人中ヨリ二名以上立會セシメ教務所ニ於テ管事之ヲ行フ

立會人ハ管事之ヲ指名ス  
立會人ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ許サス  
第三十三條 開票ハ午前八時ニ始メ午後六時マテトス但シ午後六時ニ至ルモ猶ホ開票ヲ終ラサルトキハ翌日午前八時ヨリ引續キ開票スヘシ

第三十四條 左ニ掲クル投票ハ無効トス  
一、第二十三條及第二十四條ニ違背セルモノ、  
二、選、被選人ノ姓名ヲ認知シ難キモノ  
三、自選シタルモノ

第三十五條 投票效力ノ有無ニ就キ疑義アルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ管事之ヲ決ス

第三十六條 選舉人ハ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得  
第三十七條 開票會日ニ至リ天災事變ノ爲メ開票ヲ行フ能ハサルトキ若クハ中止シタルトキハ管事ハ更ニ相當期日ヲ定メ開票會日ヲ延期スルコトヲ得

第三十八條 其組ノ定員ニ對シ法定數以上ノ多數ヲ得

庶務局庶務部・教區會衆選舉規程

タル者ヲ以テ當選人トス  
 得票同數ナルトキハ法滿長ヲ取り法滿同シキトキハ  
 抽籤ヲ以テ之ヲ定ム法定數ハ有效投票ノ定員ニテ除  
 シタル數ノ三分ノ一トス  
 第三十九條 當選人定マリタルトキハ管事ハ直ニ本山  
 ニ經伺シ資格差支ナキノ指令ヲ得テ之ヲ當選人ニ通  
 知スヘシ  
 第四十條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以  
 内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ管事ニ届出ツヘシ前  
 項ノ届出ヲナササルトキハ其當選ヲ辭シタルモノト  
 見做ス  
 第四十一條 當選人當選承諾ヲ届出タルトキハ管事ハ  
 當選狀ヲ交付シ教區内ニ告示スヘシ  
 第四十二條 當選人ニシテ當選狀交付以前ニ其當選ヲ  
 辭シタルトキ又ハ被選資格ヲ失ヒタルトキ若クハ死  
 亡シタルトキハ其者ニ對スル再選舉ヲ行フ但シ第三  
 十八條第二項ニ依リ當選ヲ得サリシ者又ハ有效投票  
 ノ三分ノ一以上ノ得票アル次點者アルトキハ本條ニ  
 依ラス直ニ其者ヲ當選人ト定ム  
 第四十四條ノ異議申立期間ハ再選舉ヲ行フコトヲ得

ス其申立アリタルトキヨリ決定ニ至ルマテノ間亦同  
 シ  
 第四十三條 選舉人選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ  
 開票會日ヨリ二十日以内ニ之ヲ管事ニ申立ルコトヲ  
 得  
 第四十四條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議  
 アルトキハ當選告示ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ管事  
 ニ申立ルコトヲ得  
 第四十五條 前二條ノ異議ハ管事之ヲ決定ス  
 前項ノ決定ニ不服アルトキハ申立人ハ決定ノ日ヨリ  
 十五日以内ニ執行ニ申告スルコトヲ得  
 第四十六條 決定ニ依リ其組選舉ノ全部若クハ一部無  
 效トナリ又ハ當選無效トナリタルトキハ管事ハ其當  
 選ヲ取消シ組長ヲシテ其組内ニ告示セシメ更ニ期日  
 ヲ定メ再選舉ヲ行ハシム但シ第四十五條第二項ニ依  
 リ本山之ヲ決定シタルトキハ執行ハ管事ヲシテ本條  
 ノ手續ヲナサシム  
 第四十七條 申告ノ對手タル當選人ハ其組選舉ノ全部  
 若クハ一部無效又ハ當選無效タルノ決定ヲ受クルニ  
 アラサレハ教區會ニ列席スルノ資格ヲ失ハス

○組長副組長職制

(明治三十六年七月 教示第九號)

改正 明治四二、一 大正六、一 昭和七、五 昭和八、六

庶務局庶務部・教區會衆選舉規程 組長副組長職制

第四十八條 第四十三條第四十四條ノ申立及第四十五  
 條第二項ノ申告取調中教區會解散セラレタルトキハ  
 之ヲ棄却ス但シ懲戒處分ニ關スル事項ハ此限ニアラ  
 ス  
 第四十九條 會衆ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ退任ヲ  
 要スルトキハ其組選出ノ會衆中ニ就キ抽籤ヲ以テ之  
 ヲ定ム  
 前項ノ抽籤ハ教務所ニ於テ各本人ヲシテ之ヲ行ハシ  
 メ管事ハ其結果ヲ教區内ニ告示スヘシ  
 第五十條 本規程ニ於テ教會及說教所ハ寺院ニ準ス  
 附 則  
 本達示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第一條 寺法細則第二章第八條ニ依リ毎組ニ左ノ職員  
 ヲ置ク  
 組長 一名 准稟授三四等  
 但シ在職長期(前任期間ヲ通算ス)ニ涉ル者ハ准稟授  
 一等迄進ムコトヲ得  
 副組長 一名又ハ二名准稟授五等又ハ稟授待遇但シ在  
 職長期(前任期間ヲ通算ス)ニ涉ル者ハ准稟授三等迄  
 進ムコトヲ得  
 第二條 組長副組長ハ其組寺院住職中名望アル者ニ就  
 キ別ニ定ムル選任規程ニ依リ之ヲ任ス  
 其組寺院住職ニシテ前項ニ違スル者ヲ豫選シタルト  
 キハ再豫選ヲ命シ又ハ本山ノ特選ヲ以テ之ヲ任ス  
 第三條 組長ハ管事ノ監視ヲ承ケ法度教示及諸達示ヲ  
 組内ニ施行シ組内整理事務ヲ掌ル  
 第四條 組長ハ法度教示及諸達示ノ施行ニ付キ組内ノ  
 寺院僧侶ヲ指揮監督ス  
 第五條 組長ハ法度教示及諸達示又ハ管事ノ指揮ニ依  
 リ組内ニ令達ヲ發スルコトヲ得  
 第六條 組長ハ其職務ニアラサル事件ニ付キ職名ヲ以  
 テ組内ニ令達シ及組内僧侶ヲ指揮スルコトヲ得ス







庶務局庶務部・指令ヲ要スヘキ願伺之件 同文字同音通ノ組名ニ國郡名ヲ冠スル之件

付自今本山ニ進達スヘキモノ、外受理スヘカラス隨テ願書ハ官廳へ御添書願出候モノ、外一通ノミ可差出旨末寺一般ニ通達致スヘシ  
但シ組長ハ豫テ進達簿ヲ備置キ書面差出人ノ住所寺號住職(衆徒)氏名、受理及進達ノ年月日事件ノ概要許可未許可等決定ノ年月日願人へ還付ノ年月日等記入スヘキ事

○同文字同音通ノ組名ニ國郡名ヲ冠スル之件 (大正二年四月) (甲達第十二號)

全國各組中別記ノ通り同文字同音通又ハ類似名稱ノモノ有之取扱上誤謬ヲ生シ易キニ付自今組名ヲ單稱スル場合ニハ必ス國名ヲ冠シ何國何組又同國內ニ於テハ郡名ヲ冠シ何郡何組ト記入候様致スヘシ

(別記)

越前	長門	吉田	近江	筑前	野	洲	國名	組名	國名	組名
肥後	周防	前	出雲	筑後	江	野	播磨	越前	肥前	近江
但馬	防長	吉	雲	肥後	前	野	播磨	越前	肥前	近江
武藏	中	田	飯	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
播磨	須	田	石	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
豐後	洲	田	野	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
飛騨	須	田	野	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
播磨	洲	田	野	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
播磨	洲	田	野	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江
播磨	洲	田	野	播磨	江	野	播磨	越前	肥前	近江

○指令ヲ要スヘキ願、伺之件

(明治四十一年二月) (甲達第十一號)

指令ヲ要スヘキ願伺ハ自今必ス正副ニ通差出スヘシ若シ成規ニ違ヒ候節ハ縱令緊急事件タリトモ總テ指令ヲ與ヘサルニ付此旨相心得ヘシ

○組内協議會規程

(大正五年十二月) (甲教示第十八號) 改正 昭和七、五

第一條 各組ニ組内協議會ヲ設ク  
第二條 組内協議會ハ正副組長及協議員ヲ以テ組織ス  
第三條 協議員ハ其ノ定員ヲ二名以上八名以下トシ組内正副住職教會設教所設立者及擔任教師ノ互選ニ依

庶務局庶務部・同文字同音通ノ組名ニ國郡名ヲ冠スル之件 組内協議會規程

リ本山ノ認可ヲ得ルモノトス協議員ハ名譽職トス

- 第四條 左ノ一ニ當ル者ハ協議員タルコトヲ得ス
  - 一、輕懲戒以上處分中ノ者
  - 二、寺法第二十八條ノ趣意ニ戻ル者
  - 三、教區會又ハ組内協議會ノ議決ニ依リ負擔スヘキ所屬寺又ハ自己ノ義務ヲ全フセサル者
- 第五條 協議員ハ四年毎ニ一般改選シ其期日ハ達示ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 組内協議會ハ組長ノ召集ニ依リ左ノ事項ヲ議定ス
  - 一、組内ノ歳出入豫算
  - 二、組内費賦課徵收方法
  - 三、組内教學振起ノ方法
  - 四、本山ノ達示ニ依リ議定ヲ要スル事項
- 第七條 協議員ハ正當ノ理由ナクシテ召集ニ應セサルコトヲ得ス
- 第八條 組内協議會ハ組長ヲ以テ議長トス組長事故アルトキハ副組長議長ノ職務ヲ代理ス
- 第九條 組内協議會ノ議決ハ組長ヨリ管事ヲ經テ本山ニ伺出其指令ヲ得テ之ヲ施行ス

庶務局庶務部・各組成績審査手續 各組成績審査報告手續

○各組成績審査手續 (明治四十二年十月 甲達第四十一號)

改正 大正六、一

- 第一條 各組ノ成績ヲ審査スル爲ニ審査會ヲ設ク
- 第二條 毎年七月二十五日迄ニ前年度ノ成績ヲ審査スルモノトス
- 第三條 各組中優秀ノ成績ヲ示シタルモノニ對シ次年度ノ期間内御染筆旌表ヲ附與ス
- 第四條 審査會ハ左ノ委員ヲ以テ組織ス  
褒賞局長

執行所各部長

執行所贊事 若干名

- 第五條 審査會長ハ審査委員ノ互選トス
- 第六條 審査會ハ委員半数以上出席スルニアラサレハ成立セサルモノトス
- 第七條 審査會ノ議決ハ多數ヲ以テシ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第八條 審査會ノ議案ハ執行所庶務部ニ於テ左ノ事項

- 一、末寺教會及説教所布教ノ狀態

一、末寺子弟學事ノ狀態

- 一、講、社、會ノ狀態
- 一、佛敎講習會ノ狀態
- 一、公共事業ニ關スル件
- 一、懇志上納ニ關スル件
- 一、義務金ノ整理
- 一、組長事務ノ整理
- 一、賞罰ノ有無

○各組成績審査報告手續

(明治四十二年十月 所令第二十九號)

改正 昭和七、五

- 一、組長ハ末寺教會及説教所維持ノ現狀布教學事ノ狀態並ニ懇志上納、義務金整理等組内ニ於ケル諸般ノ事項ヲ遺漏ナク取調ヘ詳細ナル報告書ヲ

寺住職能ク其意ヲ體シ協同精勵ヲ以テ自治ノ實ヲ舉ケ  
ンコトヲ努ム可シ

○末寺財産保護條例 (明治四十四年五月 法度第六號)

改正 明治四五、七 大正 三、一、二  
大正 九、二 大正 一三、一、九

第一章 總 則

- 第一條 本山ハ本條例ニ依リ末寺所有ノ財産ヲ保護スルモノトス
- 第二條 本條例ニ於テ管理者ト稱スルハ別院ニアリテハ輪番 別格別院ニアリテハ住職若クハ監事、一般末寺ニアリテハ住職ヲ云ヒ干典者ト稱スルハ別院及別格別院ニアリテハ勘定員一般末寺ニアリテハ檀家總代ヲ云フ

第二章 財産管理

- 第三條 總テ末寺財産ハ必ス其寺名又ハ其代表者名義ヲ表示シテ所有シ私有ト混合スルコトヲ得ス

庶務局庶務部・各組成績審査報告手續 模範組旌表之件 末寺財産保護條例

○模範組旌表之件

(明治四十二年十月 訓告第十四號)

末 寺 一 般

夫レ一派集團ノ單位ハ各組ニシテ苟モ組長事務ノ振肅ヲ計ラズンハ以テ一派事務ノ整理ヲ期スル能ハス是レ我カ派内ニ於テ夙ニ立憲ノ制ヲ布キ地方自治ノ軌ヲ定メラレシ所以ナリ然ルニ各組ノ現狀ヲ鑑ルニ自治ノ實尙未タ舉ラサルモノアリ仍テ這般組長事務ノ振肅ヲ期シ自治ノ完成ヲ督勵センカ爲メ成績優秀ナル模範組ニ對シテ猥下御染筆ノ旌表ヲ附與セラル各組長ハ勿論各

- 作成シテ管事ヘ差出スヘシ
- 一、管事ハ前項ノ報告書ヲ精査シ更ニ添書ヲ附シ本山ヘ進達スヘシ
- 一、期限  
組長ヨリ管事ヘ差出ス期限 毎年四月二十五日  
管事ヨリ本山ヘ進達ノ期限 毎年五月二十五日

庶務局庶務部・末寺財産保護條例

第四條 末寺ハ左ノ諸件ヲ記載シタル財産目録及債務目録各二本ヲ作成シ管理者ヨリ干與者全員ノ連署ヲ以テ本山ニ差出シ本山ハ審査確定シタル後一本ハ本山ニ保管シ一本ハ返附シテ其寺ニ保有セシム

財産目録

- 一、法寶物及寶物 名稱、種類、數額
  - 二、什器、什物 同上
  - 三、本堂並ニ附屬建造物 所在地、棟數、坪數
  - 四、庫裡其他ノ建造物 同上
  - 五、境內 所在地、地種、坪數、地價
  - 六、墓 所在地、地種、坪數
  - 七、宅 所在地、坪數、地價
  - 八、耕地 所在地、種類、反別、地價
  - 九、森林、原野 同上
  - 十、基本現金又ハ有價證券 金額、種類、額面、時價
  - 十一、債權 名稱、價格、内容
  - 十二、其他ノ財産 同上
- 右第三目第四目ノ建物ノ平面圖ヲ配置セル第五目ノ境内地圖ヲ添付スヘシ

債務目録

- 一、債 務 名稱、種類、金額、利息、期間
  - 二、地上權、永小作權、地役權、質權又ハ抵當權ノ設定、同上
- 第五條 基本現金又ハ有價證券ハ管理者及干與者全員ノ名義ヲ以テ郵便局日本銀行又ハ確實ナル銀行ニ寄託スヘキモノトス但シ基本現金ハ管理者及干與者全員ノ責任ヲ以テ確實ナル擔保ヲ取り他ニ貸與利殖スルコトヲ得
- 前項ノ寄託又ハ貸與ヲ爲サントスルトキハ管理者ハ遲滞ナク干與者全員連署ヲ以テ本山ニ認可ヲ申請スヘシ
- 第六條 左記ノ事項ハ管理者ヨリ其事由ヲ記シタル書面ヲ以テ干與者全員ノ連署ノ上本山ニ其認可ヲ申請スヘキモノトシ本山ハ審査ノ上之カ許否ヲ決定ス
- 一、負擔附ノ寄附ヲ受クルコト
  - 二、財産ヲ處分スルコト但シ果實ノ處分ヲ除ク
  - 三、總テ債務ヲ起スコト
  - 四、其他財産狀態ニ重大ナル異動ヲ生スヘキ行爲ヲ爲スコト

庶務局庶務部・末寺財産保護條例

第三章 罰 則

第七條 末寺ハ其財産ヨリ生スル果實ニツイテハ管理者ハ干與者ト協議ノ上其使途ヲ定ムヘキモノトス

第八條 第四條ノ財産又ハ債務ニ増減、亡失、毀損其他異動ヲ生シタルトキハ管理者ハ遲滞ナク干與者全員連署ヲ以テ事由ヲ具シ本山ノ承認ヲ申請スヘキモノトス

第九條 本山ハ何時ニテモ末寺ノ財産狀態ヲ検査スルコトヲ得

第十條 管理ノ罷免、交代其他ノ場合ニ於テハ前任者ハ遲滞ナク干與者全員立會ノ上目録ニ照シ其財産及債務ヲ後任者ニ引渡シ後任者ハ之カ引繼ヲ受クヘシ但シ管理者死亡ノ場合ニ於テハ干與者ハ本條ニ準シテ之ヲ後任者ニ引繼クモノトス

後任者ニ於テ前項引繼ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク干與者全員連署ノ書面ヲ以テ本山ニ届出ヘシ

第十一條 第四條、第五條第二項、第八條及第十條第二項ノ場合ニ於テ干與者中故ナク其書面ニ連署ヲ拒ミタルトキハ管理者ハ他ノ干與者ノ連署ヲ以テ本山ニ其事由ヲ具申シ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 管理者ハ左ノ場合ニ於テ輕懲戒ニ處ス

- 一、第四條、第五條第二項、第八條、第十條第二項、第十一條ニ規定セル手續ヲ怠リタルトキ
- 二、第五條第一項ノ寄託ヲ怠リタルトキ
- 三、第十四條及第十五條ノ手續ヲ怠リタルトキ

第十三條 管理者ハ左ノ場合ニ於テ重懲戒ニ處ス

- 一、第三條ニ違反シタルトキ
- 二、本山ノ注意アルニ拘ハラズ本條例ニ依ル手續又ハ第五條第一項ノ寄託ヲ拒ミタルトキ
- 三、第六條ノ認可ヲ申請セサルトキ
- 四、第九條ノ検査ヲ拒ミタルトキ
- 五、第十條第一項ノ引渡ヲ拒ミタルトキ
- 六、總テ届出又ハ申請ニ關シ故意ヲ以テ不實ノ記載ヲナシタルトキ
- 七、故意又ハ重大ナル過失ニ因リ財産ヲ亡失又ハ毀損ニ至ラシメタルトキ

第十四條 從來寺有財産ヲ私有名義ヲ以テ所有スルモノハ大正十七年六月三十日マテニ寺有名義ニ訂正スヘシ

第四章 附 則

庶務局庶務部・末寺財產保護條例 末寺財產保護條例施行手續

第十五條 財產及債務目錄ハ大正十七年六月三十日現在ノ事項ヲ記入シ大正十八年六月三十日マテニ本山ニ差出スヘシ

第十六條 本條例ハ本山出張所、説教所、教會及講社ニ之ヲ準用ス

第十七條 干與者十名以上アル場合ハ代表者五名ヲ互選シ干與者全員ヲ代表シテ本條例規定ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○末寺財產保護條例施行手續

(明治四十四年七月甲達第三十一號)

第一條 本山出張所、説教所、教會及講社ニ於テ管理者ト稱スルハ擔任布教使管理者會長等ノ主幹者ヲ云ヒ干與者トハ信徒總代等所屬團體ノ總代トシテ届出

タルモノヲ云フ

第二條 末寺財產中不動産ニ關スル所有權其他ノ權利ニシテ未登記ノモノハ管理者ニ於テ遲滯ナク之カ登記ヲ爲スヘキモノトス

第三條 條例第十五條ニ規定セル期間前ト雖モ現在確定ノ財產及債務ニ對シテハ總テ條例ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

第四條 條例中ニ債務ト云フハ常例ノ法式普通ノ修繕及日常ノ生計費等ニ關スル債務ヲ包含セサルモノトス

第五條 條例第四條ノ財產目錄及債務目錄ハ別記第一號書式ニ第五條ノ申請ハ第二號書式ニ第六條ノ申請ハ第三號書式ニ第八條ノ申請ハ第四號書式ニ第十條ノ引續届書ハ第五號書式ニ第十一條ノ具申書ハ第六號書式ニ準據シテ作成スヘシ前記各號ノ書面ハ末寺ニアリテハ組長及管事ヲ經由シ別院及別格別院ニアリテハ直ニ本山ニ差出スヘシ

第六條 財產ヲ寺有名稱ニ變更ノ手續ヲ爲ス場合ニ限リ明治三十八年甲達第十五號ニ規定セル御添書願冥加金ヲ免除ス

庶務局庶務部・末寺財產保護條例施行手續

第七條 條例第五條及第六條第一號第二號並ニ第八條ニ關スル願記ノ取扱ニ限リ三季冥加並ニ教育補充費滯納ノ有無ニ拘ラス之ヲ受理ス

書式

(第一號書式)二通ヲ要ス

財產及債務ノ目錄書

(當別院寺等)所有ノ財產及債務(若シ債務ナキトキハ之カ記入ヲ要セス)ノ目錄左ノ通相違無之候也

財產目錄

- 一、法寶物及寶物 別表ノ如シ
- 二、什器 什物 別表ノ如シ
- 三、本堂並ニ附屬建造物 別表ノ如シ
- 四、庫裡其他建造物 別表ノ如シ
- 五、境內 地 別表ノ如シ
- 六、墓 地 別表ノ如シ
- 七、宅 地 別表ノ如シ
- 八、耕 地 別表ノ如シ
- 九、森林 原野 別表ノ如シ
- 十、基本現金又ハ有價證券金額、種類、額面、時價

十一、債權(例ヘハ貸金、立替金、貸貸權等ノ如ク凡テ他ニ對シ金錢物品ヲ請求シ得ヘキ權利ヲ云フ)名稱、價格内容

十二、其他ノ財產(例ヘハ他人ノ不動産ニ對シ有スル地上權、永小作權、質權、抵當權等其他前列記以外ノ凡テノ財產權ヲ云フ)同上

債務目錄(債務ナキトキハ債務ナシト記載スル事)

- 一、債務(例ヘハ借金預り金等ノ如ク凡テ他人ニ對シ支拂フヘキ義務)名稱、價格内容
- 二、債務(寺有ノ不動産其他ニ對シ寺カ他人ヨリ負擔セル義務)同上

年 月 日

住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事) 何 誰

同寺勘定員(或ハ檀家總代) 何 誰

(全員連署ノ事)

何組々長 何 誰

奥書 何 誰

庶務局庶務部・末寺財産保護條例施行手續

執行御中

(別院、別格別院ハ組長ノ奥書ヲ要セス以下同シ)

(用紙ハ美濃半紙ヲ用ヒ種類異ル毎ニ用紙ヲ改ムル事)

前卓	一	祖師前	一對
宮殿	一	御厨子	一

右ハ重要ナル品目ヲ記入スヘシ

法寶物		寶物	
名稱	員數	名稱	員數
御本尊	年月御下付	何々	員數
祖師御影	年月御下付	何々	員數
祖師御影	年月御下付	何々	員數

右ハ單ニ様式ヲ示シタルモノナレハ遺漏ナク記載スヘシ員數ノ欄ヘハ法寶物ニ限り御下付ノ年時ヲ記入スヘシ異動欄ハ後日ノ用ニ供スルモノナレハ唯其欄ヲ設ケ置クノミニテ記入スヘカラス以下同シ

什器		什物	
名稱	員數	名稱	員數
須彌壇	一	中尊前	一對

庶務局庶務部・末寺財産保護條例施行手續

何縣何郡	田	何反何畝步	何圓
何縣何郡	墓	何反何畝步	何圓

(第二號書式)二通ヲ要ス  
認可申請書

一、當(別院寺等)所有ノ基本現金全部何程(或ハ一部何程)ヲ郵便局或ハ何銀行ニ寄託スルコト  
一、當(別院寺等)所有ノ基本現金全部何程(或ハ一部何程)ヲ何々ノ方法(即チ期限、利息、擔保等ノ表示)ヲ以テ何住所何某ニ貸與スル事  
一、當(別院寺等)所有ノ有價證券何々ヲ郵便局或ハ何銀行ニ寄託スル事  
右御認可相成度申請候也  
年 月 日  
住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事)

同寺勘定員(或ハ檀家總代)  
何 誰  
何 誰

(全員連署ノ事)

地所		地價		異動事由	
所在番地	地目	反別	地價	異動事由	
何縣何郡	境内宅地	何反何畝步	何圓		

右ハ一例ヲ示セルモノナレハ土藏鐘樓等寺有建物ハ總テ記載スヘシ

執行御中  
認可申請書

(第三號書式)二通ヲ要ス

一、、、、(例ヘハ何々スル條件ヲ以テ何某ヨリ金何圓又ハ土地建物等ノ寄附ヲ受クルコト或ハ寺有財産何々ヲ賣却若クハ抵當ニ差入ル、コト若クハ何某ヨリ何々ノ方法ヲ以テ金何圓ヲ借入ル、コト等ノ如シ)  
右今回何々、、、ノ事由ニ基キ決行仕度候ニ付御認可相成度候也  
年 月 日  
住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事)

何 誰  
何 誰

何々組長  
何 誰

庶務局庶務部・末寺財産保護條例施行手續

執行御中

(第四號書式)二通ヲ要ス

承認申請書

一、當(別院寺等)ノ財産中又ハ債務中何々ノ理由ニ因リ左ノ如ク(増減、亡失、毀損又ハ異動)ヲ生シタルニ付御承認相成度申請候也

一、、、、、、、(即チ財産或ハ債務ノ増減、亡失、毀損又ハ異動ノ事實ヲ記載スルコト)

年月日

住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事)

何 誰印

同寺勘定員(或ハ檀家總代)

何 誰印

(全員連署ノ事)

何々組長

何 誰印

執行御中

(第五號書式)

引繼届書

一、當(別院寺等)前管理者何誰(罷免、交代若クハ

死亡)シタルニ付後任者タル拙者ハ左記ノ財産(及債務)ノ引繼ヲ相受候間干與者ノ連署ヲ以テ此段及御届候也

財産之部

- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、

債務之部

- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、
- 一、、、、、、、

年月日

住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事)

何 誰印

同寺勘定員(若クハ檀家總代)

何 誰印

(全員連署ノ事)

何々組長

何 誰印

奥書

庶務局庶務部・末寺財産保護條例施行手續 末寺基金獎勵規程

執行御中

(第六號書式)二通ヲ要ス

具申書

一、當(別院寺等)勘定員(若クハ檀家總代)何誰ハ別紙末寺財産保護條例第何條ノ申請書(若クハ届書)ニ何々ノ理由ヲ以テ連署ヲ拒ムニ付他ノ干與者ノ連署ヲ以テ申請(若クハ届出)致置候條相當ノ御指揮相成度候也

年月日

住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ監事)

何 誰印

同寺勘定員(或ハ檀家總代)

何 誰印

(承諾者ノミ連署ノ事)

何々組長

何 誰印

執行御中

奥書

○末寺基金獎勵規程 (昭和二年九月) (甲教示第二十二號)

第一條 末寺ハ末寺ノ教學及堂宇ノ維持發展ヲ期センカ爲メ相當ノ基金ヲ蓄積スヘシ

第二條 基金ハ確實ナル方法ニヨリ之ヲ蓄積シ其果實ヲ以テ用途ニ充ツヘシ

第三條 前條ノ基金獎勵ハ申請ニ依リ本山ヨリ使僧ヲ派遣スルコトアルヘシ

第四條 末寺基金寄附者ニ對シ申請ニヨリ本山ハ別表ニ准シ之ヲ表彰ス

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(別表)

表 彰 表		表 彰 種 別	
寄附金額	表 彰	乙種肩衣	着用許可
金拾圓以上	賞狀	甲種肩衣	着用許可
金五拾圓以上	賞狀	甲種肩衣	着用許可
金壹百圓以上	賞狀	甲種肩衣	着用許可

庶務局庶務部・末寺基金獎勵規程 寺院境內等書入質ニ關スル件

金參百圓以上	賞狀	甲種肩衣 着許可	第三種表裝 御眞筆版其他
金五百圓以上	賞狀	甲種肩衣 着許可	第二種表裝 御眞筆版其他
金壹千圓以上	賞狀	甲種肩衣 着許可	第一種表裝 御眞筆版其他

甲達第二號

末寺一般

曩ニ末寺基金獎勵規程發布相成候ニ就テハ末寺ニ於テ基金ヲ蓄積シ寄附者ノ表彰ヲ本山ニ申請ノ場合ハ左記各項記載庶務部へ願記提出スヘシ

昭和三年四月二十日 執行長 足利 瑞義

(左記)

- 一、現在基金ノ總額
- 一、基金蓄積方法及其果實ノ用途
- 一、基金寄附者ノ住所姓名並寄附金額
- 一、願記ニハ住職(又ハ兼務)檀家總代連署組長、管事與書ノ上提出ノコト

○寺院境內等書入質ニ關スル件

(明治二十三年十月) 乙達第六號

別紙ノ通內務省社寺局長ヨリ通牒相成候此旨爲心得各寺へ通達スヘシ

(別紙)

局第二號

寺院境內及ヒ庫裡書入質ノ儀ニ付京都府伺ニ對シ境內地及ヒ本堂庫裡ノ儀ハ法用ニ必要ナル箇處ニ付抵當不相成旨本月三日付ヲ以テ指令相成候條爲心得此段申進候也

明治二十三年八月十五日

社寺局長 國 重 正 文 圃

眞宗本願寺派管長大谷光尊殿

○末寺寺院地所建物保存規約

(明治十一年十二月) 乙第八十九號

今般末寺地所建物保存規約別紙之通取定候條此段相達候事

(別紙)

末寺寺院地所建物保存規約

本宗ノ寺院ハ從前世襲ノ風習ナルヲ以テ所有ノ地所建物等モ普通一般ノ寺院ニ同シカラサル者アリ假令ハ某寺ノ開基某ナル者私有ノ居宅ヲ以テ寺院ニ引直シ或ハ幾世前ノ住職私金ヲ以テ地所ヲ購求シテ某寺ヲ移シ爾來某子孫連綿相續住持シテ租稅ヲ納メ民費ヲ辨シ其建物モ本堂ハ共有ニ屬スト雖モ庫裡ハ固ヨリ住職或ハ祖先ノ私金ヲ以テ其居住ノ爲ニ建設スル者ニシテ某寺ニ寄附セシ確證ナク且ツ修繕モ全ク住職一己ノ資力ニ成リ嘗テ門徒ノ扶助ヲ請ハサルヲ以テ門徒モ亦其住職ノ所有タルヲ確認シ已ニ其地券モ住職某ノ名受ヲ以テシ純然タル私有ノ體裁ヲ爲ス者ノ如キ或ハ之ヲ入質賣却スルモ其所有者ノ自由ニ任セサルヲ得ス果シテ然ラハ其土地ヲ典シ其建物ヲ賣

庶務局庶務部・末寺寺院地所建物保存規約

リ遂ニ一寺ノ廢亡ヲ招致スル者ナキヲ保シ難シ或ハ又私有地ニ共有ノ建物アリ共有地ニ私有ノ建物アリテ其分界判然セサル類ノ如キ者亦少シトセス故ニ今派內限リ寺院地所建物保存申合規約ヲ設ケ後來紛爭廢亡ノ患ナカラシメントス即其條件左ノ如シ

第一條 官有地ノ建物ハ都テ共有タルヘシ

第二條 共有地ノ建物ハ亦其共有タル勿論ト雖隱居所茶室書齋物置等法要必需ノ都合ニアラスシテ全ク住職又ハ其祖先ノ私金ヲ以テ建設セシ向ハ借地ノ振合ニ準シ住職ト門徒トノ間ニ於テ約定書ヲ交換スヘシ

第三條 共有地ヲ他ノ人民へ貸與スルトキハ其期限及借地料ヲ詳記シタル約定書ヲ交換シ共有地全部ノ畫圖ヲ製シ貸與ノ分ハ朱引ニテ區劃シ一覽ニ便ナラシムヘシ但シ本條ノ約定書ニハ住職並ニ門徒總代二名以上連署シ借主ニ於テ確乎タル保證人ヲ立テ連署セシメ都テ市町村長ノ奥印ヲ請フヘシ

第四條 境內全分又ハ幾分他ノ借地ニ屬スル分ハ該借地證書へ住職檀家連署組長ノ奥印ヲ請置クヘシ但シ境內共有地貸地ノ分界ハ前條ノ如ク畫圖ヲ製シ置クヘシ

庶務局庶務部・末寺寺院地所建物保存規約

第五條 私有地ノ建物ハ其建築修繕ノ次第ヲ追テ共有  
特有ノ分界ヲ判スヘシ

第六條 私有地ニ設置スル共有ノ建物ハ住職ヨリ其敷  
地ヲ擅ニ典賣セサルヘク門徒ヨリハ其修理ヲ負擔ス  
ヘキ旨ヲ明記シタル約定書ヲ交換スヘシ

第七條 地所並ニ建物ノ内庫裡共スヘテ住職ノ私有ナ  
ル者ハ其住職ヨリ法類並ニ門徒ニ對シ擅ニ之ヲ典賣  
セス若シ止ムヲ得サル事故アリテ質入書入或ハ賣却  
セント欲スルトキハ必ス協議可致又若シ他姓ノ者其  
寺ノ後住職ナルトキハ其身或ハ相續人ヨリ相當ノ代  
價ヲ以テ讓リ渡スヘキ旨ヲ明記シ法類門徒ヨリ必ス  
讓リ受クヘキ旨ヲ記シタル約定書ヲ交換スヘシ但シ  
本條ノ約定ヲナス者ハ庫裡或ハ書院玄關等法要ノ需  
用ニ係ル建物ニ限ル儀ニ付其他私有ノ建物所謂隱居  
所茶室等ノ如キハ無論所有者ノ自由ニ任スヘシ

第八條 私有地ニ於テ住職或ハ其祖先一己ノ資力ヲ以  
テ建築シタル確證アリト雖モ左ニ掲載スル分ハ其建  
築シタル住職ヨリ該寺ヘ寄附ノ姿ヲナセシ者ナレハ  
舊教部省五年十一月第二十九號達書ニ準シ之ヲ共有  
物ト確定スヘシ

- 一、本堂
- 一、經藏
- 一、鐘樓
- 一、太鼓樓
- 一、表門
- 一、茶所
- 一、盥漱所

但シ本堂庫裡ヲ一棟内ニ合併シタル向モ本條ニ  
準スヘク建添ノ分ハ第五條ニ據ルヘシ

第九條 第二條第六條第七條ノ約定書ニハ必ス組長ノ  
奥印ヲ受クヘシ

第十條 前條各種ノ約定書ヲ交換セシトキハ其雙方約  
定書ノ寫ニ組長ノ奥書ヲ乞ヒ届出ハ本山執行所ニ限  
ルヘシ

第十一條 前條各種ノ約定書面ニハ雙方共ニ棟敷建坪  
ヲ詳記シ自後協議ノ上建添或ハ取毀チタルトキハ其  
事由ヲ裏書シ第九條ノ手續ヲ以テ其都度執行所或ハ  
其教區教務所ヘ届出ヘシ

第十二條 民有ノ境内地ニ第七條ニ掲ケタル所ノ建物  
ヲ質入又ハ賣渡等致度節ハ住職檀家協議連署ヲ以テ

○重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續

(大正十年九月  
甲達第二十四號)

今般重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續別記ノ通り改  
定ス

但シ赦免特免ニ係ルモノハ其都度發布ノ令ニ依ル

(別記)

罷教士處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復  
スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰ハ復舊セス

一、檢定又ハ認定ヲ要セスシテ教士ニ補セラレヘキ  
資格

右教士出願ノ場合ハ改メテ成規ノ薦舉狀ニ教會  
金ヲ添ヘ提出ノ事

免任職處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復  
スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰ハ復舊セス

一、前住職ノ資格  
右住職出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ繼席冥加ヲ添  
ヘ提出ノ事堂班衣體冥加ハ免除ス

○末寺本堂使用ニ關スル件

(明治四十三年十月  
訓告第五號)

本堂並ニ附屬建造物ハ宗教宣布ノ機關タルヤ勿論ニシ  
テ寺院ノ體面ヲ汚損スルカ如キハ堅ク之ヲ禁スル處ナ  
リト雖モ俗諺ノ教旨ヲ發揮スヘキ風教ノ開發産業ノ奨  
勵等有益ナル講演ノ爲ニハ之ヲ使用シ益々社會ニ貢獻  
センコトヲ期スヘシ特ニ訓告ス

本山ノ認可ヲ經地方廳ヘ申立ヘシ

庶務局庶務部・末寺本堂使用ニ關スル件 重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續



庶務局庶務部・重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續

新寺建立並ニ寺跡移轉規程

- 二、學階ヲ有セシ者ハ其學階ニ復ス
- 罷教師處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復スルモノトス
- 但シ從來受ケタル賞與恩典名譽ノ表彰並ニ學階ハ復舊セス
- 一、檢定又ハ認定ヲ要セスシテ教師又ハ準教師ニ補セラルヘキ資格
- 右教師又ハ準教師出願ノ場合ハ成規ノ薦舉狀ニ教會金ヲ添ヘ提出ノ事
- 二、住職タリシ者ハ前住職ノ資格
- 右住職出願ノ場合ハ免住職處分免除者同様手續ノ事
- 三、學階ヲ有セシ者ハ豫試本試殿試等ヲ要セスシテ從來ノ學階ヲ授與セラルヘキノ資格
- 右學階出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ學籍料ヲ添ヘ提出ノ事
- 賽度牒處分ヲ免除セラレタル者ハ改メテ得度式ヲ受ケタル後左ノ資格ニ復スルモノトス
- 但シ從來受ケタル賞與恩典名譽ノ表彰並ニ學階及法薙ハ復舊セス

- 一、試験ヲ要セスシテ得度式ヲ受クヘキ資格
- 右得度出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ冥加ヲ添ヘ提出ノ事
- 二、教師又ハ準教師並ニ住職及有階者タリシ者ハ罷教師處分免除者同様手續ノ事

○新寺建立並ニ寺跡移轉規程

(明治四十二年五月) (甲教示第十四號)

改正 昭和二、六

- 第一條 新寺ヲ建立シ又ハ寺跡ヲ移轉セント欲スル時ハ新建又ハ移轉豫定地ノ組内法類二名ノ連署ヲ要ス
- 第二條 左記ノ場合ニハ前條ノ例ニ依ラス本山ハ其新建若クハ移轉ヲ許可ス
- 一、山間原野島嶼等交通隔絶セル所
- 二、新移民地

○新寺ハ平僧地タルヘキ件

(明治十五年八月) (甲達第二十九號)

新寺建立及説教所等一寺ニ引直シ相成候向ハ都テ平僧地ニ取扱候條此旨相違候事 (附記 新寺住職等衣體ノ件衣體部ニアリ)

- 三、本山ニ於テ必要ト認ムル場所
- 第三條 新建又ハ移轉ニ關シテハ動産不動産等ヨリ生スル資金其寺院ノ經濟ヲ支持スルニ足ルヘキ方法ノ確立ヲ要ス
- 第四條 寺院ノ敷地及建物ハ必ス寺有トスヘシ
- 第五條 移轉ニ付テハ從來ノ敷地建物及寺有財産ヲ減縮スルヲ許サス
- 第六條 本件ニ關スル願記ハ組長(第二條ノ場合ヲ除ク)管事ヲ經由シ兩組又ハ兩教區ニ互ル時ハ關係組長及管事ノ奥印ヲ要ス
- 第七條 相當ノ理由ナクシテ第一條又ハ第六條ノ調印ヲナサ、ルトキハ執行ハ調査ノ上直ニ許否ヲ決定ス

○教會規程 (昭和七年五月) (法度第四號)

- 第一條 本規程ニ於テ教會トハ文部省神佛道教會所規程ニ據ルモノニシテ第二條ノ條件ヲ具備シ本山ノ認可ヲ得タルモノヲ謂フ
- 第二條 教會ノ設立ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一、寺院僅少又ハ人家稠密ノ都市若クハ新開地
- 二、建物及ヒ敷地ハ維持財團ノ所有又ハ相當ノ久シキ期間ニ互リ使用權ヲ有スルモノナルコト

庶務局庶務部・新寺建立並ニ寺跡移轉規程 新寺ハ平僧地タルヘキ件 教會規程

庶務局庶務部・教會規程 說教所規程

三、教會維持ノ爲メ繼續シテ會費ヲ負擔スル會員ノ數本山ニ於テ相當ト認メタルモノナルコト  
 本山ニ於テ設立スル場合ハ前項規定ノ限ニアラス  
 第三條 教會ニハ願ニ依リ堂班ヲ許可ス  
 第四條 堂班ヲ許可セラレタル教會ノ設立者及ヒ擔當ノ教師ニハ願ニ依リ其教會ニ許可セラレタル堂班衣體ノ着用ヲ許ス  
 第五條 第二條ノ條件ヲ變更セントスルトキハ本山ノ認可ヲ受クヘシ  
 附 則  
 本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○說教所規程 (昭和二年六月 甲教示第十八號)

第一條 說教所ハ寺院僅少又ハ人家稠密ノ都市若クハ新開地ニシテ宗教宣布ノ必要ヲ認メタルトキ其ノ設

置ヲ許可ス

第二條 派内教師ニシテ說教所ヲ設立セントスルトキハ省令並ニ府縣令ノ規定ニ基キ別規書式ヲ整ヘ管長ノ添書ヲ願ヒ出ツヘシ  
 但シ本山ニ於テ設立ノ必要ヲ認メタルトキハ此ノ限リニアラス  
 第三條 御添書願ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ  
 一、敷地見取圖建物平面圖及其ノ坪數  
 一、附近地域ノ寺院及說教所分布地圖  
 一、地所建物ノ賣買貸借ニカ、ル場合ハ其ノ契約書  
 第四條 官廳ヨリ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ組長管事ヲ經由ノ上届出ツヘシ  
 第五條 說教所ニハ監督官廳ノ規定ニ準シ諸帳簿及布教日誌ヲ備付クヘシ  
 第六條 說教所ハ毎月必ス五日以上ノ常例布教ヲ開設スヘシ  
 布教使姓名開座年月日其他特ニ記入スヘキ件ハ布教日誌ニ記載スヘシ  
 第七條 說教所ノ擔任教師ハ本派教師又ハ準教師ニ限ル

第八條 擔任教師ハ宗派立說教所ニアリテハ執行直ニ之ヲ任免シ私立說教所ニアリテハ申請ニヨリ執行之ヲ任免ス

但シ場合ニヨリテハ執行直ニ任免ヲ行フコトアルヘシ

第九條 擔任教師ノ申請ハ設立者ニ於テ信徒總代ノ同意ヲ得テ願書ヲ提出スヘシ  
 但シ信徒總代ナキモノハ此ノ限ニアラス

第十條 信徒總代ヲ置ク場合ハ信徒中ヨリ二名以上ヲ選舉シ市町村長ニ届出テ其ノ證明書ヲ添付シテ執行ニ届出ツヘシ

信徒總代ノ任期ヲ三年トス

第十一條 說教所移轉廢合修繕及財産ノ移動等ニツイテハ執行ノ認可ヲ得テ監督官廳ニ其ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 組長管事ニシテ願書ノ奥印ヲ爲サル、トキハ其ノ事由ヲ具シ執行ニ進達スヘシ執行ハ調査ノ上直ニ許可ヲ決ス

第十三條 布教ヲ目的トスル會館等ノ設立ニハ本規定ヲ準用ス

庶務局庶務部・說教所規程

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(別記)

說教所設立御添書願

(一通) (美濃罫紙ノコト)

今般開法上ノ便宜ニ依リ別紙ノ通說教所設立ノ儀出願致度候ニ付御審査ノ上御差支無之候ハ、御添書御下附被成下度此段奉願候也

年 月 日

府縣郡村番地

何組何寺住職又ハ衆徒(教師)

設立願主	姓	名
------	---	---

府縣郡村番地	姓	名
--------	---	---

府縣郡村番地	姓	名
--------	---	---

信徒總代	姓	名
------	---	---

信徒總代	姓	名
------	---	---

信徒總代ハ二名以上連署ノコト信徒總代ニシテ寄留者ハ本籍寄留籍ヲ併記スヘシ  
 但シ信徒總代ナキ場合ハ此ニ代ルヘキ者二名以上連署スヘシ

庶務局庶務部・説教所規程

組長管事與書ノコト

本山執行御中

注意 一、境内見取圖並ニ建物平面圖

一、附近地域ノ寺院及説教所分布地圖

一、地所建物ノ賣買貸借ニカ、ル場合ハ其ノ契約書

右添付スヘシ

眞宗本願寺派説教所設立願

(正副二通) (美濃野紙ノコト)

今般開法上ノ便宜ヲ以テ左記事項ニ據リ説教所設立致度候ニ付御許可被成下度關係書類並ニ管長ノ添書相添ヘ此段奉願候也

- 一、名 稱 何々説教所
- 二、所 在 地 府縣郡町村番地
- 三、所 屬 宗 派 眞宗本願寺派
- 四、安置佛ノ稱號 本尊阿彌陀如來
- 五、擔任教師ノ氏名及資格 府縣郡町村何寺住職又ハ衆徒(教師) 履歷書戶籍謄本及身元證明書添付
- 六、設立費用及其ノ支辨方法

設立ノ費用……其ノ支辨方法ヲ記スヘシ

七、管理及維持ノ方法

維持金ノ果實又ハ其他ノ收入ヲ以テ別紙豫算書(收支共明記ノコト)ニ基キテ之ヲ維持シ管理ハ設立者(又ハ擔任教師)其ノ責ニ任ス

八、役員又ハ信徒總代ヲ設クルモノニ付テハ其ノ人員職務並ニ選定方法

役員及信徒總代ノ員數其選定方法並ニ其ノ職務九、其他當該府縣令ノ定メタル事項ヲ記載スヘシ

年 月 日

府縣郡村番地

眞宗本願寺派何寺住職又ハ衆徒(教師)

設立願主 姓 名

府縣郡村番地 信徒總代 姓 名

府縣郡村番地 信徒總代 姓 名

府縣郡村番地 信徒總代 姓 名

府縣郡村番地 信徒總代 姓 名

信徒總代ナキ場合ハ此ニ代ルヘキモノ二名

以上連署スヘシ

何府縣知事何某殿

御 届 (一通)

何年何月何日ヲ以テ出願致候設立願ノ件別紙ノ通り御許可相成候ニ付御記録ヘ御記入被成下度

指令本紙並ニ寫相添ヘ此段御届申上候也

府縣郡村番地

何組何寺住職又ハ衆徒(教師)

年 月 日 設立願主 姓 名

本山執行御中

右ニ對スル指令

説教所ニ於テ葬儀執行ノ儀ハ明治十四年内務省達戌第三號ヲ以テ禁セラレタリシモ同十八年社寺局通牒第百二號ヲ以テ左記ノ通り通知アリシヲ以テ葬儀ヲ執行スルモ差支ナシ

府 縣

昨十七年太政官第二十五號ヲ以テ墓地及ヒ埋葬取締規則布達相成候處神佛敎院敎會所説教所等ハ規則第六條家屋構内ニ合蓄シタル儀ト御心得可有之此段申進候也

(參照)

墓地及埋葬取締規則抄

(明治十七年十月四日) 太政官布達第廿五號

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

○説教所ニ於テ葬儀執行之件

(明治四十五年六月) 伺 指 令

説教所ニ於テ葬儀執行ニ關スル伺書ニ對シ指令左ノ如シ

御 伺

説教所ニ於テ葬儀ヲ執行スルモ差支無キヤノ件

庶務局庶務部・説教所規程 説教所ニ於テ葬儀執行之件

庶務局庶務部・說教所並教師私宅ト寺院ト區別之件 堂宇改築ニ付心得之件

○說教所並教師私宅ト寺院ト區別之件

(明治二十八年四月 甲達第九號)

今般社甲第六號ヲ以テ教院教會所又ハ說教所ニ於テ其祭神若クハ安置佛ノ爲メニスル場合ノ外ハ祭典法要ヲ執行スルコトヲ得ス且其祭典法要ノ時タルト平時タルトヲ問ハス社寺及祠宇ニ類似スル裝飾ヲ爲シ衆庶ヲ參拜セシムル等ハ不相成儀ニ有之又教師ハ教院教會所又ハ說教所ニ居住スルモノ、外ハ自宅ニ多衆ヲ集メ說教ヲ爲スヲ得サル旨社寺局長ヨリ通牒之有候ニ付寺院ト說教所ト教師ノ自宅トノ區別ヲ堅ク相辨ヘ必ス之ヲ混同ノ所爲有之間敷尤モ信徒ノ招請ニ依リ人民ノ家屋等ニ於テ一時說教修行致候儀ハ明治二十四年内務省訓第八九四號之通ニ候條此旨相心得ヘシ

○堂宇改築ニ付心得之件

(明治四十二年八月 訓告第十號)

輓近交通機關ノ發達ニ隨ヒ各地方ノ盛衰變遷ハ從來寺院分布ノ形勢ト自ラ其狀態ヲ異ニスルニ至レリ依テ各末寺ニ於テハ今後堂宇ノ改築ヲ爲サントスル際徒ニ舊慣ニ泥マス偏重ヲ避ケ特ニ地ノ利ヲ選ヒ以テ將來ノ教勢發展ト經營維持トノ便宜ヲ謀リ一層布教機關ノ功用ヲ増大セシムヘキ様注意スヘシ 右特ニ訓告ス

○寺院合併ニ付心得之件

(明治四十年二月 訓告第一號)

昨年勅令第二百二十號發布ニ付微力少檀ノ寺院ハ往々之ヲ以テ口實トシ或ハ強迫或ハ阿諛種々ノ術策ヲ弄シ

自家へ轉檀ヲ勸誘致者有之哉ニ相聞エ候處右ハ派内ノ和合ヲ破リ鬪鬪ノ端ヲ啓ク儀ニ有之候條萬一斯ノ如キ行爲有之候時ハ屹度處分ニ及フヘク此段訓告ス

(參照)

勅令第二百二十號(明治三十九年八月九日發布)

神社寺院佛堂ノ合併ニ因リ不用ニ歸シタル境内官有地ハ官有財産管理上必要ノモノヲ除クノ外内務大臣ニ於テ之ヲ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與スルコトヲ得

○勅令社寺合併ニ關スル訓告之件

(明治四十年三月 訓告第二號)

過般勅令第二百二十號ヲ以テ社寺合併跡地讓與ノ件發布相成候ニ付テハ派内寺院ニアリテモ往々皆越テ誤解シ種々疑懼ヲ抱キ候向モ之有哉ニ相聞エ候處右ハ寺院

庶務局庶務部・寺院合併ニ付心得之件 勅令社寺合併ニ關スル訓告之件

中境内荒廢シ堂宇頽破シ勤行法要等行ハレスシテ僅ニ其名ヲ存スルニ過キス畢竟少檀微力ニシテ維持ニ困難ヲ極ムルカ如キハ適宜寺院ヲ合併シ以テ實力ヲ鞏固ニシ永ク其ノ基礎ヲ確實ナラシメントノ主意ニ外ナラス固ヨリ信教自由ノ今日恣ニ宗教ノ迫害ヲ企テ其勢力ヲ殺滅セントセラル、カ如キ所以ニ非サルハ當時宗教局長カ各地方長官及各宗派管長へ與ヘラレタル傳達ニヨリテ明カナリ、然レハ各地方廳ニ於テモ勅令ノ旨趣ヲ體シ周密ノ注意ニヨリテ夫々整理ノ方法ヲ獎勵シ壓制ケ間數干涉ニ出テラレサルヘク候條各寺院ニ於テモ宜シク勅令ノ旨趣ニ遵ヒ或ハ堂宇頽破シ容易ニ復舊ノ見込ナキモノ或ハ住職若クハ兼務住職ヲ得サル無住寺院ニシテ法務ヲ執行ヒ能ハサルモノ或ハ少檀若クハ無資力ノ爲メ維持困難ニシテ寺院ノ尊嚴ヲ保チ難ク却テ信徒ノ敬仰ヲ薄フスルモノ、如キハ此際一時ノ感情ニ制セラレ、コトナク夫々最寄寺院相互熟議ノ上合併ノ方法ヲ講シ檀信徒ノ數ヲ合シ實力ヲ確實ニシ以テ教義宣布確實ヲ舉クヘシ抑モ寺院ハ多ク累世ノ歴史ヲ有シ地方信徒祖承ノ靈場ナリ依リテ以テ門徒求道ノ標的トシ地方傳道ノ根據タルヘキモノナレハ苟クモ維持ノ方

庶務局庶務部・勅令社寺合併ニ關スル訓告之件  
特別保護建造物及國寶監守ノ件  
此段申進候也  
明治三十九年八月十一日  
宗教局長 斯波淳六郎  
眞宗本願寺派管長伯爵大谷光瑞殿

(參照)

內務省宗甲第二二號  
今般勅令第二百二十號ヲ以テ社寺合併跡地讓與ノ件  
發布相成候處右ハ寺院中境內荒廢シ堂宇頽破シ勤行  
法要亦行ハレスシテ僅ニ其名ヲ存スルニ過キサレモ  
ノ洵ニ少シトナサス如此ハ畢竟少權微力ニシテ維持  
困難ヲ極ムルノ致ス所ト被認候就テハ此等寺院ハ可  
成合併セシメ寺院ノ資力ヲ鞏固ナラシムルト共ニ其  
實ヲ舉ケシムルノ趣旨ヲ以テ右勅令發布相成タル儀  
ニ候條此趣旨ヲ體シ貴宗派内各寺院中簡擇淘汰スヘ  
キモノ有之ニ於テハ夫々整理ノ途ヲ講シ關係者ヲシ  
テ合併ノ儀出願セシムル様御處理相成ヘク殊ニ讓與  
ヲ受ケタル跡地ニ付テハ右下付ノ趣旨ニ戻ラサル様  
保存管理ノ途ヲ立テシムル様嚴重御取締可相成依命  
スヘシ

○特別保護建造物及國寶監守ノ件

(明治三十五年四月  
甲達第二二號)

今般內務省宗教局長ヨリ別紙ノ通明治三十年法律第四  
十九號古社寺保存法ニ依ル特別保護建造物及國寶ニ指  
定セル物件ノ監守方ニ關シ通牒相成候處右監守ノ任務  
ヲ有スル各寺住職ニ於テハ決シテ粗略ノ儀無之管ニ候  
ヘ共萬一不都合有之候テハ各寺ノ不幸ハ勿論國家ニ對  
シテ相濟マサル次第ニ有之候條一層注意ヲ加ヘ候様致  
スヘシ

(別紙)

宗甲第四號ノ内明治三十年法律第四十九號古社寺保  
存法ニ依リ特別保護建造物及國寶ニ指定セル物件ノ  
監守方ニ關シ別紙ノ通地方長官ヘ通牒相成候ニ付其  
宗派ニ於テ該物件ヲ有スル寺院ニ對シ相當注意相成  
度命ニ依リ此段申進候也  
明治三十五年三月十四日  
內務省宗教局長 斯波淳六郎  
眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊殿

宗甲第四號

明治三十年法律第四十九號古社寺保存法ニ依リ神職  
若クハ住職ニ於テ之ヲ監守スヘキモノナリ而シテ監  
守者ノ怠慢ニ由リ該物件ヲ亡失毀損セシメタルトキ  
ハ神職住職ハ其神社寺院ノ管理者トシテ其責ヲ免カ  
レサルハ勿論同法ニ依リテ處罰セラルヘキカ故ニ監  
守者ハ平素之ヲ監守スルニ就キ相當注意ヲ怠ラサル  
ヘシト雖モ該法發布以來漸ク年ヲ重ヌルニ從ヒ自然  
監守ヲ疎略ニスルモノナキヲ保シ難シ如此ニシテ若  
シ該物件ヲ亡失毀損スルカ如キコトアリテハ監守者  
ノ責任如何ニ關セス其神社寺院ニ在テハ傳來ノ由緒  
庶務局庶務部・特別保護建造物及國寶監守之件

○火災防備ニ關シ內務省通牒之件

(明治四十二年五月  
訓告第九號)

今般宗教局長ヨリ別記ノ通り通牒相成候處豫テ各末寺  
ニ於テハ嚴重ノ防備可有之候ヘトモ近時名藍巨利ノ火  
災ニ罹ルモノ不少就テハ大ニ警戒ヲ加フヘキ儀ニ候條  
災害豫防ノ取締方一層行届候様致スヘシ  
火災防備ニ關シ內務省通牒之件

面目ヲ失フノミナラス皇國ノ歴史美術ノ資料ヲ減損  
スルニ至リ不都合ノ儀ニ候條豫テ特別保護建造物及  
國寶ヲ有スル神社寺院ニ訓示シ監守上遺憾ナキ様特  
ニ注意警戒セシメラレ度命ニ依リ此段申進候也  
明治三十五年三月十四日  
內務省宗教局長 斯波淳六郎  
內務省神社局長 櫻井 勉  
眞宗本願寺派管長大谷光尊殿

庶務局庶務部・火災防備ニ關シ内務省通牒之件

右特ニ訓告ス

(別記)

内務省宗甲第七號

近時名蓋巨刹ノ火災ニ罹ルモノ往々有之管ニ殿堂ノ莊嚴ヲ害フノミナラス所藏ノ寶物什器等ヲモ毀損滅失シ爲ニ信仰ノ的標及ヒ史徵ノ資料美術ノ型範ヲ失ヒ誠ニ遺憾ノ至ニ存候寺院ノ災害豫防方ニ付テハ從來其監督手續等ヲ定メ夫々訓達相成居候事ト被存候モ此際尙ホ左記事項ヲ參酌シ貴宗派内一般寺院ニ對シ災害豫防ノ取締方一層行届候様御戒諭相成度依命此段申進候也

明治四十二年五月十九日

内務省宗教局長 斯波淳六 郎 閣

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光瑞 殿

- 一、内外ノ巡警ヲ怠ラサル事
- 一、建物内及ヒ之ニ接近シタル場所ニ於テ漫ニ喫煙、焚火等ヲ爲サ、ルハ勿論燈明等ハ出來得ル丈危険防止ニ注意スル事
- 一、床下線下ヲ清掃ニシ漫ニ出入シ得サル等適當ノ設備ヲ爲ス事

○所有山林處分ニ關シ管長ノ添書ヲ要ス

ル件 (明治三十六年九月 甲達第三十八號)

末寺所有ノ動不動産物賣買ニ就テハ管長ノ添書ヲ請受ケ地方廳ノ認可ヲ經ヘキ義ニシテ國有土地森林原野下戻法ニ依リ其下戻ヲ受ケタル山林ト雖モ同様前記手續ヲ以テ其筋ノ許可ヲ經ヘキ義ハ豫テ領承ノ事ニ可有之候得共別紙宗教局長ノ通牒モ有之心得違無之様十分注意致スヘシ

(別紙)

宗甲第二三號

寺ニ於テ其所有山林ヲ處分スル場合ハ其土地タルト又ハ立木ノミナルトヲ問ハス共ニ明治六年太政官布告第二百四十九號同九年教部省第三號達及同十二年七月本省乙達第三十九號但書等ニ依リ豫メ地方廳ノ認可ヲ受ケヘキハ勿論ノ義ニ有之候然ルニ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニヨリ山林ノ下戻ヲ受ケタル寺ニシテ右地方廳認可ノ手續ヲ經ス擅ニ處分スルモノ有之哉ニ聞エ候如此ハ獨リ該下戻法制定ノ精神ニ戻リ寺永遠ノ利益ヲ損スルノ

庶務局庶務部・所有山林處分ニ關シ管長ノ添書ヲ要スル件 寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件

- 一、藁、古木等燃質物ハ適當ノ設備アル場所ニ藏シテ決シテ床下線下等ニ藏置セサル事
- 一、什寶物ハ可成不燃質物ヲ以テ構造セル容器又ハ建物ニ藏置スル事
- 一、消火栓、消火器、唧筒ヲ備フル等適當ノ設備ヲ爲ス事
- 一、再建、増築、修繕ノ場合ニ於テハ其設計ハ可成火災豫防ノ點ニ注意シ平素火ヲ要スル場所ハ特ニ嚴重ナル設備ヲ爲シ又ハ建物ノ周圍ニ適當ノ空地ヲ存スル等注意スヘキ事
- 一、豫メ防火ノ爲メ樹木ヲ植栽シ若クハ牆壁ヲ設クル事
- 一、驅付人夫ヲ設ケ置ク事
- 一、火災保險ニ加入シ置ク等豫メ救済ノ方法ヲ講スル事

一、驅付人夫ヲ設ケ置ク事

一、火災保險ニ加入シ置ク等豫メ救済ノ方法ヲ講スル事

虞アルノミナラス法規ノ規定ニ違反スルモノニシテ住職ノ職責上不問ニ付シ難キ筋ニ有之候條其宗派内寺院住職ニ對シ心得違無之様嚴重注意ヲ加ヘ且ツ如上ノ行爲アルモノニ對シテハ相當處分可相成命ニ依リ此段申進候也

明治三十六年八月二十日

内務省宗教局長 斯波淳六 郎 閣

眞宗本願寺派管長大谷光瑞 殿

○寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件

(明治三十三年九月 甲達第二十二號)

別記之通内務省宗教警保兩局長ヨリ通牒有之候條爲心得相達ス

(別記) 管甲第四五號

庶務局庶務部・所有山林處分ニ關シ管長ノ添書ヲ要スル件 寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件

庶務局庶務部・寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件 無住寺院整理ニ關スル件其一 其二

本年八月内務省令第三十八號發布相成候處寺院ノ檀信徒教會信徒等ニモ任意申合セ寄附ヲ爲シ其間勸募ト認ムヘキ行爲ナキモノハ該省令ニ關係無之筋ニ候處往々疑義有之哉ニモ相聞エ候ニ付爲御心得此段及通牒候也

明治三十三年九月十二日

内務省宗敎局長 斯波 淳 六郎 團  
内務省警保局長 安 樂 兼 道 團  
眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊殿

リシモ爾來尙ホ其運ヒニ至ラス或ハ名義ノミノ兼務ヲ置キ甚シキハ前住死亡後成規ノ時日ヲ經過シ未タ後任ノ選定ヲナサ、ルカ如キモノ有之整理ノ實績甚タ完全ナルヲ得ス若シ夫レ此ノ如クニシテ荏苒年月ヲ送ラハ茲ニ大法ノ陵夷ヲ見ルノ外ナカルヘシ當該寺院門信徒ハ勿論地方在職ノ者並ニ法類寺院ハ之ニ協力シテ速ニ專務住職ヲ選定シ一寺院ノ實質ヲ具備セシメ以テ法運ノ發展ニ貢獻スヘシ  
右訓告ス

○無住寺院整理ニ關スル件(大正二年八月)

其一

去ル明治四十三年訓告第三號ヲ以テ派内寺院ニシテ專務住職ヲ有セサル向ニ對シ適當ノ住職候補者ヲ定メ以テ地方門信徒教導ノ實ヲ完カラシムヘク懇諭スル處ア

其二(大正二年八月)

(所令第二十四號)

各探訪使探訪副使  
各正副組長  
派内寺院ニシテ專務ノ住職ヲ有セサル者有之該寺門徒ノ教導全カラス寺院ノ維持マタ安固ナラサルノミナラ

○住職死亡及退職ノ節六十日以内ニ後任

者出願之件(明治二十四年八月)

(乙達第六號)

各府縣正副組長

一寺住職退職又ハ死亡候節ハ直ニ後任職選舉可致之處往々等閑ニ致置候向モ有之不都合不尠候條現今無住ノ向ハ勿論今後住職退職又ハ死亡候節ハ六十日以内ニ必ス後任職又ハ兼務人ヲ選定シ成規ノ通出願候條可取計若シ期限内ニ選舉難致事故有之候節ハ其旨具申スヘシ

○死亡又ハ失踪等届出之件

(大正五年十二月)

(甲達第二十九號)

死亡又ハ失踪等ノ届出ニ關シテハ明治四十二年甲達第四十七號ヲ以テ相達置候ニモ拘ラス尙其手續ヲ怠ル者住職死亡及退職ノ節六十日以内ニ後任者出願之件

ス爲メニ宗派ノ實力ヲ減殺スルモノ少カラス宗運ノ擴張ニ全力ヲ盡サ、ルヘカラサル今日却テ此缺陷ノ所在各地ニ見ルハ眞ニ遺憾ノ至リナリ探訪使並ニ組長ハ當該寺院ヲシテ法門護持ノ赤誠ヨリ速ニ相當住職ヲ選定セシムヘシ若シ當該寺院ニシテ其ノ運ヒヲ爲ス能ハサルモノアラハ組内法類ヲシテ力ヲ協ハセ以テ一日モ早ク此缺陷ヲ補フヘシ本山モ亦進ンテ之カ補填ヲ計リ施設ヲ講スヘシ夫レ少檀無祿ニシテ堂宇ノ再建若クハ將來ノ維持上到底其ノ方法ヲ講シ得サルモノ、如キハ寧ロ移轉廢合ノ手續ヲ用キテ寺院分布ノ宜キヲ得セシムルヲ可トス此ノ如クニシテ派内ニ專務住職ヲ有セサル寺院全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至ラハ宗門ノ實力是レヨリ初メテ充填ヲ圖ルヲ得ヘキナリ各職須ラク此意ヲ體シテ寺院整理ノ實績ヲ舉ケラルヘシ

庶務局庶務部・無住寺院整理ニ關スル件其二  
死亡又ハ失踪等届出之件

庶務局庶務部・死亡又ハ失踪等届出之件 僧侶歸俗出願之手續 副住職辭退者資格之件

往々有之御記録並ニ忌納義務金ノ整理上支障不尠候條  
自今死亡又ハ失踪等事件發生後一ヶ月内ニ届出ヲ爲サ  
ル向ハ御記録削除ノ手續ヲ了スル迄ノ義務金ヲ納付  
スヘキ儀ト心得ヘシ

但シ既ニ死亡又ハ失踪等ニシテ手續未了ノ向ハ別記  
ノ書式ニ依リ來ル大正六年二月末日迄ニ届出ル者ニ  
限リ御記録ヲ訂正シ死亡又ハ失踪等事件發生後ノ義  
務金ヲ免除ス

ナレハ職業證明書ヲ添付スヘシ  
一、冥加金參拾圓上納スヘシ

○副住職辭退者資格之件

(明治十五年二月  
甲 第四號)

副住職ヲ辭退シ住職繼席不致者ハ衆徒ト可相心得此段  
相違候事

○僧侶歸俗出願之手續 (明治四十三年一月  
甲 達 第一號)

自今派内僧侶ニシテ歸俗出願致候者ハ左記各項ノ手續  
致スヘシ

- 一、本人、所屬寺住職、法類連署ヲ要ス
- 一、組長ヲ經由スヘシ
- 一、歸俗ノ理由病氣ナレハ醫師ノ診斷書俗務ニ從事

○兼務人承諾書之件 (明治十四年一月  
達 書 第三號)

各府縣下

末寺 僧侶 中

自今兼務住職出願ノ節ハ本願ノ外ニ兼務スヘキ本人ノ  
承諾書相添可申出此段相違候事

書出願スヘキ儀ト相心得ヘシ

○得度試驗項目之件 (明治十九年三月  
甲 達 第八號)

今般寺法細則施行ニ付得度出願之向ハ派内敎校一ヶ年  
已上入學ノ證書該校ニ於テ申受可差出尙試驗項目之儀  
左之通相定候條此段相違候事

得度試驗項目

- 一、七祖聖敎 句讀
- 一、領解文 講案

○所屬寺轉換度牒裏書之件

(明治三十年九月  
甲 達 第三十九號)

從來本派僧侶ニシテ其所屬寺ヲ離レ他寺ノ住職又ハ副  
住職ト爲ル場合ニハ別ニ所屬寺轉換願ノ手續ヲ運ハシ  
メ候慣例ニ有之候處自今右轉換願ノ手續ヲ要セスシテ  
直ニ度牒ニ裏書ヲ與フヘク候間住職出願ノ際必ス度牒  
ヲ添テ差出スヘシ

但シ本山ノ特選ニ係ル正副住職ハ拜命後直ニ度牒裏

庶務局庶務部・兼務人承諾書之件 所屬寺轉換度牒裏書之件 得度試驗項目之件



庶務局庶務部・得度試驗之件 得度御式定日之件 一字名改名之件 一字名改稱ニ付改名願之件

○得度試驗之件 (明治三十九年二月 乙達第十八號)

從來各教區管事へ委任セシ得度試驗事務ハ本年四月一日以後各組組長へ委任候試驗ヲ要スル得度願人ハ同日以後組長事務所ニ於テ受験スヘシ 但シ願人ノ志望ニ依リ本山ニ於テ受験スルコトヲ得

○得度御式定日之件 (明治三十七年二月 告示第五號)

改正 大正一〇、八

自今得度御式日左ノ通定メラル

- 一、御式日ハ二、三、四、五、六、八、九、十一、十二ノ各月ハ十六日ニシテ十月ハ十八日ナリ、一月、七月ハ行ハセラレス

○一字名改名之件 (明治二十六年七月 甲達第十三號)

從來僧侶中一字名相稱へ候者往々有之候處右ハ集會ヨリ建議ノ次第モ有之候條今後二字名ニ改メ本山ノ御添書申請ケ所轄廳へ改名願出聽許ノ上ハ其證相添へ速ニ本山ノ記録訂正ノ儀出願致スヘシ

○一字名改稱ニ付改名願之件

(明治二十六年七月 甲達第七五號)

今度甲達第十三號ヲ以テ相違シ候一字名相稱へ候モノ改名ノ儀本山へ添書下附願出候向ハ別ニ左ノ書式ノ願書相添へ出願致スヘシ (編者附記、書式ハ願記ノ中ニ出ツ)

○俗名ヲ改名スヘキ之件

(明治二十六年七月 甲達第十二號)

僧侶ハ得度差許サレ候同時ニ法名御授與相成候へハ其事故ヲ以テ直ニ所轄廳へ改名出願致スヘキ筋ニ有之候處往々其手續ヲ等閑ニシテ法衣ヲ着シ俗名相稱へ候者有之不都合ニ候條速ニ本山ニ願出御添書申請管轄廳へ改名願差出聽許相成候ハ、其證相添へ本山へ届出へシ

可届出向ホ自今御添書相成度願記ニ對シテハ必ス其手續ヲ怠ラサル様致スヘシ此段特ニ訓告ス

○檀家總代ニ關スル件 (明治十四年八月 達書第二十七號)

今般内務省乙第三十三號ヲ以テ別紙之通府縣へ御達相成候ニ付テハ施行ノ際戸長役場へ届出候檀家總代人名之儀各教務所へ届出今後本山へ差出候願何届等檀徒ノ連署ヲ要スヘキ分ハ右總代之人名連署可爲致此段相違候事

(別紙)

内務省乙第三十三號

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選戸長役場へ届サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可爲差出且社寺收入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ

○地方廳聞濟ノ願事速ニ届出ヘキ件

(明治四十二年十月 訓告第十二號)

從來本山ヨリ御添書ヲ下付セラレタル願記ニシテ當該官廳へ出願シ指令ヲ受ケタルトキハ該指令本紙ヲ添へ直ニ其旨可届出規定ニ候處右手續ヲ怠リ候者往々有之整理上差支不都合ノ至リニ付未届ノ者ハ此際速ニ

庶務局庶務部・俗名ヲ改名スヘキ之件 地方廳聞濟ノ願事速ニ届出ヘキ件 檀家總代ニ關スル件



庶務局庶務部・檀信徒總代新舊交替期之件 檀家異動御記錄訂正願之件

八號ハ總代人改選ノ時期ヲ定メタルモノニシテ其任  
期ヲ定メタルモノニアラス從テ一旦當選ヲ届出タル  
總代人ハ其當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年毎ニ  
改選セシムヘキハ勿論ナリト雖モ後任者ノ當選届出  
ヲ爲サ、ル間ハ滿三箇年ヲ經過セルノ故ヲ以テ當然  
總代人タル資格ヲ失ヒタルモノトナスヲ得ス  
明治三十八年十月二日

内務省神祉局長 水野鍊太郎  
内務省宗教局長 斯波淳六郎

○檀家異動御記錄訂正願之件

(明治三十年八月  
甲達第二十九號)

近來末寺中檀家異動ノ廉ヲ以テ記錄訂正方願出候向キ  
往々有之候處中ニハ書面甚タ杜撰ナルモノアリ取扱上  
不都合尠カラス候條自今左ノ書式ニ準シ檀家増減理由  
明細書ヲ作り絶家若クハ轉籍等ニ係ル異動ハ所在町村

長ノ證明ヲ得別ニ現在檀家連名簿ヲ添へ管事ヲ經テ認  
可ノ訂正ヲ願出ヘシ右ニ就テハ現在檀家連名簿ニ萬一  
記載漏レノ檀家有之他寺ヨリ其葬儀法務ヲ取扱候事有  
ルモ本山ハ之ニ對スル訴願ヲ受理致サス候條此段併テ  
相達ス

(別紙書式)

檀家異動認可訂正願

何府何市何町  
何縣何郡何村

何組 何寺

該寺檀家別紙檀家増減理由明細書ノ通り異動相生シ  
候ニ付右御認可之上御記錄訂正被成下度別冊現在檀  
家連名簿相添此段奉願上候也

右寺住職

年月日

氏

名

何府何市何町番戶

檀家總代 氏

名

(檀家總代連書ノコト)

何府何市何町何寺住職

法類 氏

名

檀家連名簿

何府何市何町番戶

戶主 何

某

何府何市何町番戶

戶主 何

某

何府何市何町番戶

戶主 何

某

合計何千何百何十何戸  
右之通相違無之候也

(署名者前同斷)

年月日

庶務局庶務部・檀家異動御記錄訂正願之件

右之通相違無之候也

年月日

(署名者前同斷)

檀家増減理由明細書

何府何市何町番戶

一増戸

何年月日何府何縣何郡何村  
ヨリ轉籍又ハ何府何縣何郡何家ヨリ分家

氏

名

一増戸

何年月日何宗何寺院  
ヨリ轉宗歸屬

氏

名

一減戸

何年月日何府何縣何郡何村  
ハ全戸移轉又ハ絶家

氏

名

一減戸

何年月日何府何縣何郡何寺  
何村何寺ハ轉檀

氏

名

何府何市何町何寺住職

同 氏

名

前書之通相違無之ニ付奥印仕候也

何府何市何町何寺住職

何々組々々長 氏

名

本山執行御中

庶務局庶務部・檀家異動訂正願ニ關スル事項之件

○檀家異動訂正願ニ關スル事項之件

(明治四十四年九月)  
(甲達第四十號)

自今檀家異動訂正願ニ關スル減檀理由ハ左記事項ノ外之ヲ許可セス

- 追テ右出願ニ際シテハ必ス現在檀家各自ノ調印セル連名簿ヲ添付スヘシ
- 一、廢家又ハ絶家及遠隔ノ地ニ移籍シタルモノ但シ町村長ノ證明ヲ要ス
- 一、轉檀シタル者ニシテ其所屬先キノ證明アルモノ

檀家總代改選ニ關スル件

訓令ニ依リ改選シ其都度本山へ届出ヘシ

(別紙)

内務省訓令第八號

明治十四年當省第三十三號達中共有ノ二字ヲ社寺有ト改メ末條ニ左ノ一項ヲ増補ス

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若クハ戸長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ

但シ臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ナシ

明治二十四年五月二十五日

内務大臣伯爵 西郷 從道

(參照) 明治十四年八月達書第二十七號

○檀家總代改選ニ關スル件

(明治二十四年五月)  
(甲達第十七號)

今般内務省訓令第八號ヲ以テ社寺氏子檀家總代人選舉之儀別紙之通達セラレ候條自今檀家總代人ノ改選ハ該

○御繪傳繪解ニ關スル件

(明治三十三年六月)  
(達書第十九號)

近來末寺僧侶之内ニ於テ繪解ト稱シ説教ノ節御繪傳ヲ懸ケ繪相ヲ説明致候者有之趣不都合ノ至リニ候右ハ寺法上無之儀ニ付向後右様ノ所業無之様可致此段相違候事

○寺院住職小學校訓導交互兼務之件

(明治三十五年一月)  
(甲達第二二號)

寺院住職小學校訓導交互兼務之件ニ付別紙寫之通宗教局長ヨリ通牒有之候處末寺僧侶ニシテ其本務ニ差支ナキ限リハ訓導相勤候儀不苦候條爲心得相達ス

(別紙)  
宗甲第二〇號

庶務局庶務部・御繪傳繪解ニ關スル件 寺院住職小學校訓導交互兼務之件

眞言宗高野派管長ヨリ別紙之通り伺出有之候處右ニ對シ左ノ通り及回答候ニ付爲御心得此段及通牒候也

明治三十五年一月九日

内務省宗教局長 斯波 淳六郎 圖

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊 殿

宗甲第二〇號

寺院住職等小學校訓導交互兼務ノ件ニ關シ伺出相成候處右ハ從前地方ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノハ其職務上差支ナキ場合ニ限リ地方長官ヨリ文部内務兩省へ經伺ノ上住職等ト小學校教師ト兼職セシメ來レル例ニ有之候處自今右經伺ヲ要セス地方長官限リ處分スルコトニ相成候儀ニ有之候條御諒知相成度此段及回答候也

明治三十五年一月九日

内務省宗教局長 圖

眞言宗高野派管長 宛

今回神職及寺院住職ニ小學校訓導兼職認許スル儀御省ト文部省ト御協議ノ結果之ヲ許スコトニ決定シ其旨地方へ御内訓有之シヤニ地方諸新聞紙ニ記載有之候カ右ハ事實ニ有之候哉將來宗徒養成上ノ都合モ有

庶務局庶務部・寺院住職小學校訓導交互兼務之件

危險思想取締之件 托鉢規程

之候ニ付至急何分ノ御指令被成下度此段御伺申上候也

明治三十四年十二月九日

眞言宗高野派管長

一等教師大僧正 原 心 猛 圃

内務省宗教局長斯波淳六郎殿

罪人タリ特ニ教導ノ任ニアル僧侶ニ於テハ宜ク社會思想趨勢ノ機微ヲ監察シ愈ヨ國家ノ安寧ヲ増進シ社會ノ秩序ヲ維持シ以テ宗門ノ光輝ヲ發揚センコトヲ期スヘシ特ニ訓告ス

○危險思想取締之件

(明治四十三年十月) 訓告第四號

國運ノ發展ニ伴ヒ社會ノ狀態滋複雜ニ赴クニ當リ近來稍モスレハ歐米各地ニ於ケル危險ナル思想ニ感染シ社會ノ風教ヲ壞乱スルノ言行ヲ爲ス者アルヲ聞ク洵ニ痛歎ニ堪ヘサル處ナリ苟モ我宗眞俗二諦ノ教旨ヲ遵奉スル門末ニ於テハ内ニハ他力ノ大信ヲ蓄ヘ外ニハ人倫ノ常道ヲ守リ以テ金匱無缺ノ國家ニ對シテ奉公ノ誠意ヲ表彰スヘキハ言ヲ俟タス若シ誤リテ斯ル非違ノ言行ニ出テンカ管ニ邦家ノ罪人タルノミナラス又實ニ祖門ノ

○托鉢規程

(明治十九年) 甲達第一號

第一條 本派ノ僧侶托鉢ヲ行セントスル者ハ免許證牌ヲ本山へ請願スヘシ  
第二條 托鉢證牌ハ一地方ニ於テ三人以上同時ニ出願スルニ非レハ之ヲ授與セス但シ後年ニ至リ加入補闕ヲ願フモノハ此限ニ非ス  
第三條 托鉢證牌ヲ得タルモノハ必ス其地方廳へ届出ヘシ但シ東京ハ警視廳へモ届出ヘシ  
第四條 托鉢ノ行裝ハ正衣(白服麻衣墨袈裟)ヲ着シ網代笠ヲ冠リ鉢若クハ頭陀囊(鼠色)ヲ用ヒ餘物ヲ携帶セス必ス一様ノ體タルヘシ各人ノ所好ニ隨フヲ許サ

ス

第五條 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス但シ遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ此限リニアラス

第六條 托鉢中ハ威儀ヲ肅整スヘシ往來人ト談話シ市店ニ入テ物品ヲ購求スルヲ許サス

第七條 途上縱令惡言罵詈或ハ非法ノ舉ヲナスモノアルモ決シテ之ト抗スルヲ得ス

第八條 托鉢中鉢盂ト唱ヘ受施ノ時ハ其佛本願力等ノ四句偈ヲ唱フヘシ

第九條 托鉢者ハ施者ノ請ヒアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フヲ許サス但シ齋食ヲ供セントスル施主アル時ハ其請ニ應シ該家ニ就キ讀經スヘシ

第十條 證牌ヲ得タル者ト雖二人以下之ヲ行スルヲ許サス若シ十人以上ニ及ハ、必ス其列ヲ分チ一列十人以下タルヘシ且ツ公衆ノ來往ノ便ヲ妨クヘカラス

第十一條 托鉢中ハ必ス免許證牌ヲ携帶シ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘシ

第十二條 罹災等ニテ證牌ヲ遺失スルトキハ其事由ヲ庶務局庶務部・托鉢規程 托鉢證牌下付ニ關スル注意之件

詳記シ再下附ヲ出願スヘシ

第十三條 移住等ノ節ハ前條ニ準シ證牌ノ書替ヲ出願スヘシ

第十四條 事故アリテ證牌ヲ返納セント欲スル者ハ前條ニ準シ證牌ヲ添ヘ届出ヘシ

第十五條 證牌所持ノ者死亡ノ節ハ組長ヨリ證牌ヲ本山ニ返納スヘシ

第十六條 托鉢者若シ此規程ニ違犯スルノ行爲アル時ハ組長ノ具申ニヨリ證牌ヲ收奪シ本山ヨリ地方廳へ届出ヘシ

○托鉢證牌下付ニ關スル注意之件

(明治二十五年五月) 乙達第五號

托鉢受牌者ニ於テ不可謂醜態ヲ極メ遂ニ佛門ノ通則ニ

正 組長

庶務局庶務部・托鉢證牌下付ニ關スル注意之件  
御厨子入形祖師聖人御影下付之件

違背スルノ嫌ヲ受ケ候テハ不相濟儀ニ付向後證牌下付願出候者ハ左項ニ當ル理由ヲ副申セシメ其事實嚴重調査ノ上ニ非サレハ證牌下付不相成候條此段相違候事  
一、教學及慈善ノ資金ヲ扶助若クハ積立ル目的アル者  
一、修學中其學資ニ充ツル目的アル者

二物願之件 本堂後門之件  
○本堂後門之件 (大正六年二月 甲達第十二號)

特別ヲ以テ自今本堂後門ノ設置ヲ許ス

○御厨子入形祖師聖人御影下付之件

(大正十二年七月 甲達第二十六號)

爾今出願寺院ニ限リ御厨子入形祖師聖人御影御下附相成ル  
追テ冥加金ハ從前御下附ノ祖師聖人御影冥加金ニ依リ授與セラレ

○二物願之件 (明治十一年二月 達書第二十六號)

今般詮議ノ次第有之内陣本座以上ノ向ハ天蓋禮盤差許候條右望ノ者ハ出願可致此段相違候事

○勅語拜受ニ付訓告之件

(明治四十五年五月 訓告第五號)

明治三十七八年ノ奉公ニ關シ大法主猥下親ク 勅語ヲ拜受アラセラレタルハ寔ニ一宗ノ光榮トスヘキ所猥下マダ直チニ御直諭ヲ發セラレ聖恩ノ優渥ナルヲ告ケ功ヲ全國ノ門葉ニ頒チ給フ惟フニ帝國空前ノ大難ニ際シ苟クモ生ヲ日域ニ受クルモ誰カ忠節ヲ抽テサルヘクンヤ況ンヤ二諦相資ノ法流ニ浴スルノ輩粉骨摧身ノ勞ヲ致スヘキハ當然ナリ何等ノ功勞カ以テ嘉賞ニ値センヤ然ルニ猥下奉公ノ誠意ヲ贊ケ日夜黽勉國事ニ盡瘁シタル門未一般ノ微衷此ニコノ無比ノ光榮ヲ辱フシタルヲ思ヘハ實ニ喜ニ堪ヘス然レトモ事ハ滿ルニ缺ケ僑ルニ敗ル今日一宗ノ前途豈ニ夫レ光榮ニ狂喜スルノ秋ナランヤ

庶務局庶務部・勅語拜受ニ付訓告之件

今ヤ一宗ハ此ノ無比ノ光榮ヲ荷フ然ルニ戰役當時ノ奮勵果シテ此光榮ニ値スルモノアリシヤ否ヤ本職等前ニ命ヲ奉シテ外從軍布教使ヲ戰地ニ派遣シ内臨時部及出張所ヲ各地ニ設ケ一派奉公ノ事業ヲ總攬セシカ其成績豫望ノ十一ニ達セス甚々遺憾ニ堪ヘサルモノアリ何ソ

帝國大宗派ノ活動トシテ百萬門末ノ精力ヲ傾注シタリト云フヲ得ンヤコレニ本職等ノ無能ニ由ルト雖モ部下役員及門末一般亦今回ノ光榮ニ對シテ深ク慚愧スル所ナカルヘカラス、抑モ一宗今日ノ狀態ハ尙ホ未タ全ク昏睡ノ域ヲ脱却セス須ク大ニ覺醒スル所アルヘキナリ夫レ職ヲ山務ニ奉スルモノハ宜ク宗門發展ノ大計ニ留意スヘク任ニ育英ニ在ルモノハ須ク人材陶冶ノ要職ニ焦慮スヘク殊ニ直接布教傳道ノ衝ニ當ルモノハ大ニ自己ノ道念ヲ修養シ自ラ以テ人ヲ教化スヘク末寺一般亦應ニ舊態ヲ脱シ愈奮勵檀信徒ノ教導ニ從事スヘシ而シテ本宗ノ組織由來僧俗ノ別ナシ百萬ノ門徒マダ宜シク宗門盛衰ノ責任ヲ領ツヘシ此ノ如クシテ上下本末相協和シ以テ宗教宣布社會救濟ノ舉ニ從ハ、一派ノ前途益々隆昌ヲ加ヘ今日ノ光榮ヲ空フセサルヲ得ヘシ黨同伐異紛爭ヲ蝸牛角上ニ好ムカ如キハ實ニ宗門ノ罪人ナリトス

今ヤ 勅語拜受ノ事アリ猥下ノ御直諭ヲ拜讀シテ自ラ願ルニ恐懼措ク能ハス此ニ訓告ヲ發シテ敢テ一般ノ奮勵ヲ希望ス

庶務局庶務部・勅語御寫下付之件 勅語御寫下付申請心得之件

○勅語御寫下付之件 (明治四十年五月 甲達第十三號)

勅語御寫別院派内諸學校並ニ末寺一般へ下附セラレ候條此段相達ス

○勅語御寫下付申請心得之件 (明治四十年六月 甲達第二十五號)

勅語御寫下付申請心得別記ノ通り定メラレ候條此段相達ス

(別記)

勅語御寫下付申請心得

一 本年甲達第十三號ニ基キ 勅語御寫ヲ拜受セントスル寺院ハ組長ヲ經テ左ノ申請書ヲ差出スヘシ

申請書

勅語御寫

右當寺へ御下付ノ上ハ崇敬上不都合無之様奉安可致候條御下付被成下度此段申請仕候也

何府何郡何村

何組何寺住職

何

某

何府何市何町

何

某

(檀家總代ハ三名以上連署スルコト)

執行御中

一 勅語御寫ハ一定ノ函ニ納メ下付セラル但シ右ニ要スル經費ハ上納致スヘシ  
一 勅語御寫ハ無住又ハ兼務住職ノ寺院ニハ當分下付セラレス

○勅語御寫兼務住職ノ寺院及説教所へ下付之件 (明治四十二年二月 甲達第十三號)

明治四十年六月甲達第二十五號ヲ以テ 勅語御寫ハ無住又ハ兼務住職ノ寺院へハ當分下付セラレサル旨相達置候處自今兼務住職ノ寺院及説教所へモ依願御下付相成ル

○財團課規程 (大正十一年七月 甲教示第十號)

改正 昭和六、三

第一條 本山關係ノ各財團ニ關スル事務ヲ管掌スル爲メ本山執行所内ニ財團課ヲ置ク

第二條 財團課ノ事務ハ總テ庶務局庶務部ニ屬ス

第三條 財團課ニ左ノ事務員ヲ置ク

主事 一名

庶務局庶務部・勅語御寫兼務住職ノ寺院及説教所へ下付ノ件 財團課規程

贊事 若干名

錄事 若干名

第四條 主事ハ課内一切ノ事務ヲ統理ス

第五條 贊事ハ主事ヲ輔ケ其分擔事務ヲ處理ス

第六條 錄事ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財務局財務部

本山會計法	三二	本山勘定規程	三〇
本山會計收入規定	三三	龍谷大學特別會計規程	三三
本山會計支出規定	三四	龍谷大學收入支出規程	三三
特別會計規程	三五	中學校及專修學院費收支規程	三三
三季冥加規程	三六	教會講社條例	三三
教育補充費賦課規程	三七	教會講社準則	三四
三季冥加並教育補充費取扱細則	三九	財制調查會規程	三五
義務金怠納處理規程	三〇	本山事務員冥加金規程	三六
式典ニ關スル特別會計法	三〇		



財務局財務部

○本山會計法 (明治三十九年一月)  
法度第一號

改正 明治四三、一〇 大正二、二  
大正一〇、一七

- 第一條 本山會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第二條 會計年度所屬ノ歳入歳出ニ關スル出納事務ハ翌年六月三十日ニ終結ス
- 第三條 懇志及ヒ其他ノ收納ヲ歳入トシ奉仕費及ヒ其他ノ經費ヲ歳出トシ共ニ豫算ニ編入ス
- 第四條 米穀其他物品ノ出入ハ別途ニ報告ス但シ特別指定ノ寄附ニ係ル工事及ヒ物品モ此ニ準ス
- 第五條 毎年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ハ他ノ年度ニ屬スル經費ニ充ルコトヲ得ス
- 第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ集會ニ之ヲ提出ス
- 第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ順次款項ヲ區別シ左ノ書類ヲ添付ス
  - 一、各款ノ豫算經費書並ニ説明書及ヒ細目表

財務局財務部・本山會計法

二、前年度ノ出納決算書並ニ説明書及ヒ細目表

第八條 豫算中ニ左ノ豫備金ヲ置ク

第一豫備金

第二豫備金

- 第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
- 第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル臨時必須ノ費用ニ充ツルモノトス
- 第九條 前條ノ豫備金ヲ支出シ終リタル後尙臨時費用ヲ要スルトキハ臨時集會ヲ召集シ之カ協賛ヲ經ヘシ
- 第十條 懇志及ヒ其他ノ收入ハ收入規程ニ依リ之ヲ取扱フ收入規程ハ執行之ヲ定ム
- 第十一條 收入規程ニ依リ金品收入ノ局ニ當ル責任アル役員ニアラサレハ懇志及ヒ其他ノ收入ヲ取扱フコトヲ得ス
- 第十二條 毎會計年度ニ於テ經費ニ充ツル定額ハ其年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第十三條 豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ規程以内ニ款項ノ金額ヲ彼此流用スルヲ得ス
- 第十四條 支出ハ支出規程ニ依リ之ヲ取扱フ支出規程

財務局財務部・本山會計法

ハ執行之ヲ定ム

第十五條 支出規程ニ依リ支出ノ局ニ當ル責任アル役員ニアラサレハ支出ヲ取扱フコトヲ得ス

第十六條 集會ニ報告スル決算ハ同一ノ式ヲ用ヒ左ノ事項ヲ明記シ會計検査部ノ檢閲ヲ受ク

一、歳入ノ部

歳入豫算額

收入濟歲入額

收入不足歲入額

收入超過歲入額

二、歳出ノ部

歳出豫算額

仕拂濟歳出額

臨時増加歳出額

翌年度繰越額

三、貸借計算書

第十七條 歳計ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其翌年度ノ歳入ニ編入ス

第十八條 年度歳入ニ不足ヲ生シ臨時借入金ヲナシタルトキハ集會ノ事後承認ヲ經ヘシ

第十九條 豫算ニ於テ一年度ニ終ルヘキ工事又ハ編纂其他ノ事業ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ其事業ヲ遅延シ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十條 數年ヲ期シテ竣成スヘキ前條ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度迄順次繰越使用スルコトヲ得

第二十一條 誤拂渡並ニ定額戻入トナリタル金額ノ返納又ハ出納ノ完結シタル後其年度ニ屬スル收入及ヒ豫算外收入ハ都テ現年度ノ雜收ニ組入ヘシ

第二十二條 財務ノ局ニ當ル役員ハ其取扱ニ關スル現金若クハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

第二十三條 財務ノ局ニ當ル役員ハ水火盜難又ハ其他ノ事故ニ依リ其保管スル現金若クハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上避クヘカラサリシ事實ヲ證明シ會計検査部ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 財務ノ局ニ當ル役員中ニ於テ收納係ノ者ハ出財係ヲ兼ムルコトヲ得ス

第二十五條 特別ノ須要ニ依リ本法ノ規程ニ準據シ難キモノハ特別會計ヲ設ク但シ其規程ハ別ニ之ヲ定ム

財務局財務部・本山會計法 本山會計收入規定

○本山會計收入規定 (大正五年七月 甲教示第十二號)

改正 大正七、八 大正一四、八

第一條 懇志其他ノ收入事務ハ財務部ニ屬ス

第二條 前條ノ事務ハ左ノ係員ヲ置キ之ヲ取扱ハシム

懇志金係

冥加金係

義務金係

土地及家屋係

調査係

印章係

金庫係

第三條 前條ノ各係ヲ統括スル爲メ收納主任一名ヲ置

第二十六條 本法施行ニ要スル細則ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

定ム

第四條 米穀其他物品ノ納入ハ總テ懇志金係ニ於テ取扱ハシム

第五條 各收納係ハ收入ノ都度調査係ノ検査ヲ經テ印章又ハ受納書ヲ交付シ收納ノ金品ハ各收納簿ヲ添ヘ收納主任ヘ廻付ス

第六條 調査係ハ各係取扱ノ收入ヲ調査シ各係ヨリ收納主任ヘ廻付ノ金品ト符合スルヤ否ヤヲ検査ス

第七條 印章係ハ調査係ノ檢印ヲ認メ速ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 收納主任ハ各係ヨリ廻付スル金品ヲ各收納原簿ニ記入シ現金ハ毎日計算ノ上金庫係ニ納入ス

第九條 收納主任ハ收納ノ金品ヲ毎日部長及執行ニ報告シ毎月末豫算ト照合スヘシ

第十條 室内部ヘ納入ノ金品ハ其種別ニ從ヒ帳簿ヲ添ヘ收納主任ニ於テ其都度送納ノ手續ヲナスモノトス

第十一條 賽錢箱ハ隨時之ヲ開キ開函ノトキハ係員ノ立會ヲ要ス

第十二條 金庫係ハ收納金ノ種別ニ從ヒ區分ヲ定メ特約銀行ヘ保管ノ手續ヲナスヘシ

財務局財務部・本山會計收入規定 本山會計支出規定

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山會計支出規定 (大正五年七月 甲教示第十三號)

改正 大正七、八

第一條 支出ハ總テ財務部ニ於テ取扱ヒ左ノ係員ヲ以テ分任セシム

- 出 財 係
- 交 付 簿 係
- 金 庫 係
- 郵 送 係
- 原 簿 係
- 物 品 係

第二條 各局部所管ノ經費支拂ハ付出簿ニ受取人ノ氏名支拂フヘキ金額支出科目ヲ記載シ各局部ノ主任及

執行ノ認印ヲ要ス

第三條 支拂ヲ爲サントスルトキハ支拂切符ヲ發スル前左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一、請求ノ經費ハ正當ニシテ必要ナリヤ否ヤ
- 二、該經費ハ豫算超過スルコトナキヤ否ヤ
- 三、支出科目及所屬ノ年度ヲ誤ルコトナキヤ否ヤ
- 四、豫算ヲ以テ定メタル目的ニ違フコトナキヤ否ヤ

第四條 出財係ハ前條各號ノ調査ヲ了シタルト認ムルトキハ交付簿ニ依リ支拂切符ヲ受取人若クハ代理人ニ交付シ別ニ認印ヲ受クヘシ受取人ハ支拂切符ニ年月日ヲ記入シ認印ノ上金庫係ニ就キ現金ノ引替ヲ請フヘシ

第五條 郵送ニ係ル金額ハ郵送係ニ於テ支拂切符ヲ受ケ金庫係ニ就キ之ヲ現金ニ交換シ即日郵便又ハ銀行爲替ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 現金前渡ノ支拂ハ總テ執行ノ決裁ヲ經サレハ支拂切符ヲ發スルコトヲ得ス

第七條 各年度ニ屬スル經費ノ支拂ハ本山會計法第二條ニ依リ翌年七月一日以後ハ前年度ノ支拂切符ヲ發スルコトヲ得ス

○特別會計規程 (明治三十六年十月 教示第十八號)

改正 昭和二、二 昭和二、三

第一條 免物費等歳入ノ爲メニ生スル費目ハ特別會計ニ附ス

第二條 免物費ハ其冥加ノ收入ヲ以テ支辨シ剩餘ハ通常歳入ニ編入ス但シ其收支ハ集會ニ報告スヘシ

第三條 臨時團體參詣本部費ハ其收入ヲ以テ支辨シ剩餘ハ通常歳入ニ編入ス但シ其收支ハ集會ニ報告スヘシ

附 則

此教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財務局財務部・本山會計支出規定 特別會計規程

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第八條 原簿係ハ一切ノ支出ヲ原簿ニ記入シテ毎日部長及執行ニ報告シ毎月末各豫算ニ對照スヘシ

第九條 金庫係ハ合式ノ支拂切符ヲ得ルニアラサレハ現金ノ交付ヲ爲スヘカラス

第十條 金庫係ハ休日ヲ除ク外其開庫時間内ハ支拂切符持參人ニ對シ現金ヲ交付スヘシ

第十一條 金庫係ハ左ノ場合ニ於テ出財ヲ拒ムヘシ

- 一、案内支拂書ヲ請ケサルモノ
- 二、支拂切符ト案内支拂書ト符合セサルモノ
- 三、支拂切符汚損ノ爲メ案内支拂書ト照合シ難キモノ

第十二條 物品係ハ物品收支簿ニ依リ諸般ノ物品ニ就キ買入又ハ保存修繕等ノコトヲ取扱フヘシ

第十三條 物品ノ贈與貸借又ハ支消賣拂ノ如キハ總テ種別ニ隨ヒ毎日其用途ヲ帳簿ニ記載シ主用者ノ認印ヲ受クヘシ

○三季冥加規程 (明治三十四年十一月 第六號)

改正  
 明治三六、一〇三 明治三八、一二  
 明治四〇、一〇三 明治四三、一〇  
 明治四五、三三 大正九、二〇  
 大正一四、三三 昭和九、二〇  
 昭和六、四 昭和七、五

- 第一條 三季冥加ノ上納ハ此規程ニ依ル
- 第二條 末寺ハ毎年三季冥加ヲ本山ニ上納スヘキモノトス 但シ教會及説教所ハ末寺ニ準ス
- 第三條 三季冥加各自ノ納金額ヲ定ムル左ノ如シ 但シ止ムヲ得サル場合ニハ集會ノ協賛ヲ經テ五割以內ノ臨時増加ヲ爲スコトヲ得
- 一、末寺、教會、説教所
- 別 格 別 院 金參拾圓
- 別 格 寺 金貳拾貳圓五拾錢
- 內陣上座一等 金貳拾圓
- 別格特別衣體 金貳拾圓
- 內陣上座一等 金拾八圓
- 甲種特別衣體 金拾六圓五拾錢
- 內陣上座一等 特別衣體 金拾六圓五拾錢
- 內陣上座一等 金拾五圓

- 內陣上座二等 金拾參圓五拾錢
- 甲種特別衣體 金拾貳圓七拾五錢
- 內陣上座二等 特別衣體 金拾貳圓
- 內陣上座二等 金拾貳圓
- 內陣本座一等 金九圓七拾五錢
- 內陣本座一等 金九圓
- 內陣本座二等 金七圓五拾錢
- 內陣列座 金六圓
- 餘 之 間 金四圓五拾錢
- 脇 之 間 金參圓
- 外陣列座 金貳圓
- 平 僧 地 金壹圓五拾錢
- 末 寺 支 坊 金壹圓五拾錢
- 説 教 所 金壹圓五拾錢
- 二、前住職 着用衣體ノ三分ノ一額
- 三、副住職 着用衣體ノ二分ノ一額
- 四、衆徒 長男衣體許可ノ者其衣體ノ三分ノ一額 所屬中堂班許可ノ者其衣體ノ二分ノ一額 單ニ教師並ニ準教師ノ者金壹圓五拾錢 未教師ノ者金五拾錢
- 五、教 士 金壹圓五拾錢

○教育補充費賦課規程

(明治三十六年十二月 第六號)

改正  
 明治四一、一〇 明治四四、五  
 大正一四、三三 大正九、二〇  
 昭和七、五 昭和八、二

- 第四條 前條以外ノ終身堂班衣體許可ノ者ハ所屬寺堂班衣體ニ依ラスシテ住職ハ其堂班衣體全額、前住職ハ三分ノ一額、副住職ハ二分ノ一額、衆徒ハ三分ノ一額ヲ上納スヘキモノトス
- 第五條 正副住職並ニ堂班衣體許可ノ教師又ハ準教師タル衆徒ニシテ其堂班冥加力單ニ教師又ハ準教師タルモノ、冥加ヨリ以下ナルトキハ教師並ニ準教師冥加ニ依リ上納スヘキモノトス
- 第六條 僧侶ニシテ三季冥加ノ上納ヲ忘ル時ハ其寺若クハ本人ノ願記取扱ヲ停止シ滯納金額ニ對スル延滯手数料トシテ其次年度ヨリ毎年百分ノ五ヲ附加徵集シ尙延滯スル者アル時ハ懲戒ニ處ス但シ別格別院ハ監事、末寺支坊ハ所屬寺住職又ハ兼務住職其責ニ任ス
- 第七條 教會ノ設立者ハ本規程ニ於ケル住職ニ擔任教師ハ副住職ニ準シ設立者擔任教師同一人ナル場合ハ住職ニ準ス
- 第八條 三季冥加ノ取扱細則ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム
- 附 則  
 本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

- 第一條 教育補充費ハ本規程ニ依リ貳萬五千圓ヲ限リ末寺教會及説教所ヘ賦課ス但シ止ムヲ得サル場合ニハ集會ノ協賛ヲ經テ本規程以內ノ臨時増加ヲ爲スコトヲ得
- 第二條 教育補充費ハ中學及專修學院費並ニ本山立學校生徒ニシテ學資補助ノ必要アリト認ムル者ニ支給セル補助費ノ剩餘若クハ不足額ト該年度支出豫算額ノ差引若クハ合計ヨリ授業料收入豫算額ヲ減シタルモノヲ賦課ス
- 第三條 教育補充費ノ賦課ハ左ノ比率ニヨル

財務局財務部・教育補充費賦課規程

別格別院	貳〇
別格寺	壹五
内陣上座一等	壹四
別格特別衣體	壹四
内陣上座一等	壹貳
甲種特別衣體	壹貳
内陣上座一等	壹壹
特別衣體	壹壹
内陣上座一等	壹〇
内陣上座二等	九
甲種特別衣體	八、五
内陣上座二等	八
特別衣體	六、五
内陣本座一等	六、五
甲種特別衣體	六
内陣本座一等	五
内陣本座二等	四
内陣列座	參
餘之間	貳
脇之間	壹
外陣列座	〇、五
平僧地	〇、五

末寺支坊 所屬寺堂班〇、五  
說教所 〇、五

但シ他ノ方法ニ依リ其教區負擔高ヲ納付スルモ妨ケナシ

第四條 教育補充費徵集ニ關シ必要ナル規則ハ別ニ教示ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 末寺教會及說教所ニシテ教育補充費ノ賦課ニ應セス又ハ徵集ニ關スル規則ニ背ク者ハ其寺教會及說教所若クハ本人ノ願記取扱ヲ停止シ滯納金額ニ對スル延滞手数料トシテ其次年度ヨリ百分ノ五ヲ附加徵集シ尙延滞スル者アル時ハ懲戒ニ處ス但シ別格別院ハ監事、末寺支坊ハ所屬寺住職又ハ兼務住職其責ニ任ス

附則

本更改ハ大正十四年四月一日ヨリ施行ス

〇三季冥加並ニ教育補充費取扱細則

(明治四十一年七月  
甲教示第四十七號)

改正 明治四三、二 明治四四、一  
明治四四、八 大正 六、一  
大正 七、八

第一條 三季冥加並ニ教育補充費ノ事務ハ執行ノ所管ニ屬シ三季冥加規程教育補充費賦課規程及此細則ニ依リ之ヲ取扱フ

第二條 上納期ヲ定ムル左ノ如シ

- 一、三季冥加 毎年六月三十日
- 二、教育補充費 毎年十月三十一日

但シ期限ニ先タチ上納スルコトヲ得

第三條 財務部ハ毎年四月一日ノ現在ニ依リ其年ノ賦課額及前年迄ノ滯納額ヲ調査シ管事及組長ヘ告知ス管事及組長ハ前項告知書ニ依リ臺帳ヲ調製シ置クヘシ

第四條 組長ハ前條告知書ニ依リ組内各寺僧侶ノ納額ヲ其寺ニ通知スヘシ

第五條 納額ニ誤謬ヲ發見シタルトキハ直ニ組長及管事ヲ經テ申出ツヘシ

財務局財務部・三季冥加並ニ教育補充費取扱細則

第六條 各寺住職ハ組長ヨリ納額ノ通知ヲ受ケタルトキハ其寺並ニ所屬僧侶ノ納金取纏メノ責ニ任シ必ス期日迄ニ本山財務部ヘ到着スヘキ餘日ヲ計リ組長ヘ納付スヘシ但シ直接本山ヘ上納ノトキハ必ス組長及管事ヘ上納者各自ノ金額氏名年月日ヲ届出ツヘシ

第七條 組長ハ組内ヨリ納金アリタルトキハ期日迄ニ必ス財務部ヘ上納シ直ニ管事ヘ報告スヘシ

第八條 組長ハ各寺未納整理ノ責ニ任ス若シ組長ノ請求ニ應セサルトキハ怠納金額住所寺號氏名ヲ管事ヘ報告シ管事ハ直ニ本山ヘ上申スヘシ

第九條 印章ハ組長ヲ經テ本人ヘ交付ス

附則

此教示ハ明治四十二年度ヨリ施行ス

本細則施行ノ日ヨリ明治三十三年十二月教示第二十四號三季冥加上納規程、同三十九年二月教示第五號三季冥加取扱細則、同三十九年二月教示第六號教育補充費取扱細則ハ之ヲ廢止ス

○義務金怠納處理規程

(大正十年二月) 法度第一號

改正 昭和四、二 昭和六、五 昭和六、八 昭和七、五

- 第一條 本條例ニ依ル義務金トハ寺法第二十八條ニ依リ賦課シタルモノトス
- 第二條 本規程ハ末寺教會及説教所ノ義務金怠納ヲ整理スルモノトス
- 第三條 無住無檀又ハ天災地變ノ事由ニ依リ義務金ヲ上納スル能ハサルモノ其旨ヲ具シ組内住職ノ三分ノ二以上證明書ヲ添ヘ組長管事ヲ經由シ願出ツルモノニ對シテハ審査ノ上特ニ左ノ恩典ニ浴セシムルコトヲ得
  - 一、義務金ノ全免
  - 二、義務金ノ減免
  - 三、義務金ノ納期猶豫
- 第四條 本規程ヲ適用シ得ラレサル怠納寺院教會及説教所ニシテ上納ヲ怠ル者ハ懲戒ニ處ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○式典ニ關スル特別會計法

(大正八年十一月) 法度第八號

- 第一條 式典ニ要スル經費ハ特ニ之ニ關シ門末ヨリ納ムル香儀又ハ祝儀等ヲ以テ支辨シ之ヲ特別會計トス
- 第二條 式典ノ豫算ハ年度ヲ分タス一括シテ議決スルコトヲ得
- 第三條 本決算ハ式典終了ノ翌年集會ニ之ヲ報告ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山勘定規程

(明治三十六年七月) 教示第十號

改正 明治三七、四 大正一〇、一〇 昭和六、八

第一條 本山勘定ハ法議篤信ニシテ多年本山ノ爲メニ

盡力シ而モ地方ニ於テ名望資産アル本派信徒中ヨリ選抜シ允裁ヲ經テ囑託ス

第二條 本山勘定ハ左ノ要務ヲ擔任ス

- 一、本山財務ニ關シ執行ノ協議ニ與リ又ハ意見ヲ披陳シ財政運用上調節ノ事ニ從フ
- 二、收支ニ關シ調査ノ必要ヲ認ムル時ハ何時ニテモ之ヲ調査ヲ執行ニ求ムルコトヲ得

第三條 前條各項ノ外特ニ重要ト認ムヘキ事項ノ協議ニ與ルコトアルヘシ

第四條 本山勘定ノ員數ハ二百五十名以内トシ其任期ヲ十ヶ年トス但シ補缺員ハ前任者ノ任期ヲ繼クモノトス

第五條 本山勘定ノ總會ハ協議ヲ要スル都度臨時ニ之ヲ開ク

第六條 本山勘定ハ五名以上ノ同意ヲ得テ總會ノ召集ヲ執行ニ申請スルコトヲ得

第七條 本山勘定ハ互選ヲ以テ十名ノ當直ヲ定メ執行ニ届出ヘキモノトス

第八條 當直勘定ノ任期ハ三年トス

第九條 當直勘定ハ毎月一回例會ヲ開クモノトス

○龍谷大學特別會計規程

(大正十一年六月) 法度第八號

- 第一條 龍谷大學ハ龍谷大學財團ヨリ回附スル收入、授業料、本山支出金、寄附金、其他ノ收入ヲ以テ其一切ノ支出ヲナスモノトス
- 第二條 龍谷大學ノ歳入歳出ノ豫算決算ハ執行之ヲ集會ニ提出ス
- 第三條 龍谷大學豫算中ニハ本山會計法第八條規程ノ豫備金ヲ設クヘシ

財務局財務部・龍谷大學特別會計規程 龍谷大學收入支出規程

第四條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其條件ニ從ヒ使用シ其決算ハ之ヲ集會ニ報告スヘシ

第五條 收入支出規程ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行シ佛教大學特別會計規程ハ之ヲ廢止シ佛教大學ニ關スル會計ハ本規程ヲ準用スルモノトス

○龍谷大學收入支出規程

(大正十二年一月) 甲教示第二號

第一條 會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 會計年度所屬ノ歲入歲出ニ關スル出納事務ハ次年度六月三十日迄ニ終結ス

第三條 本山支出金龍谷大學財團回附金及其他ノ收入ヲ得

附 前

此法度ハ明治四十二年豫算ヨリ施行ス

第十一條 特別指定ノ寄附ニ依リ工事又ハ物品ノ購入ヲナサントスルトキハ豫メ執行ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 毎月收支明細書ハ翌月十日迄ニ執行ニ提出スヘシ

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行シ同時ニ從前ノ佛教大學資金管理規程及佛教大學收入支出規程ヲ廢ス

○教會講社條例 (大正二年二月) 法度第四號

改正 大正五、二

第一條 本條例ハ派内一般ノ教會講社ニ適用スルモノトス

第二條 教會講社ハ本宗ノ門信徒ニヨリテ組織シ二諦ノ教義ヲ愛樂シ王法爲本ノ祖訓ヲ發揮シ本山崇敬佛化助揚ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス

第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ說教或ハ講演ヲ開キ教會講社員ノ信念志操ヲ練磨シ又本山祖廟ニ參詣シ法義相續ノ助縁ニ資シ其他地方ノ狀況ニヨリ適宜ノ施設ヲ爲スモノトス

第四條 一教會講社ニハ會員百名以上ヲ有スヘキモノトス

○中學校及專修學院費收支規程

(明治四十一年十一月) 法度 第四號

改正 大正一一、二

第一條 中學校及專修學院費ハ授業料及補充費其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 本規程ノ收支ハ特別會計トス

財務局財務部・龍谷大學收入支出規程 中學校及專修學院費收支規程 教會講社條例

財務局財務部・教會講社條例 教會講社準則

トシ其地域ハ一定セス尙地方ノ狀況ニヨリテ分會ヲ設クルコトヲ得但シ既設ノ教會講社ハ總テ本條例ニ準シ之ヲ取扱フ

第五條 教會講社ニハ派内住職又ハ教師ヲ以テ擔當者トシ本山之ヲ任命ス

第六條 前條擔當者ノ外必要ナル職員ヲ置き擔當者ノ申請ヲ參酌シ本山之ヲ任命ス

第七條 教會講社ノ設立ハ設立者ニ於テ規則ヲ定メ組長管事ヲ經由シ本山ノ認可ヲ受クヘキ者トス規則ニハ左ノ事項ヲ規定スルヲ要ス

一、名稱 二、位置 三、目的 四、事業 五、會員 六、職員 七、會務

第八條 教會講社ニ要スル經費ハ所屬教會講社員ノ釀出ニ依ルモノトス

第九條 教會講社員ニシテ第二條ノ目的ヲ阻害スル者ハ本山ヨリ之ヲ擯出ラ命シ教會講社ニシテ第二條ノ目的ヲ阻害シ第三條ノ事業ヲ實行セサル時ハ本山ハ之ヲ解散ラ命スルコトアルヘシ

第十條 教會講社員ハ本山參詣ニ際シ本山ハ相當ノ取扱ヲ爲ス

第三條 教會講社ハ一定ノ方法ヲ定メ所屬會員ヲシテ少クモ十ヶ年一回順次本山祖廟ニ參詣セシムヘシ

第四條 教會講社ハ當該地方ニ於ケル風教維持ノ中心トシテ時機ニ應シ施設スルモトス

第五條 教會講社員ハ一定ノ金員ヲ釀出シ之ヲ教會講社ノ事業ニ要スル經費、志納金及會員ノ本山祖廟參詣費ニ充ツヘシ

第六條 前條ノ釀出金額及釀集金ノ保管並ニ利殖方法ハ本山ノ認可ヲ受クヘキ設立規則中ニ規定スヘシ

第七條 教會講社員ノ互選ニ依リ職員中ヨリ會計監督一名ヲ選出シ當選者ノ申請ニ依リ本山之ヲ任命ス

第八條 會計監督ハ教會講社ノ金錢物品ノ出納事務ニ關スル責任ヲ負フヘキモノトス但シ其任期ヲ滿ニケ年トシ再任ヲ妨ケス

第九條 教會講社設立ノ出願ニハ設立者豫定擔當者及關係寺院住職ノ連印ヲ要ス

第十條 教會講社ハ本山ノ認可ヲ經テ會員ノ徽章ヲ一定スルコトヲ得

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財務局財務部・教會講社準則 財制調査會規程

第十一條 教會講社準則ハ別ニ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○教會講社準則 (大正二年二月 甲教示第二號)

改正 大正六、一

第一條 教會講社ノ事務及布教ハ管事ノ指揮監督ヲ受ク

第二條 教會講社條例第三條ニヨリ各教會講社ハ毎月一回定期ノ法筵ヲ開キ且ツ毎年一回以上本山派遣ノ布教使若クハ便宜相當ノ講師ヲ聘シ說教演說又ハ講演ヲ開催スヘシ

○財制調査會規程 (昭和三年二月 甲教示第一號)

第一條 財制調査會ハ左ノ事項ノ諮詢ニ對シ調査審議ス

一 財源ニ關スル事項

一 支出ニ關スル事項

一 淨財募集ノ計劃及方法其他財務ニ關スル重要ナル事項

一 末寺ノ經濟狀態調査ニ關スル事項

第二條 財制調査會ハ内局ニ屬ス

第三條 財制調査會ハ會長一名委員二十名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 本會ハ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第五條 會長ハ執行長之ニ當リ委員中五名ハ本山勘定中ヨリ任命ス

第六條 委員ノ任期ハ三ヶ年トス



財務局財務部・財制調査會規程 本山事務員冥加金規程

第七條 會長ハ會務ヲ統理ス會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員臨時其職務ヲ代理ス

第八條 財制調査會ニ幹事三名ヲ置ク幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ整理ス

第九條 財制調査會ニ錄事一名ヲ置ク錄事ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

稟教一、二等 金七圓

稟教三、四、五等、待遇 金六圓

例授 金五圓

第二條 本山事務員ニシテ布教使又ハ布教使補ヲ兼スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ毎年冥加金ヲ上納スヘシ

特授 金拾 五圓

親授 金拾 貳圓

稟授一、二等 金拾 圓

稟授三、四、五等、待遇 金九 圓

例授 金七圓五拾錢

第三條 前二條ニ於テ事務員ノ等級ハ毎年五月三十一日ノ現在ニ依ル

第四條 冥加金ハ毎年十月三十一日限り納付スヘシ但シ期限ニ先タチ納付スルモ妨ケナシ

第五條 冥加金ノ上納ヲ怠ル者ハ調査ノ上之ヲ解職ス

附 則

本教示ハ昭和七年四月一日ヨリ施行ス

○本山事務員冥加金規程

(昭和七年一月二十七日)

甲 教 示 第 一 號

第一條 事務員補任規程ニ依ル本山事務員ハ左ノ區別ニ從ヒ毎年冥加金ヲ上納スヘシ

特授 金拾圓

親授 金八圓

褒 賞 局

褒 賞 局 規 程	… 三七
特 別 賞 與 條 例	… 三七
褒 賞 例	… 三九
褒賞例第二條施行規程	… 三三
褒賞例第二條施行規程細則	… 三三
戰時教務賞與條 例	… 三四
戰時教務賞與條例受賞者取扱ニ關スル件	… 三五
本山事務員受賞者有階者待遇規程	… 三五

褒賞局

○褒賞局規定 (大正十年八月 甲教示第六號)

- 第一條 褒賞局ハ派内僧俗ニ對スル褒賞事務ヲ掌ル
  - 第二條 褒賞局ニ左ノ職員ヲ置ク
    - 局長 一名
    - 監事 若干名
    - 審事 若干名
    - 録事 若干名
  - 第三條 局長ハ局務ヲ統理シ所屬ノ職員ヲ監督ス
  - 第四條 監事ハ褒賞ニ關スル事實ノ調査並ニ審決ノ要求及之ニ關スル事務ヲ掌理ス
  - 局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
  - 第五條 審事ハ監事ノ要求ニ對シテ審査決定ス
  - 但シ審決ハ三名以上ノ合議ヲ要ス
  - 第六條 録事ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

褒賞局・褒賞局規程 特別賞與條例

○特別賞與條例 (明治四十一年十一月 甲教示第五十一號)

改正  
明治四二、一一 明治四四、四  
明治四四、七七 明治四四、八  
明治四五、七七

- 第一條 本例ニ依リ賞與スヘキモノ左ノ如シ
- 第一種 多年本山ノ事務ニ従事シ偉大ナル功勞アル者
- 第二種 特種ノ事件ニ關シ多大ナル功勞アル者
- 第三種 他ノ模範タルヘキ特種ノ善行者又ハ巨多ノ金圓ヲ獻納シ本山ノ事業ヲ補助スル者
- 第二條 賞與スヘキ各種ニ左ノ等級ヲ分ツ
- 一等
  - 衣 裏松重色堅地(經萌黃緯紫)
  - 大五條 木蘭色堅地龜甲平金地紋、紋白浮織
  - 疊袈裟 紺地護法龜甲平金線白糸地紋摺金紋、紋徑一寸六分紋數十五
  - 切袴 薄色經薄紫色 藤之丸大紋堅地綾
  - 白 薄色緯
- 二等
  - 衣 濃蘇芳色堅地(經蘇芳緯紫)
  - 大五條 木蘭色堅地龜甲白堆地紋、紋白浮織

褒賞局・特別賞典條例

- 疊製装 紺地護法龜甲平金白入交地紋摺金紋  
紋徑一寸五分紋數十三
- 切袴 薄色經薄紫色藤之丸大紋堅地綾  
白藤之丸大紋堅地綾
- 三等
- 衣 鶯茶色堅地(經鶯茶緯紫)
- 大五條 木蘭色堅地龜甲同色堆地紋、紋白浮織
- 疊製装 紺地護法龜甲平金地紋摺金紋  
紋徑一寸五分紋數十三
- 切袴 薄色經薄紫色藤之丸大紋堅地綾  
白藤之丸大紋堅地綾
- 以上三種ノ賞品ハ本山ヨリ下附ス
- 第三條 僧侶ニ非サル者ニシテ第一條ニ該當スル者ニハ左ノ徽章ヲ交付ス

壹等



徑一寸五分  
金章

貳等



徑一寸三分  
金章

參等



徑一寸  
金章

- 第四條 大五條疊製装並ニ徽章ノ紋章ハ第一種表章ハ下リ藤、第二種表章ハ桐(五七)第三種表章ハ鶴之丸トス
- 第五條 特別賞典ハ總テ法主ノ特命トス
- 第六條 特別賞典ヲ受ケタル者ノ席次ハ派内席次規程ノ定ムル處ニ依ル
- 第七條 特別賞典ハ終身トシ相續者ニ繼承スルコトヲ得ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○褒賞例

(明治四十一年十二月 甲教示第五十五號)

- 第一條 本例ハ派内ノ僧俗ニ對スル特別賞典條例外ノ褒賞ヲ行フ所ノ例規トス
- 第二條 褒賞スヘキ者左ノ如シ
  - 第一種 多年本山ノ任務ニ從事シ功勞アル者
  - 第二種 特種ノ事件ニ關シ功勞アル者
  - 第三種 他ノ模範タルヘキ善行者又ハ金圓ヲ獻納シテ本山事業ヲ援助シ功勞アル者
- 第三條 褒賞ハ左ノ十三種トス
  - 一、表章(三種ニ各五等十級ヲ分ツ)
    - 一等一級 二等一級 三等一級
    - 二等二級 三等二級
    - 四等一級 五等一級
    - 四等二級 五等二級
  - 二、染筆類
  - 三、御依用念珠
  - 四、尊號

改正  
 明治四二、一一 明治四四、一七  
 大正四七、三三 大正四七、五七  
 昭和九、四 大正一五、一〇

五、小形御影

六、藏版物

七、甲種輪製装 (別表第四號)

八、乙種輪製装

九、院號

一〇、甲種肩衣 (別表第五號)

一一、乙種肩衣

一二、念珠

一三、賞詞

第四條 褒賞スヘキ者ニテ特別ノ事由アルトキハ寺格堂班ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 第三條第一號ノ各等受賞者ニハ左ノ取扱ヲ爲ス

僧侶

一、待遇堂班ヲ與フ其待遇ハ別ニ之ヲ定ム

二、別表第二號ノ疊輪製装着用ヲ許可シ之ヲ授與ス

檀信徒

一、別表第一號ノ旌章ヲ授ケ本山及別院法要ニ

參列ヲ許可シ其着用スヘキ布衣ヲ別表第三

褒賞局・褒賞例

褒賞局・褒賞例

號ノ通り定ム

第六條 受賞者ノ旌章、對配衣體、疊輪袈裟、輪袈裟ノ佩用又ハ着用ハ總テ本人ノ終身ニ限り之ヲ相續者ニ繼承シ又ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ違反シタル者ハ相當ノ處分ヲ爲ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本教示發布ト同時ニ之ニ牴觸スル從前ノ諸規程ハ之ヲ廢ス

(別表第一號)

○旌章		徑	地	紋
等 級	徑			
一等一級	一寸二分	金地	金地	紋
一等二級	一寸	金地	金地	紋
二等一級	一寸二分	銀地	金地	紋
二等二級	一寸	銀地	金地	紋
三等一級	一寸二分	銀地	銀地	紋

三等二級	一寸	銀地	銀地	紋
四等一級	一寸二分	赤銅地	赤銅地	紋
四等二級	一寸	赤銅地	赤銅地	紋
五等一級	一寸二分	銀地	赤銅地	紋
五等二級	一寸	銀地	赤銅地	紋



第一種ハ下リ藤、第二種ハ五七桐、第三種ハ鶴之丸紋章トス

(別表第二號)

○疊輪袈裟		紋	紋徑	紋數
等 級	紋			
一等一級	紺 堅地	白浮織	一寸六分	十五

褒賞局・褒賞例

○布 衣		色	目
等 級	色		
一等一級	葉	裏	目
二等一級	薄	裏	目

◎紋章ハ旌章ニ同シ

(別表第三號)

一等二級	紺 堅地	白浮織	一寸六分	十五
二等一級	紺 堅地	白堆織	一寸五分	十三
二等二級	紺 堅地	白堆織	一寸五分	十三
三等一級	紺 堅地	白堆織	一寸四分	十二
三等二級	紺 堅地	白堆織	一寸四分	十二
四等一級	紺 堅地	白堆織	一寸三分	九
四等二級	紺 堅地	白堆織	一寸三分	九
五等一級	紺 堅地	白堆織	一寸二分	七
五等二級	紺 堅地	白堆織	一寸二分	七

(別表第四號)

○輪袈裟		紋	紋數	紋徑	地模樣
三等二級	萌	黃	子		
四等一級	鶯	梔	茶		
四等二級	鶯	梔	茶		
五等一級	鶯	梔	茶		
五等二級	鶯	梔	茶		

(別表第五號)

○肩 衣		目	紋
種 目	色 目	地 合	紋
甲種	香 色	羽二重	鶴之丸
乙種	香 色	奉書	鶴之丸

褒賞局・褒賞例第二條施行規程

○褒賞例第二條施行規程 (大正二年九月 甲達第二十號)

改正 大正一〇、一一 昭和五、一

- 一、褒賞例第二條第一種ニ該當スル賞與ハ職員就職後滿四ヶ年以上ニ於テ第一回ノ考查ヲナシ第三條第一號ノ賞與ヲ主トシ其功績表章各等級ニ相當セサルトキハ第二號以下ニ依リ又ハ之ヲ加賞ス
- 凡テ職員ハ第一回授賞後實役滿三ヶ年毎ニ其職務上ノ成績ヲ考查シ能ク其責務ヲ全フシ功勞アリト認ムルトキ上級ノ授賞ヲ行フ但シ特殊ノ功績ヲ認ムル時ハ前二項ノ年時ヲ短縮スルコトアルヘシ
- 無給職員ハ功勞考查ニ方リ無給ノ故ヲ以テ賞與ヲ加重ス第三條第一號褒賞ノ授賞ハ左ノ例ニ由ル
- 一、例授職員實役五年以上在職者ハ四等一級ニ至ラシムルコトヲ得
- 一、稟授職員實役八年以上在職者ハ三等一級ニ至ラシムルコトヲ得
- 一、親授職員實役六年以上在職者ハ二等一級ニ至ラシムルコトヲ得
- 一、特授職員實役三年以上在職者ハ一等一級ニ至ラシムルコトヲ得

ムルコトヲ得

- 一、褒賞例第二條第二種ニ該當スル褒賞ハ凡テ功勞ノ優劣ニ由リテ銓衡シ同等ノ功勞ニ對シテハ職員ニ非サル者ヲ重クス
  - 一、褒賞例第二條第三種ノ他ノ模範タルヘキ善行者ハ凡テ善行ノ優劣ニ由リテ銓衡シ金圓獻納者ノ授賞ハ左ノ例ニ依ル
- |          |      |
|----------|------|
| 金貳萬圓以上   | 一等一級 |
| 金壹萬五千圓以上 | 一等二級 |
| 金壹萬圓以上   | 二等一級 |
| 金七千圓以上   | 二等二級 |
| 金五千圓以上   | 三等一級 |
| 金參千五百圓以上 | 三等二級 |
| 金貳千五百圓以上 | 四等一級 |
| 金貳千圓以上   | 四等二級 |
| 金壹千五百圓以上 | 五等一級 |
| 金壹千圓以上   | 五等二級 |
- 若シ有給職員ニシテ俸給ヲ辭退シ有給ノ現職同等ノ勤務ニ從フ者ハ金額ヲ計上シテ本條ヲ適用ス
  - 一、右ノ場合ニ於テ上級表章ヲ授クルニ相當セサルト

○褒賞例第二條施行規程細則

(大正二年 九月 乙達第三十四號) 改正 大正七、五

- 一、職員ノ第一種功績調査ハ毎年一回之ヲ行フ
- 一、右調査ハ毎年七月十五日限り所屬上級職員ノ申告ヲ受理シ調査ノ上七月末日迄ニ執行ヨリ褒賞局長ニ回附ス
- 一、右成績調査ノ要件左ノ如シ
- 一、上級職員命令ノ遵奉
- 一、職務ノ勤勉

褒賞局・褒賞例第二條施行規程 褒賞例第二條施行規程細則

一、事務成績ノ優秀但シ難易ヲ考查シ情況ヲ參酌スルヲ要ス

- 一、役員懲戒ヲ受ケサルコト
- 一、實役年時ハ凡テ定年名簿ニヨル
- 一、有給職員トハ毎月定額ノ俸給手當ヲ受クルモノヲ指シ其他ノ臨時手當ノ如キハ無給トス
- 一、第一種表章ノ初授ハ例授及稟授ニ在リテハ五等二級、親授ニ在リテハ四等二級、特授ニ在リテハ三等二級ヲ普通トシ特別ノ功績アルトキハ甲達範圍内ノ上級授賞ヲ爲スコトアルヘシ
- 一、第二回ノ第一種表章ハ一級ヲ進ムルヲ普通トシ特別ノ功績アルトキハ甲達範圍内ノ上級授賞ヲ爲スコトアルヘシ
- 一、第二種第三種ノ功績調査ハ期日ヲ定メス何時ニテモ之ヲ行フ

褒賞局・戦時教務賞與條例

○戦時教務賞與條例 (明治三十七年十一月) (教示第二十三號)

改正 明治三八、一

第一條 本例ニ依リ賞與スヘキ者左ノ如シ

- 一、軍隊ニ從ヒ戰地ニ於テ布教ニ盡力スルノミナラス自己ノ危難ヲ顧ミス特殊ノ功績アリタル者
- 二、内地ニ於テ戰時布教事務ニ從事シ若クハ軍隊又ハ傷病兵ノ慰問ヲナシ其功績顯著ナル者
- 三、義勇奉公獎勵ノ爲メ説教演説等ヲ爲シ功績アリタル者

第二條 賞與品ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、特殊甲
  - 大五條 金襴、地紋入、五七桐、白浮紋
  - 疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附
- 一、特殊乙
  - 大五條 紅梅、地紋入、五七桐、白浮紋
  - 疊袈裟 同上、撚金白入交、紋十五附、裏白羽二重附
- 一、第一種
  - 大五條 松葉重色綾地五七桐、白浮紋撚金紋入

交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第二種 大五條 紫緯白堅地五七桐、白浮紋撚金紋入交

疊袈裟 同上、白浮紋十五附、裏白羽二重附

一、第三種 大五條 鶯色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第四種 大五條 柳茶色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第五種 大五條 鶯茶色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第六種 疊袈裟 藍海松堅地五七桐、白紋金茶紋入交、紋十五附 裏白羽二重附

第三條 特ニ殊功アリタル者ニハ疊袈裟ニ威儀紐ヲ附ス

第四條 威儀紐ヲ左ノ四等ニ分ツ

第二種 二等二級ニ准ス

第三種 三等二級ニ准ス

第四種 四等二級ニ准ス

第五種 五等一級ニ准ス

但シ大正七年十二月甲達第二十號發布以前ニ係ル第六種受賞者ニシテ五等二級ニ准セラル、者ハ本座二等通常衣體ヲ着用スルコトヲ得

○戦時教務賞與條例受賞者取扱ニ關スル件

(明治四十四年八月) (甲達第三十四號) 改正 大正七、一二

戦時教務賞與條例受賞者ハ自今左ノ通り特別賞與條例及褒賞例等級ニ准シ取扱相成ル

戦時教務賞與條例

受賞者 特別賞與條例

特別甲 一等ニ准ス

特別乙 三等ニ准ス

第一種 褒賞例 一等二級ニ准ス

褒賞局・戦時教務賞與條例 戦時教務賞與條例受賞者取扱ニ關スル件 本座事務員受賞者有階者待遇規程

○本座事務員受賞者有階者待遇規程

(大正七年十二月) (甲達第十九號) 改正 大正一五、一〇〇 昭和 八、一〇〇

一、身分等級對配左ノ如シ

身分等級	對配
特授一等	上座一等別格衣體
特授二等	上座一等甲種特別衣體
特授待遇	上座一等通常衣體

本座事務員受賞者有階者待遇規程

褒賞局・本山事務員受賞者有階者待遇規程

親授一等	上座二等甲種特別衣體
親授二等	上座二等特別衣體
親授三等	上座二等通常衣體
親授待遇	本座一等甲種特別衣體
稟授一等	本座一等特別衣體
稟授二等	本座一等通常衣體
稟授三等	本座二等特別衣體
稟授四等	本座二等通常衣體
稟授五等	本座二等通常衣體
稟授待遇	

一、組長副組長ニシテ准等ヲ有スル者モ本表ニ准ス  
 一、有階者對配左ノ如シ

學階	對配
勸學十年以上ニテ本講經歷濟	上座一等別格衣體
勸學五年經由ニシテ副講經歷濟	上座一等通常衣體
司教	上座二等甲種特別衣體
司教	上座二等特別衣體
司教	上座二等通常衣體

一、受賞者對配左ノ如シ

輔教 五年經歷經由又ハ都録濟	本座一等甲種特別衣體
輔教	本座一等特別衣體
準助教	本座一等通常衣體
準助教	本座二等特別衣體
準得業	本座二等通常衣體

受賞者等級	對配
褒賞例一等一級	上座一等甲種特別衣體
褒賞例一等二級	上座一等特別衣體
褒賞例二等一級	上座二等甲種特別衣體
褒賞例二等二級	上座二等特別衣體
褒賞例三等一級	本座一等甲種特別衣體
褒賞例三等二級	本座一等特別衣體
褒賞例四等一級	本座一等通常衣體
褒賞例四等二級	本座二等特別衣體
褒賞例五等一級	本座二等通常衣體
褒賞例五等二級	本座二等通常衣體

參考  
 明治四十四年九月甲達第三十八號及甲達第四十一號ヲ廢ス

監正局

- 監正局規程：二五七
- 監正條例：二五七
- 懲戒條規：二五三
- 赦免例：二四六
- 事務員懲戒例：二四七
- 監正處分猶豫者身分資格規程：二四九
- 監正局監事駐在事務所之件：二五〇

監正局

○監正局規程 (大正十年八月) (甲教示第十五號)

第一條 監正局ニ左ノ二部ヲ置ク

第一部

派内懲戒事件ノ調査並ニ審決ノ要求及之ニ關スル事務ヲ取扱フ

第二部

第一部ノ要求ニ對シ審決及之ニ關スル事務ヲ取扱フ

第二條 監正局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一名

監事 若干名

審事 若干名

録事 若干名

第三條 局長ハ局務ヲ統理ス

第四條 監事ハ第一部ノ事務ヲ處理シ局長事故アルト

キハ其事務ヲ代理ス

第五條 審事ハ第一部ノ要求ニ對シテ審理判定ス

監正局・監正局規程 監正條例

第六條 録事ハ庶務ニ従事ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○監正條例 (大正十年八月) (法度第八號)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ派内ノ懲戒事件及各規程ニ依ル申告ニ適用ス但シ連枝ニ關シテハ別ノ規定ニ依ル

第二條 懲戒事件ニ關シテハ執行監督ノ下ニ監正局長之ヲ掌理シ監事ヲシテ調査セシメ審決會ノ審決ニ附スルモノトス

第三條 申告ハ監正局長ニ提出スヘシ監正局長ハ監事ヲシテ調査セシメ審決會ノ審決ニ附スルモノトス

第四條 審決會ノ審決ハ初審、再審トス

第五條 懲戒及申告事件ノ當事者ハ審事ヲ忌避スルノ



監正局・監正條例

- 申立ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 監正局員職務執行ニ付自ラ回避ノ申立ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 忌避回避ノ申立ハ其事由ヲ詳記シ監正局長ニ提出スヘシ
- 第八條 懲戒及申告事件ノ當事者ハ審決會ノ許可ヲ得テ代辯人ヲ同行シ又ハ代辯人ノミヲ出頭セシメテ之カ審理ヲ受クルコトヲ得
- 代辯人ハ稟授以上ノ派内ノ僧侶ニ限ル
- 第九條 審事、監事互ニ兼任スルコトヲ得ス
- 第十條 監正局ノ重要ナル書類ノ發送ハ配達證明附書留郵便トスヘシ
- 第十一條 懲戒申告事件ニ付却下セラレタル場合ハ被申告者ハ其申告ノ原由ニ惡意アリト認メタルトキハ其者ニ對シ更ニ申告ヲ爲スコトヲ得各規程ニ依ル申告事件ニ付テモ亦同シ
- 第十二條 監正局長及審事監事ハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
  - 一、派内ノ職員及其他ノ僧侶ヲ指揮スルコト
  - 二、派内ノ職員ヲ喚問スルコト

三、事件ノ關係者ヲ喚問スルコト

四、事件ノ關係書類及物件ノ提出ヲ命スルコト

第十三條 懲戒申告事件ノ費用ハ本山ヨリ支辨ス各規程ニ依ル申告事件ノ費用ハ監正局長ノ指定スル金額ヲ申告者ヨリ豫納セシムルコトヲ得

第十四條 申告ハ左ノ事由ニ依テ消滅ス

- 一、被申告者ノ死亡
- 二、懲戒處分ニ該當セサル申告事件ニ付テハ其者ノ取下、和解、拋棄
- 三、確定審決
- 四、反則ノ後發布セラレタル法規ニ因リ其反則ノ廢止

五、赦免

六、時效

第十五條 時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

但シ他ニ特別ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル

- 一、奪度牒ニ該當セル反則ニ付テハ十年
- 二、其他ノ重懲戒ニ該當セル反則ニ付テハ七年
- 三、輕懲戒ニ該當セル反則ニ付テハ五年
- 四、諭戒ニ該當セル反則ニ付テハ一年

第二章 懲戒其他ノ手續

第一節 審決會ノ構成及權限

- 第十六條 審決會ハ初審再審トモニ三名以上ノ審事及一名ノ録事ヲ以テ構成シ上席審事ヲ以テ會長トス
- 第十七條 審決會ノ審決ニ對シテハ派内ノ何人ト雖モ干渉スルコトヲ得ス
- 第十八條 審事ハ懲戒處分ニ依ルニ非サレハ其意ニ反シテ免職、休職、轉職セラル、コトナシ
- 第十九條 初審審決ニ干與シタル審事ハ再審審決ニ干與スルコトヲ得ス

第二節 懲戒事件ニ關スル申告手續

- 第二十條 何人ト雖モ派内僧侶ノ法度教示ニ違反シタルコトヲ認知シタルトキハ之カ申告ヲ爲スコトヲ得
- 第二十一條 本山役員及組長ハ末寺僧侶ニ反則行爲アルコトヲ認知シタルトキハ之カ申告ヲ爲スヘシ
- 第二十二條 申告ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ署名捺印ノ上差出スベシ
  - 一、被申告者ノ氏名、原籍、住所、身分、所屬寺
  - 二、事實
  - 三、證據

監正局・監正條例

第二十三條 申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ監事又ハ録事ハ口述書ヲ作り之ヲ讀ミ聞カセ署名捺印セシムヘシ

第三節 監正局第一部ノ取調及終局手續

第二十四條 監正局長ハ末寺僧侶ニシテ宗法違反ノ行爲アルコトヲ認知シタルトキ又ハ申告ヲ受ケ事件受理スヘキモノト認メタルトキハ監事ヲシテ之カ取調ニ着手セシム

第二十五條 監事ハ懲戒處分ニ依ルニ非サレハ其意ニ反シテ免職、休職、轉職セラル、コトナシ

第二十六條 被申告者又ハ證人ノ身分特授若クハ集會開會中ノ會衆ニ係ルトキハ左ノ手續ヲ行ヒタル上召喚狀ヲ發スヘシ

- 一、特授 執行ノ承認ヲ經ルコト
- 二、會衆 集會ノ承認ヲ經ルコト

第二十七條 正當ノ理由ナク召喚ニ應セサル者ハ懲戒條規ニ依リ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第二十八條 監正局長ハ執行ノ同意ヲ得テ管事又ハ地方在住ノ稟授二等以上ノ經歷ヲ有スル僧侶ニ臨時監

監正局・監正條例

正局監事ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

第二十九條 宗意違反ニ關スル事件ハ勸學又ハ司教中ヨリ特命シテ之カ取調ヲ爲サシム

但シ監事ノ立會ヲ要ス

第三十條 監正局第一部ノ取調ハ調書ヲ作り供述者ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第三十一條 事件ニ對スル取調終結シタルトキハ監事ハ論告書ヲ作成シ一件書類事件ノ證據及參考トナルヘキ事物ヲ監正局長ニ提出ス局長ハ之ヲ執行ニ開申シ第二部ニ移シ初審審決會長ニ交附ス

但シ事件ノ性質ニ依リテハ和解ヲ勸メ若クハ戒飭ヲ加ヘ第二部ニ移サ、ルコトアルヘシ

第四節 初審審決手續

第三十二條 懲戒事件ニ關スル審決ハ必ス本人ヲ喚問シテ行フヘシ

但シ左ノ場名ニ於テハ缺席審決ヲ爲スコトヲ得

一、缺席審決ヲ申出タル者

二、國法ニ觸レ刑ノ執行中ノ者

三、疾病其他ノ事由ニ因リテ三週日間ヲ經過スルモ自己又ハ代辯人出頭セサル者

第三十三條 審決會ノ審問期日ハ一週日前ニ到着ノ日

取ヲ以テ事件ノ當事者ニ通知スヘシ

第三十四條 審決手續ニ付テハ第二十四條、第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 審決會ハ必ス監事ノ立會ヲ要ス立會監事ハ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十六條 錄事ハ被申告者及證人、鑑定人ノ供述ヲ筆記シ之ヲ讀ミ聞セ署名捺印セシムヘシ

第三十七條 審決ハ當該審事合議ノ上多數ノ意見ニ依リ之ヲ決シ執行ニ開申ス

第三十八條 審決原本ニハ關與ノ審事及錄事署名捺印スヘシ

第三十九條 審決ノ申渡ハ審決會ノ名ニ於テ審決謄本ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十條 審決申渡書ハ錄事之ヲ作り審決ヲ爲シタル後遲滞ナク當事者ニ送致スヘシ

第四十一條 懲戒事件ノ審決申渡書ハ左ノ事項ヲ明示スヘシ其他ノ審決申渡書モ之ニ準ス

一、被申告者ノ氏名、原籍、住所、身分、年齢、所屬寺

コトヲ得

第四十六條 監正局長ハ再審ノ申立ヲ受ケタルトキハ速ニ一件書類ト共ニ再審審決會長ニ交付ス

第四十七條 再審ノ申立ハ其審決前ニアリテハ之ヲ取り下ルコトヲ得

第四十八條 再審審決ニ特別ナル規定ノ外ハ其審決ノ手續ニ付テハ總ヘテ初審審決ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十九條 再審審決會ニ於テ再審申立ノ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下ス

第五十條 再審審決會ニ於テ初審審決ハ其手續ニ不備アリト認ムルトキハ初審審決ヲ破棄ス此場合ニ於テハ監正局長ハ他ノ審事ヲ以テ構成シタル初審審決會ニ交付シ更ニ審決ヲ爲サシム

第五十一條 再審審決會ニ於テ初審審決ハ不當ニ事實ヲ確定シ又ハ不當ニ法規ヲ適用シタルト認ムルトキハ初審ヲ廢棄シ自ラ審決スヘシ

第六節 懲戒處分ノ執行手續

第五十二條 懲戒處分ノ執行ハ審決確定ノ上執行之ヲ行ヒ且ツ派内ニ公示ス執行ノ猶豫ノ場合モ亦同シ

第五十三條 懲度牒處分ノ執行ニ付テハ執行前集會ノ

監正局・監正條例

第四十四條 審決原本及審決始末書ハ一件書類ト共ニ監正局第一部ニ保管ス

第五節 再審審決手續

第四十五條 事件ノ當事者初審審決ニ對シ審決申渡書送達ノ日ヨリ十日以内ニ監正局長ニ再審ヲ申立ツル

二、主文

三、事由

四、審決申渡ノ年月日

五、再審申立期間

第四十二條 錄事ハ審決始末書ヲ作り左ノ事項其他一切ノ審決手續ヲ記載スヘシ

一、被申告者又ハ原被告ノ氏名、原籍、住所、身分、年齢、所屬寺、前反ノ有無

二、審問及其供述ノ要旨

三、證據物件

四、審問中監事ノ意見ノ要旨

五、審決ノ要旨、其年月日、審決シタル審事、錄事立會シタル監事ノ氏名

第四十三條 審決始末書ニハ審決會長及錄事署名捺印スヘシ

第四十四條 審決原本及審決始末書ハ一件書類ト共ニ監正局第一部ニ保管ス

監正局・監正條例 懲戒條規

議ヲ經ルコトヲ要ス

第五十四條 有期懲戒ノ決行ハ決行期間ヲ指定ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本條例ニ牴觸スル從前ノ諸規程ハ之ヲ廢ス

○懲戒條規 (大正十年七月 法度第六號)

改正 大正一五、四

第一章 總 則

第一條 本條規ハ派内僧侶及教士ノ反則者ヲ懲戒スル條規トス

第二條 本條規ニ明文ナクシテ他ノ法度ニ懲戒ノ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ル

第三條 懲戒ハ重懲戒、輕懲戒、諭戒トス

第四條 重懲戒ハ無期、輕懲戒ハ有期トシ有期懲戒ハ

一月以上十年以下トス

第五條 輕懲戒ニ處セラレタルモノハ情狀ニ依リ處分確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期間内其決行ヲ猶豫スルコトヲ得但シ前ニ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタル者ハ此限リニアラス

第六條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ處分決行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ  
一、猶豫期間内ニ更ニ反則ヲナシ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタルトキ

一、猶豫ノ言渡シ前ニ犯シタル他ノ反則ニ就キ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタルトキ

第七條 處分決行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ懲戒ノ申渡ハ其效力ヲ失フ

第八條 精神喪失者ノ行爲若クハ不慮ノ災變ニ因リ止ムヲ得サルニ出タル行爲ニ對シテハ懲戒ヲ加ヘス

第九條 數反俱發ノトキ又ハ一ノ反則行爲ニシテ懲戒ノ條項中各號ノ二以上ニ該當スルトキハ其重キニ從テ處分ス

第十條 左ノ反則者ハ懲戒處分ヲ加重ス

當スル反則アリタルトキハ停說教ニ處ス

第二章 懲戒分類

第十三條 左ニ掲ケタルモノハ重懲戒トス

一、奪度牒 奪度牒ハ本派僧侶ノ分限ヲ擴黜ス

二、罷教師 罷教師ハ教師又ハ準教師ヲ免ス

三、免住職 免住職ハ住職、副住職、兼務住職ヲ免シ又ハ前住職ノ資格ヲ奪フ

四、罷教士 罷教士ハ教士ヲ免ス

第十四條 左ニ掲ケタルモノヲ輕懲戒トス

一、停說教 停說教ハ說教、法話、講演ヲ停止ス

二、停堂班 停堂班ハ堂班着席並ニ衣體ノ着用ヲ停止ス

三、停僧儀 停僧儀ハ僧服用ヲ停止ス

四、停教士 停教士ハ教士ノ資格ヲ停止ス

第十五條 左ニ掲ケタルモノヲ諭戒トス

一、譴責 譴責ハ文書ヲ以テ戒飭ス

第十六條 第十三條ノ處分ヲ受ケタル者ハ本山ヨリ受ケタル賞典、恩典及名譽ノ表彰ヲ失フ第十四條ノ處分ヲ受ケタル者ハ之ヲ停止ス

奪度牒、罷教師ノ處分ヲ受ケタル者ハ同時ニ學階ヲ

監正局・懲戒條規

一、累反、共反ノ主謀者

二、情狀ノ重キ者

第十一條 左ノ反則者ハ懲戒處分ヲ減輕スルコトヲ得

一、反則ヲナシ前非ヲ悔悟シ未タ發覺セサル前自首シタル者

二、反則ノ實行ニ着手シ未タ遂ケサル者

三、金錢物品ノ損害ヲ辨償シタル者

四、反則ノ幫助ヲ爲セシ者

五、反則ノ情狀輕キ者及反則ノ情狀憫諒スヘキ者

第十二條 本條規ノ懲戒條項ヲ左ノ如ク換用スルコトヲ得

一、堂班ノミ有スル者罷教師免住職停說教ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停堂班ニ處ス

二、教師(準教師)ノミ有スル者免住職停堂班ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停說教ニ處ス

三、堂班、教師(準教師)併有ノ者免住職ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停堂班若クハ停說教ニ處シ又停堂班ニ該當スルトキ現ニ停堂班處分中ノ者ハ停說教ニ處ス

四、住職ニテシ堂班ヲ有セサル者停堂班ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停說教ニ處ス

監正局・懲戒條規

褫奪シ免住職、停説教、停堂班ノ處分ヲ受ケタル者ハ學階ニ對スル待遇ヲ停止ス罷教師又ハ免住職ノ處分ヲ受ケタル者ハ同時ニ堂班ヲ停止ス

第十七條 奪度牒ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、佛祖ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者
- 二、法主ニ對シ不遜ノ行爲アリタル者
- 三、宗意ニ悖リタル異説ヲ主張シ教諭ニ服セサル者
- 四、轉宗轉派ヲ企圖シタル者
- 五、國法ノ處分ニ依リ禁錮以上ノ處刑ヲ受ケタル者
- 六、背法沒道ノ行爲ヲナシ僧侶ノ本分ヲ失墜シタル者

七、罷教師ノ處分ヲ受ケ尙非行ヲ改メサル者

第十八條 罷教師ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、本山ノ認可ナキ佛像等ヲ堂内ニ安置シ又ハ禁厭、祈禱ニ類スル行爲アリタル者
- 二、不正行爲ニ由リ本山ニ損害ヲ及シタル者
- 三、衆徒ニシテ猥リニ所屬寺ヲ離レ住職ノ命令ニ違背スル者
- 四、世間ニ對シ宗派ノ威信ヲ損傷スル行爲アリタル者

五、免住職ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者

第十九條 免住職ノ懲戒ニ處スヘキ者左ノ如シ

- 一、家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者
- 二、非行ニ依リ多數檀信徒ノ不歸依ヲ招キタル者
- 三、猥リニ法寶物及寶物ヲ典賣讓與シ又ハ寺有財産ヲ消費シタル者
- 四、猥リニ派内共有ノ金品ヲ費消シ又ハ使用シタル者
- 五、停説教又ハ停堂班ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者

第二十條 罷教士ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、不正行爲若クハ品行不良ノ爲メ一派ノ名譽ヲ汚瀆シタル者
- 二、宗意ニ悖リタル異説ヲ主張シ教諭ニ服セサル者
- 三、停教士ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者
- 第二十一條 停説教ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
- 一、宗意ニ悖リタル異説ヲ唱ヘタル者
- 二、説教、法話又ハ講演ヲナスニ當リ野卑猥褻ノ言辭ヲ弄シ宗門ノ威信ヲ傷ケタル者
- 三、廉耻ヲ破リ品行不良ニシテ僧侶ノ體面ヲ汚ス行爲アリタル者

十三、猥リニ法寶物及寶物ヲ貸與シ因テ利ヲ計リタル者

十四、猥リニ他寺檀徒ノ法務ヲ取扱ヒタル者

十五、檀信徒ヲ教唆シテ果テ派内事務所ニ及ホシタル者

十六、法類ノ和合ヲ破リタル者

十七、猥リニ他宗派ノ用務ニ從ヒ損害ヲ派内ニ及ホシ又ハ派内ノ名譽ヲ汚シタル者

十八、猥リニ他宗派ノ寺院説教所ノ招聘ニ應ジタル者

十九、猥リニ他宗派ノ僧侶ヲ招キ説教又ハ法務ヲ爲サシメタル者

二十、罰金、拘留又ハ科料ニ處セラレタル事情重キ者

第二十三條 停僧儀ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、未教師無堂班ニシテ罷教師以下ノ懲戒ニ該當スヘキ反則ヲナセシ者
- 第二十四條 停教士ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
- 一、宗意ニ悖リタル異説ヲ唱ヘタル者
- 二、品行不良ノ者

監正局・懲戒條規

四、寺族又ハ寺檀ノ間ニ紛議ヲ醸シタル者

第二十二條 停堂班ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、法度、教示ニ從ハス若クハ派内事務ノ施行ヲ妨ケタル者
- 二、派内事務所ニ對スル義務金ヲ納付セサル者
- 三、派内事務所ニ對シ虚偽ノ申立ヲナシタル者
- 四、派内事務所ニ對シ他人ヲ誣告シタル者
- 五、派内職員ノ職務施行ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者
- 六、派内事務所ノ命令ヲ受ケ故ナク之ニ應セサル者
- 七、職員猥リニ職務外ノ事ヲナシテ損害ヲ本山又ハ他人ニ及シタル者
- 八、職員ニシテ賄賂ヲ收受シタル者
- 九、本山ノ職名等級又ハ姓名、寺號、堂班、教師、學階、法藹等ヲ詐稱シタル者
- 十、堂宇ヲ諸興行等ニ貸與シ及猥リニ政談演説等ニ使用シ又ハ寺院ノ尊嚴ヲ汚スヘキ行爲アリタル者
- 十一、堂宇及境内ヲ猥リニ他宗教派ノ使用ニ貸與シタル者
- 十二、成規ノ衣體ヲ濫用シタル者

監正局・懲戒條規 赦免例

- 三、教士ニシテ正規ノ服裝ヲ濫ル者
- 第二十五條 誹責ノ諭戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、過テ火ヲ失シ堂宇等ヲ燒亡シタル者
  - 二、過誤ニ依リ反則シタル者
  - 三、其他輕キ反則ヲ爲シタル者

第三章 附 則

第二十六條 第十七條第二號ハ管長事務取扱ニモ亦之ヲ準用ス

第二十七條 本條規ハ他ノ法規ニ於テ懲戒ヲ定メタルモノニモ亦之ヲ適用ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本法度ノ發布ト同時ニ之ニ牴觸スル法度ノ諸規程ヲ廢ス

○赦 免 例 (大正十年七月 法度第七號)

第一條 赦免、特免、免除及減輕ハ本例ニ定ムルトコロニ依ル

第二條 赦免ハ一派ノ最大慶弔ニ際シ法主ノ特命ニ依リ教示ヲ以テ赦免スヘキ懲戒ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第三條 赦免ハ懲戒審決ヲ受ケタル者ニ對シテハ其審決ハ將來ニ向テ其效力ヲ失ヒ審決前ノ者ニ對シテハ其審決手續ヲ取消ス

第四條 赦免ヲ受ケタル者後日他ノ反則ニ依リ懲戒審決ヲ受ケルニ果反ヲ以テ論セス

第五條 特免ハ懲戒決行中ノ特定ノ者ニ對シ特別ノ事由アル場合法主ノ特命ニ依リ之ヲ行フ

第六條 免除減輕ハ懲戒決行中ノ前非悔悟ノ實跡アル者ニ對シテ之ヲ行フ

第七條 處刑ヲ受ケタルニ依リ懲戒ニ處シタル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル後滿一年ヲ經過セサレハ本例ヲ適用セス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○事務員懲戒例 (大正二年九月 甲教示第九號)

改正 大正七、五 昭和五、一

第一章 總 則

第一條 事務員ニ對スル職務上ノ懲戒ハ本例ニ由ル

第二條 本例ニ於テ事務員ト稱スルハ本山ヨリ六ヶ月以上繼續シテ俸給手當ヲ給與セラレ又ハ例授以上ノ待遇ヲ受ケ派内ノ公務ニ從事スル者ヲ總稱ス財團等ノ獨立幹部ニシテ本山關係ノ團體事務員ハ之ニ準ス

第三條 事務員ニシテ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

一、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務上ノ過誤及怠慢アリタルトキ

一、職務ノ内外ヲ問ハス事務員ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ行爲アリタルトキ

第四條 懲戒ヲ分チテ左ノ二種トス

一、重懲戒

第五條 重懲戒ハ免職停職ノ二トシ減俸及金錢ノ損害賠償ヲ附加スルコトアルヘシ

第六條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ休職ト現職トヲ問

監正局・事務員懲戒例

ハス他ノ職務ヲ帶フルトキ凡テ之ヲ免ス

第七條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ滿二ケ年ヲ經サレハ再ヒ事務員ニ任用セラル、ヲ得ス

第八條 停職ノ處分ヲ受ケタル者ハ總テノ職務ヲ停止シ俸給及事務員ノ身分待遇ヲ停止ス

第九條 停職ノ處分ハ最小期限ヲ三ヶ月トス

第十條 本例ニ依リ免職ニ處セラレタル者ハ替事名簿登錄、錄事名簿登錄及讚衆名簿登錄資格ヲ失フ

第十一條 輕懲戒ハ定年增加減俸誹責ノ三トシ金錢損害賠償ヲ附加スルコトアルヘシ

第十二條 定年增加ハ一ケ年以内、減俸ハ一ヶ月以上一年以下俸給手當ノ三分ノ一以内ヲ限度トス

第十三條 誹責ハ所屬幹部長若クハ執行長署名ノ文書ヲ以テス

第十四條 重懲戒輕懲戒ニ附加セラレタル辨償金ヲ納付セサル時ハ之ヲ寺法懲戒ニ移ス

第十五條 懲戒ニ附セラレヘキ事件ニ付キ寺法ノ懲戒審査ニ附セラレタルトキハ其審決ヲ終ルマテ事務員懲戒審査會ノ審議ヲ停止ス

第十六條 其職務ヲ去リタル後滿三ケ年以内ニ於テ該

監正局・事務員懲戒例

職ニ付懲戒ニ付スヘキ事實ヲ發見スルトキハ左ノ通り處分ス若シ事實ニシテ金錢ノ損害賠償ヲ伴フトキハ五ヶ年以内ノ發見ニ及ヒ其處分ニ損害賠償ヲ附加ス

一、重懲戒ニ相當スヘキ者ニシテ本人總テ現職ニ在ラサレハ當時俸給額ノ三ヶ月分以内ニ於テ納金セシメ若クハ二ヶ年以内ニ於テ休職又ハ豫備事務員ノ身分待遇ヲ停止シ又ハ之ヲ罷免ス

一、輕懲戒ニ相當スヘキ者ニシテ本人總テ現職ニ在ラサレハ當時俸給額ノ一ヶ月分以内ニ於テ納金セシメ若クハ一ヶ年以内ニ於テ休職又ハ豫備事務員ノ身分待遇ヲ停止ス

一、賠償及納金ニ應セサルトキハ寺法懲戒ニ移ス  
第十七條 數科併發シタルトキハ其重ニ從ヒ輕重ナクレハ其一ニ從テ之ヲ論シ再犯ノ場合ハ相當ノ加重ヲナス

第二章 申告並ニ懲戒手續

第十八條 上級事務員ハ所屬事務員ニシテ第三條ノ行爲アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ監正局長若クハ監正局監事ニ申告スヘシ他ノ事務員ニシテ爲メニ執

所屬獨立幹部長ヨリ十日以内ニ異議ヲ申立ツルトキハ再審ニ付ス

第二十四條 懲戒審決ハ再審ヲ以テ終審トス

第二十五條 審決ヲ了シタルトキハ監正局長ハ執行及所屬獨立幹部長ニ報告シ執行若クハ所屬獨立幹部長ハ相當手續ノ上處分ヲ實行ス

第三章 事務員懲戒委員會

第二十六條 事務員懲戒委員會ハ委員三名若クハ五名ヲ以テ組織シ事務員中ヨリ臨時任命セラレ上席委員委員長トナル

第二十七條 再審委員ハ初審ト同人ヲ任命スルコトナシ

第二十八條 事務員懲戒委員會ノ審決ハ委員ノ多數意見ニ依ル若シ同數ナルトキハ委員長之ヲ決定ス

第二十九條 監正局長及監正局監事ハ事務員懲戒委員會ニ出席シ意見ヲ述フ

第三十條 事務員懲戒委員會ハ事件ノ調査不十分ト認ムルトキハ直接調査ニ從事スルコトヲ得

第三十一條 事務員懲戒委員會ノ事務ハ特ニ係員ヲ任命スル場合ノ外監正局録事之ニ當ル

監正局・事務員懲戒例 監正處分猶豫者身分資格規程

務ノ阻礙ヲ受ケタルトキハ其事務員ヨリ一般僧侶ニシテ爲メニ損害ヲ受ケタルトキハ其僧侶ヨリ同シク申告ヲ爲スコトヲ得

第十九條 監正局長若クハ監正局監事ハ前條ノ申告ヲ受ケタルトキハ直ニ事實ノ調査ニ從事スヘシ若シ申告カ監正局長及其ノ親屬ニ關スルトキハ臨時直命ヲ以テ特授事務員中若クハ親授一等贊事ヨリ任命シ監正局長ノ事務ヲ執ラシム

第二十條 前條ノ事實調査ヲ了シタルトキハ監正局長ハ論告ヲ添ヘ調査書ヲ執行ニ提出スヘシ執行ハ事務員懲戒委員會ヲ開設シ該一件書類ヲ事務員懲戒委員長ニ回付シ審決セシム

第二十一條 事務員懲戒委員會ノ審査ハ本人ヲ召喚シ其申立ヲ聽取シタル上處分ヲ決ス但シ委員三分ノ二以上其必要ナシト認ムルトキ及本人之ニ應セサルトキハコノ限ニ非ス

第二十二條 本人ノ召喚ニハ懲戒處分ノ事實ナキ場合ニ限り旅費實額ヲ給ス

第二十三條 初審審決ハ懲戒委員會ヨリ本人ニ申渡シ執行及所屬獨立幹部長ニ報告ス若シ本人及監正局長

附 則  
本教示ハ大正二年十月一日ヨリ施行ス

○監正處分猶豫者身分資格規程

(大正七年五月)  
甲教示第六號

改正 大正一一、一 昭和五、一

第一條 處分決定行猶豫期間ハ左記公職ニ就クヲ得ス若シ就職中ノ者ハ即日退職ヲ命ス

- 本山事務員
- 學校教職員
- 布教使
- 特選會衆、總代會衆、教區會衆
- 各財團並係員
- 組長副組長、用係、組内協議員
- 婦人會、青年會等凡テ教會講社役員及一時任命ノ事務員、雇員

監正局・監正處分猶豫者身分資格規程 監正局監事駐在事務所ノ件

第二條 處分決行猶豫者ハ左記各項ヲ其期間之ヲ停止ス

賞典 特別賞典條例、褒賞例、戰時教務賞典條例ノ受賞

恩典 相當冥加御禮金ニ依ラサル堂班、私記嘆徳文、巡讃、特種衣體等ノ恩許ニ係ルモノ及酬勞年金

名譽ノ表彰、別格寺以外ノ侍眞、侍眞補、衲衆前職待遇

第三條 處分決行猶豫者ハ輕重懲戒ヲ分テ左ノ資格ヲ失フ

贊事名簿登錄

錄事名簿登錄

讚衆名簿登錄

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
本規程ニ牴觸スル從前ノ達令ハ之ヲ廢ス

○監正局監事駐在事務所ノ件

(大正七年五月) 改正 大正七、八  
(乙教示第一號)

今般別記各所ニ監正局監事ヲ駐在セシメ教區及開教區域内賞罰ニ關スル調査事務ヲ取扱ハシム  
(別記)

駐在	地	事務所	所
臺	灣	臺	院
朝	鮮	朝	院
滿	洲	關	院
布	哇	布	院
北	米	羅	院
合	衆	府	院
國		別	院

附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

別院

別院職制	… 二五二
別院事務章程	… 二五二
別格別院職制	… 二五三
別院表	… 二五三
別院輪番疊着席之件	… 二五三
親授以上ノ輪番へ登禮盤許可之件	… 二五三

別院

○別院職制 (明治四十二年八月 甲教示第二十八號)

改正 明治四四、一 大正六、一  
大正 三、三 大正八、一二

第一條 別院ハ法主ノ兼務ニシテ至重ノ法要ハ親修トス

第二條 別院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 輪 番 一 名
- 輪 番 助 勤 若 干 名
- 參 勤 若 干 名
- 承 仕 若 干 名
- 堂 掌 若 干 名
- 勘 定 若 干 名
- 加 談 若 干 名

第三條 輪番ハ法務其他院内ノ事務及崇敬門末ノ教導ヲ掌リ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條 輪番助勤ハ輪番ヲ佐ケ輪番事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條 參勤ハ讚衆ヲ以テ任シ上職ノ指揮ヲ受ケ法務

別院・別院職制 別院事務章程

ヲ佐ケ

第六條 承仕ハ上職ノ指揮ヲ受ケ法務及庶務ニ従事ス

第七條 堂掌ハ上職ノ指揮ヲ受ケ雜務ニ従事ス

第八條 勘定ハ輪番ノ指揮ヲ受ケ金穀出納ヲ取扱フ但シ本山ヨリ別ニ取扱人ヲ置キ勘定ニ參與セシムルコトアルヘシ

第九條 加談ハ輪番ノ諮詢ニ應シ院務ニ參與スルコトアルヘシ

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○別院事務章程 (明治三十年七月 教示第六號)

改正 明治四一、二 明治四二、八  
大正 三、三 大正 六、一

第一條 別院定例法會修行ノ時日勤式裝束ハ輪番ヨリ崇敬門末ニ達シ親修法要ノ時ハ出張會行事若クハ會



別院・別院事務章程

- 役者ヨリ達スルモノトス
- 第二條 別院定例法會ノ勅式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 臨時法要ハ輪番ヨリ伺出ツヘキモノトス
- 第四條 輪番ハ外陣ニ着席スルモノトス但シ侍眞侍眞補ニシテ輪番ヲ命セラレタルトキハ堂班ノ首席ニ着スルモノトス
- 第五條 直參門徒ノ法要葬式等ハ輪番ノ任務トス
- 第六條 輪番ハ別院ノ布教ニ關シテハ管事又ハ開教總長若ハ監督ト協同動作シ別院所屬ノ布教使ヲ指揮ス
- 第七條 別院ハ崇敬門末ニ就キ法義篤信ニシテ名望アル者若干名ヲ舉ケ輪番ヨリ本山ハ具申シ本山ヨリ勅定ノ囑託書ヲ交付スルモノトス但シ任期滿三年トス
- 第八條 別院ハ勅定ノ中ニ就テ三名以上五名以下ヲ選ヒ當直勘定ヲ定ムルモノトス
- 第九條 勘定取締役一名當直勘定一名ハ別院ニ常勤スルモノトス
- 第十條 勘定取締役ハ一般勘定ノ首席トス
- 第十一條 勘定取締役又ハ當直勘定ニシテ總勘定ノ會議ヲ要スル場合アルトキハ其旨ヲ輪番ニ告ケ輪番ヨリ總勘定ヘ召集狀ヲ發スルモノトス

- 第十二條 前條召集ノ總勘定多數ノ意見ト取締役及當直勘定ノ意見ヲ異ニスルトキハ輪番之ヲ裁決スヘシ輪番若シ裁決シ難キトキハ本山ノ指揮ヲ乞フモノトス
- 第十三條 勘定取締役並ニ當直勘定ハ別院毎月ノ收入經費ヲ帳簿ニ明記シ月末ニ之ヲ計算シ過不足ヲ詳記シタル表ヲ作り各自記名押印シ輪番ノ證明書ヲ受ケ毎月本山ニ差出スヘシ但シ當月ノ分ヲ翌月五日限り差出スヘシ
- 第十四條 勘定ハ院費ノ節減ヲ口實トシテ教義宣布ノ費用支出ヲ拒ミ又ハ輪番ノ關ラサル事故ニ對シ支出スルコトヲ得ス
- 第十五條 勘定ハ佛事勤式等ノ法務ニ干渉スルヲ得ス
- 第十六條 別院所有ノ動産不動産ヲ職員ノ名受ニスルコトヲ得ス必ス本山或ハ別院ノ名受トスヘシ
- 第十七條 別院ノ財産賣買及金錢貸借ニ關スル事件ハ其都度本山ヘ委任狀ヲ請フモノトス
- 第十八條 前條ノ委任狀ヲ請ハスシテ監院又ハ輪番以下職名ヲ肩書シ役員ヲ用ヒ金錢ヲ借入ル、トモ全ク其取扱人ノ私債ニシテ本山及別院ニハ毫モ關係ナキ

○別格別院職制 (明治三十八年 教示第二十號)

改正 大正六、八 昭和六、五

- 第一條 別格別院ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 鑒事 一名
  - 參勤 若干名
  - 承仕 若干名
  - 勘定 若干名
- 第二條 鑒事ハ住職ノ指揮ヲ受ケ法要其他ノ院務ヲ處理ス

別院・別院事務章程 別格別院職制 別院表

院ノ維持發達ニ關スル事項ハ勘定ノ協議ヲ經ヘキモノトス

- 第三條 參勤ハ讚衆ヲ以テ任シ上職ノ指揮ヲ受ケ法務ヲ輔ク
- 第四條 承仕ハ鑒事ノ指揮ニ從ヒ法式並ニ堂内莊嚴ノ事ヲ處理ス
- 第五條 勘定ハ住職ノ指揮ニ從ヒ金穀出納ヲ取扱フ
- 第六條 專任住職ナキ別格別院ノ鑒事及勘定ノ職務權限ニ關シテハ別院職制事務章程中輪番及勘定ノ規定ヲ準用ス

附則 此職制ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○別院表

各別院 西山別院 京都市右京區川島北裏町

別院・別院表

北山別院	京都市左京區一乘寺
角坊別院	京都市右京區西院御堂殿町
山科別院	京都市東山區山科町東野
近松別院	大津市南町
八幡別院	滋賀縣蒲生郡八幡町
赤野井別院	滋賀縣野洲郡玉津村大字赤野井
岐阜別院	岐阜市西野町
黒野別院	岐阜縣稻葉郡鶴飼村大字黒野
笠松別院	岐阜縣羽島郡笠松町字柳原
名古屋別院	名古屋市中區門前町
松本別院	松本市大名町
築地別院	東京市京橋區築地三丁目
仙臺別院	仙臺市東一番町
函館別院	函館市東川町
江差別院	北海道檜山郡江差町
小樽別院	小樽市開運町
札幌別院	札幌市南四條西五丁目
帶廣別院	北海道帶廣市
福井別院	福井市尾上中町
吉崎別院	福井縣坂井郡吉崎村大字吉崎

富山別院	富山市總曲輪
金澤別院	金澤市五寶町
國府別院	新潟縣中頸城郡國府村大字愛宕國府
三條別院	新潟縣南蒲原郡三條町
與板別院	新潟縣三島郡與板町
津村別院	大阪市東區本町四丁目
堺別院	堺市神明町東二丁目
尾崎別院	大阪府泉南郡尾崎村
鷺森別院	和歌山市鷺森
日高別院	和歌山縣日高郡御坊町
鹽屋別院	丸龜市鹽屋
高知別院	高知市追手筋
廣島別院	廣島市寺町
萩別院	山口縣阿武郡萩町西田町
四日市別院	大分縣宇佐郡四日市町
鹿兒島別院	鹿兒島市東千石町
臺灣別院	臺北市新起街
大泊別院	樺太大泊南溪通町
關東別院	滿洲大連市若草山

○別院輪番疊着席許可之件

(明治四十一年十二月乙達第五十二號)

各別院輪番

自今別院輪番(輪番助勤ヲ除ク)ニシテ調聲相勤メ候場合ニ限リ特ニ左記疊着席ヲ許可セラル  
疊 半疊厚サ曲尺二寸  
二方木綿縁大紋一個ヲ横列ス

○親授以上ノ輪番へ登禮盤許可之件

(大正二年四月乙達第十二號)

各別院(築地、津村、鎮西別院ヲ除ク)輪番

自今親授以上ノ輪番ニシテ巡證御許可ノ者ハ該別院重要ナル法要ニ際シ登禮盤ヲ許シ私記嘆徳文御傳授濟ノ者ハ報恩講ニ際シ右拜讀差許サル但シ常例ノ勤行ハ外陣ニ於テ調聲可致儀ト心得ヘシ

親授以上ノ輪番へ登禮盤許可之件

鎮西別院	門司市大里町
布哇別院	布哇ホノルル
朝鮮別院	朝鮮京城府若草町
釜山別院	朝鮮釜山富平町
人吉別院	熊本縣球磨郡人吉町
三河別院	岡崎市傳馬町
長野別院	長野市西後町
大牟田別院	大牟田市有明町
上海別院	中華民國上海文路
羅府別院	北米合衆國加州羅府北中央街
顯證別院	大阪府中河内郡久寶寺村大字久寶寺
本德寺	兵庫縣飾磨郡手柄村龜山
本善寺	奈良縣吉野郡吉野村大字飯貝
本照寺	大阪府三島郡富田村
明照寺	滋賀縣犬上郡福滿村大字平田
德應寺	富山縣東礪波郡井波町
福田寺	滋賀縣坂田郡法性寺村大字長澤
善福寺	神戸市下山手通八丁目

別院・別院表 別院輪番疊着席許可之件

堂 班 衣 體

別格寺衣體並堂班衣體之件	二五七	立教開宗七百年記念慶讚法要	二六八
許可衣體二級以上ニ互ル者ノ	二五七	記念衣體制定之件	二六八
衣體着用ニ關スル件	二五七	各別院開宗記念慶讚法要出勤	二六八
所屬寺堂班衣體依願被差許之件	二五七	者ノ記念衣體許可之件	二六八
長男衣體許可ノ者ノ自今依願	二五七	特種五條袈裟並紋切袴着用特	二六八
出勤許可之件	二五七	許規程	二六八
教師對配衣體之件	二五七	復興記念賞與五條袈裟着用特	二六八
教師對配衣體許可ノ者出勤被	二五七	許規程	二六八
差許之件	二五七	明如上人二十五回忌法要記念	二六八
特別衣體ハ通常衣體ト同時ニ	二五七	五條袈裟着用特許規程	二六八
願出ツヘキ之件	二五七	明如上人二十五回忌法要記念	二六八
前任職以上ノ堂班被差許之件	二五七	五條袈裟制定之件	二六八
前任職ハ一代堂班許可之件	二五七	勝如上人傳燈奉告法要記念五	二六八
末寺僧侶ノ終身堂班許可之件	二五七	條袈裟制定之件	二六八
一般僧侶ノ終身堂班ニ關スル件	二五七	勝如上人傳燈奉告法要記念五	二六八
所屬中堂班許可之件	二五七	條袈裟着用特許之件	二六八
前任職及副住職堂班差繼許之件	二五七	特種五條袈裟並紋切袴着用特	二六八
功勞特許終身堂班差繼許之件	二五七	許之件	二六八
退副住職ハ該寺堂班衣體着用	二五七	金入 疊 袈 裟 之 件	二六八
不相成之件	二五七	皆水晶珠數爪紅中啓之件	二六八
傳燈奉告會記念袈裟被差許之件	二五七	藤之丸其他紋章袈裟着用之件	二六八
大遠忌記念五條袈裟制定之件	二五七	法衣亂用取締之件	二六八
大遠忌記念五條袈裟成替願之件	二五七	別格寺衣體各堂班衣體許狀並	二六八
		取扱法	二六八
		衣體混用ヲ許ササル件	二六八

堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件

上座一等	別格寺			
特別格				
同上	紅五ハモ縁天天王織但一代 白色金差地及王シ金 ヲ以上糸支ヲ及ヒ像シ 許組銀ナ四甲ヒ又錦 サ交ナシ天装仕伏ハ縫 ス及螢修用立ヲノ並 房多フ立ヲノ並 打羅ルハ許四浮	七條袈裟		
葡萄色綾地白蔓草 上紋唐草ノ太サハ一 分以內トス	一代鶉色綾地白八藤離 紋	五條袈裟		
一代紫色綾地黃蓮華唐 草	一代鶉色綾地萌黃葡萄 唐草	小五條袈裟		
同上	一代紫色燃金離紋並燃 金入錦地、朽葉色、 緞錦ヲ許サス	輪袈裟		

(別表第一號)

今般別格寺衣體並各堂班衣體別記之通り相定ム

堂班衣體

○別格寺衣體並各堂班衣體之件 (明治四十一年十一月甲達第三十七號)

改正 大正二、一 昭和五、五 同 七、三 同 七、五



堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件

内陣列座	本座二等		本座一等			上座二等			上座一等		
	常通	別特	常通	別特	種甲	常通	別特	種甲	常通	別特	種甲
一代鵬茶色 地質同上	許サス	但シ紋綾、穀織、羅織、目透紗ヲ	一代藍海松茶色 地質同上	一代青丹色(經萌黃緯柳茶) 地質同上	一代薄茶色(經白緯茶) 地質同上	一代栗皮色 地質同上	一代落葉重色(經白緯金茶) 地質同上	一代葉裏色(經薄萌黃緯白)(離紋並) 地質好、紗綾、平絹、但シ紋綾、穀織、羅織、目透紗ヲ許サス	一代薄青色(經白緯青) 地質同上	一代紅葉重色 地質同上	一代裏桔梗色(經藤鼠緯白) 地質同上
一代紫無紋堅地	離紋ヲ許サス	但シ紋精好、紗綾、平絹、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	一代黑無紋精好、紗綾、紋紗、縮緬、羅織、目透紗、穀織、縮緬	同上	同上	同上
一代紫無紋堅地	一代淺黃無紋堅地	一代紫無紋綾地	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件

別格寺	平僧		外陣列座	
	常通	別特	常通	別特
別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス
別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス
別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス	別格別 藤重色(經白緯紫) 但シ紋紗、紗、夏袍等夏物地ハ經ノ四以內トス

堂班衣體・別格寺衣體並堂班衣體之件 許可衣體二級以上ニ互ル者ノ衣體着用ニ關スル件

外陣列座	脇之間		餘之間	
	常通	別特	常通	別特
常通 但シ透紗ヲ許サス	別特 一 代薄紺色 地質平絹、縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	常通 一 代黃梔子色 地質縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	常通 一 代淺黃色 地質縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	別特 一 代淺黃色 地質無紋精好、縞子、紋紗、離紋ヲ許サス
別特 但シ透紗ヲ許サス	常通 一 代薄紺色 地質平絹、縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	別特 一 代黃梔子色 地質縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	別特 一 代淺黃色 地質無紋精好、縞子、紋紗、離紋ヲ許サス	常通 一 代黑紋紗(離紋ヲ許サス) 平絹、紗ニ限ル
同上	一 代黑縞、平絹、無紋紗ニ限ル	一 代黑無紋紗、縞、平絹ニ限ル	一 代紫無紋平絹	

ハ終身堂班衣體許可ノ者若クハ終身堂班衣體許可ノ上ニ對配堂班衣體許可ノ者ハ其何レノ堂班衣體ヲ着用スルモ差支ナシ但シ上級下級衣體ノ混用ヲ許サス

○許可衣體二級以上ニ互ル者ノ衣體着用ニ關スル件 (大正十年八月) (甲達第十九號)  
自今所屬寺ニ依ル堂班衣體許可ノ上ニ對配堂班衣體又

○所屬寺堂班衣體依願差許之件 (明治十六年五月) (甲達第五號)

末寺僧侶中  
昨十五年(三月)甲第十一號ヲ以テ相違置候旨モ有之候處今般詮議之次第有之自今各寺住職ノ長男及無住寺前住職長男或ハ二男以下ト雖モ一家ノ戶主ニテ孰モ得度濟ニシテ所屬寺正副住職ニ可相成看据ノ者ニ限リ該寺堂班衣體依願着用差許候尤モ衣體着用差許候トモ教導職試補申付無之者ハ説教及葬儀取扱不相成ハ勿論ニ候條此段相違候事  
但シ出願之手續並ニ衣體冥加之儀正副住職同様タルヘシ尙本文ニ概觸セシ從前ノ違ハ總テ廢止ノ儀ト可心得事

○長男衣體許可ノ者へ自今依願出勤許可之件 (明治四十一年三月) (甲達第十四號)  
末寺一般  
明治三十六年五月甲達番外ヲ以テ長男衣體許可ノ者ハ本山及別院出勤等不被差許旨相違置候處自今終身堂班衣體着用許可ノ者ト同様依願出勤差許サル

○教師對配衣體之件 (明治二十三年九月) (甲達番外)

本年甲達第三號ヲ以テ教師拜命ノ者ニ限リ本山ヲ除キ依願脇之間衣體ノ着用ヲ許ス

堂班衣體・所屬寺堂班衣體依願差許之件 長男衣體許可ノ者へ自今依願出勤許可之件  
教師對配衣體之件

堂體衣體・教師對配衣體許可ノ者出勤差許之件  
前任職以上ハ堂班被差許之件 副住職

○教師對配衣體許可ノ者出勤差許之件

(明治四十五年一月)  
甲達第五號

明治二十三年九月甲達番外ヲ以テ教師對配衣體許可ノ者ハ本山及別院出勤等不被差許旨相達置候處自今終身堂班衣體着用許可ノ者ト同様依願出勤差許サル

特別衣體ハ通常衣體ト同時ニ願出ツヘキ之件  
願ト同時ニ特別衣體着用許可願出ヘシ否ラサレハ繼席不被差許候條此旨組内各寺ヘ達シ置ク可シ

○前任職以上ハ堂班被差許之件

(明治三十四年三月)  
甲達第三號

自今前任職以上ノ者依願其身一代堂班差許サル

末寺 一般

○特別衣體ハ通常衣體ト同時ニ願出ツヘキ之件

(明治二十四年一月)  
乙達第一號

從來堂班ニ附帶スル特別衣體願出之儀ハ各自ノ隨意ニ任セ置候處近頃ニ至リテハ右特別衣體ノ許可ナクシテ着用致候者有之哉ニ相聞エ屹度取締可致ニ付テハ今後堂班昇進ハ勿論正副住職繼席願之節該寺相當堂班衣體

正副總組長  
正副組長

○副住職ハ一代堂班許可之件

(明治三十八年六月)  
甲達第九號

自今副住職ニ對シ住職同様依願一代堂班差許サル

末寺 一般

○末寺僧侶ハ終身堂班許可之件

(明治三十七年十一月)  
甲達第十六號

自今末寺僧侶一般ハ願ニ依テ終身堂班着席並ニ衣體着用差許サル

末寺 一般

○一般僧侶ノ終身堂班ニ關スル件

(明治三十七年十一月)  
乙達第三十九號

今般甲達第十六號ヲ以テ一般僧侶ハ終身堂班着席並衣

堂班衣體・末寺僧侶ハ終身堂班許可之件 一般僧侶ノ終身堂班ニ關スル件 所屬中堂班許可之件

○所屬中堂班許可之件

(明治四十五年一月)  
甲達第四號

今般住職看据ノ者ニシテ一代堂班昇進希望者ハ左記各項ニ依リ所屬中堂班ヲ許可ス但シ右ハ其寺住職許可ノ際ハ永代堂班ニ差繼クコトヲ得ルモ他寺ヘ轉屬スル場合ハ自然消滅ス

- 一、冥加金ハ明治三十八年甲達第十五號第五號表一代堂班昇進冥加額ニ依ル
- 一、本末共保財團ニ於テ賞與トシテ取扱フ所屬中堂班ハ本達示ニ依ルモノトス



堂班衣體・前住職及副住職堂班差繼之件 功勞特許終身堂班差繼許可之件 退副住職ハ該寺堂班衣體着用不相成之件

○前住職及副住職堂班差繼之件

(明治四十三年八月) (甲達第二十二號)

明治三十四年甲達第三號ニ依リ前住職以上及同三十八年甲達第九號ニ依リ副住職へ許可セラレタル一代堂班ハ自今永代ニ差繼クコトヲ得

- 但シ左記ノ通り心得ヘシ
- 一、前住職以上へ許可ノ一代堂班ヲ永代ニ差繼クトキハ某寺住職及副住職又副住職へ許可ノ一代堂班ヲ永代ニ差繼クトキハ其寺住職ハ同寺ニ該堂班ニ對スル衣體着用願出ヘシ
- 一、右ノ場合ニ於テ所屬寺堂班衣體着用許可濟ノ衆徒アル向ハ前同様ノ手續ヲ爲ササレハ其衣體着用ノ資格消滅ス

○功勞特許終身堂班差繼許可之件

(明治四十年十一月) (甲達第三十七號)

從來功勞ニ依リ特許セラレタル終身堂班ハ永代ニ差繼クコトヲ得

○退副住職該寺堂班衣體着用不相成之件

(明治四十二年三月) (甲達第二十一號)

自今副住職辭退ノ者ハ該寺堂班ノ衣體着用ヲ許サス

○大遠忌記念五條袈裟制定之件

(明治四十四年一月) (甲達第七號)

今般宗祖大師六百五十回大遠忌報恩講記念トシテ出勤者並ニ山務ニ從事シ出勤シ能ハサル職員及各種布教使ニシテ堂班許可ノ者へ特ニ左ノ通り五條袈裟着用差許サル

末寺 一般

- (左記)
- 一、五條袈裟 綾地藤色、向鶴丸
- 右連枝、衲衆、侍眞、待眞補、別格寺
- 一、五條袈裟 綾地藤色、向鶴丸
- 右内陣上座一等、二等
- 一、五條袈裟 堅地藤色、向鶴丸
- 右内陣本座一等、二等、内陣列座
- 一、五條袈裟 堅地藤色、向鶴丸
- 白堆織、金茶紋入交
- 右餘之間、脇之間、外陣列座
- 一、五條袈裟 堅地藤色
- 向鶴丸黃紋
- 右平僧地

堂班衣體・傳燈奉告會記念袈裟被差許之件 大遠忌記念五條袈裟制定之件

○傳燈奉告會記念袈裟被差許之件

(明治三十六年四月) (甲達第二十五號)

今般傳燈奉告會記念トシテ出勤堂班へ特ニ左ノ通り五條袈裟着用差許サル

末寺 一般

- 一、五條袈裟 綾地萌黃色
- 右本座一等等以上
- 一、五條袈裟 堅地萌黃色
- 紫檜垣 白紋下リ藤紋章
- 右餘之間以上本座二等迄
- 一、五條袈裟 堅地萌黃色
- 黃亂藤紋
- 右脇之間以下平僧地迄

堂班衣體・大遠忌記念五條袈裟成替願之件 立教開宗七百年記念慶讚法要記念衣體制定之件  
各別院開宗記念慶讚法要出勤者へ記念衣體許可之件

○大遠忌記念五條袈裟成替願之件

(明治四十四年七月 甲達第三十號)

末寺一般

本年甲達第七號大遠忌報恩講記念五條袈裟着用許可ノ者ニシテ其後堂班昇進ノ爲メ記念五條袈裟着用シ能ハサル者へ今般特別ヲ以テ既定ノ記念五條袈裟着用被差許候條左標ニ依リ許狀成替出願致スヘシ

昇進堂班	御禮金
別格寺	金五拾圓
內陣上座二等	金貳拾五圓
內陣列座	金拾五圓
外陣列座	金五圓

○立教開宗七百年記念慶讚法要記念衣體制定之件

(大正十二年三月 甲達第八號)

末寺一般

立教開宗七百年記念慶讚法要堂班出勤者及法要事務ニ參加セル事務員並ニ布教使ニシテ堂班許可ノ者ニ對シ別記記念衣體ノ着用ヲ差許サル

(別記)

白 無紋衣

○各別院開宗記念慶讚法要出勤者へ記念衣體許可之件

(大正十二年五月 甲達第十九號)

自今各別院ニ於ケル立教開宗七百年記念慶讚法要出勤ノ堂班許可ノ者ニ對シ記念衣體ノ着用ヲ許サル

○特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程

(明治四十三年三月 甲達第十號) 改正 大正一〇、一一

第一條 末寺正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニシテ本山基金上納者ニ限リ其希望ニ從ヒ別表ニ依リ特種五條袈裟紋切袴ノ着用ヲ特許ス  
檀信徒ノ本山基金上納者ニ限リ其希望ニ從ヒ所屬寺(別表)

第 一 號 表		
寺 格	五 條 袈 裟	
別 格 寺	梅重色(經白緯紅梅)綾地摺金金紋	
上座一等	搗色綾地摺金金紋	
上座二等	搗色堅地摺金金紋	
本座一等	紫色堅地摺金金紋	
本座一等	白堅地紫紋綾金	
	初代又ハ終身堂班許可者上納金	
	二代上納金	
	金八百圓	金五百圓
	金六百圓	金四百圓
	金四百圓	金參百圓
	金參百圓	金貳百圓

堂班衣體・特種五條袈裟並紋切袴着用特許規程

正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニ前項同様ノ着用ヲ特許ス

第二條 前條特許者ニシテ其後堂班昇進シ更ニ本山基金へ追納スルトキハ該堂班規程ノ五條袈裟紋切袴着用ヲ特許ス

前項追納金ハ規定金ノ内ヨリ既納金ヲ減シタル差額ヲ上納スルモノトス

第三條 本規程ハ明治四十三年六月一日ヨリ施行ス

第四條 本規程施行ト同時ニ明治三十六年七月甲達第三十五號教學費獻金賞與規程ヲ廢ス

堂班衣體・特種五條袈裟並紋切袴着用特許規程

本座二等	紫色堅地白紋綠金	金貳百圓	金百六拾圓
內陣列座	媚茶色堅地白紋綠金	金百貳拾圓	金壹百圓
餘之間	松葉色堅地白紋綠金	金八拾圓	金六拾圓
脇之間	花色堅地白紋綠金	金六拾圓	金四拾圓
外陣列座	淺黃色堅地白離紋	金四拾圓	金參拾圓
平僧	鼠緞子白唐草模様	金拾四圓	金拾圓

第 二 號 表

寺 格	紋 切 袴	紋 徑	初代又ハ終身堂班許可者上納金	二代上納金
別 格 寺	經花田緯白綾地紋雲八藤	五 寸		
上座一等	經金茶緯白綾地紋松鶴丸	四寸五分	金八百圓	金四百圓
上座二等	經鴉茶緯白堅地紋松之丸	四寸五分	金六百圓	金參百圓
本座一等	經白緯萌黃堅地紋梅之丸	四寸三分	金四百圓	金貳百圓
本座二等	經白緯茶堅地紋梅之丸	四寸三分	金參百圓	金百六拾圓
內陣列座	經緯共紫色堅地同色梅之丸	四 寸	金貳百圓	金百貳拾圓
餘 之 間	經緯共黃梔子色堅地紋同色竹之丸	四 寸	金壹百圓	金六拾圓

○復興記念賞與五條袈裟着用特許規程

(大正十三年九月 甲達第十五號)

第一條 末寺正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニシテ復興懇志進納者ニ限リ賞與トシテ其希望ニ從ヒ別表ニ依リ記念五條袈裟ノ着用ヲ特許ス

檀信徒ノ復興懇志進納者ニ限リ其希望ニ從ヒ所屬寺(別表)

復興記念賞與五條袈裟		特許標準額	
堂班種別	五條袈裟	初代又ハ終身堂班許可者	二代以後
上座一等甲種特別	紺玉蟲色綾地平金三重障	金貳千圓以上	金千五百圓以上
上座一等特別	白燃金紋入交	金壹千圓以上	金七百圓以上
上座一等通常	白綾地平金三重障燃金紋	金四百圓以上	金貳百五拾圓以上

堂班衣體・復興記念賞與五條袈裟着用特許規程

正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニ前項同様ノ着用ヲ特許ス

第二條 前條特許者ニシテ其後堂班昇進シ更ニ復興懇志進納スルトキハ該堂班規程ノ五條袈裟ノ着用ヲ特許ス

前項進納金ハ規定標準額ノ内ヨリ既納金ヲ減シタル差額ヲ上納スルモノトス

第三條 懇志進納者ニシテ其後堂班ニ異動ヲ生シタルトキハ本規程ニ依リ曾テ得タル五條袈裟着用ノ許可ハ消滅スルモノトス

第四條 本規程ハ大正十三年九月一日ヨリ施行ス(別表) 別記ノ通り

堂班衣體・復興記念賞典五條袈裟着用特許規程 明如上人二十五回忌法要記念五條袈裟着用特許規程

上座二等甲種特別	紺玉蟲色堅地白檜垣白撚金紋入交	金四百圓以上	金貳百五拾圓以上	金百五拾圓以上
上座二等特別	白色堅地赤檜垣平金紋	金四百圓以上	金貳百五拾圓以上	金百五拾圓以上
上座二等通常	白色堅地紫檜垣平金赤紋入交	金參百圓以上	金貳百圓以上	金壹百圓以上
本座一等甲種特別	紫色緯白堅地白籠目平金白紋入交	金百七拾圓以上	金百參拾圓以上	金七拾圓以上
本座一等通常	白色堅地萌黃籠目紫紋	金百五拾圓以上	金百貳拾圓以上	金六拾圓以上
本座二等	薄葡萄色堅地萌黃籠目白紋	金百五拾圓以上	金壹百圓以上	金五拾圓以上

備考

- 一、紋徑ハ一寸六分(丸紋以外ハ此寸法ニ準ス)
- 二、紋數ハ堅五、横十四、總數七十トス
- 三、紋型ハ成規ノモノヲ除ク外隨意トス

○明如上人二十五回忌法要記念五條袈裟

着用特許規程 (大正十五年十二月 甲達第十三號)

第一條 記念五條袈裟ハ所屬寺門信徒ノ御香儀受高完

納ノ末寺住職ニ限リ着用ヲ特許ス

第二條 前條所屬寺ノ前住職、副住職、長男衣體着用及終身堂班衣體着用許可ノ者ニシテ別ニ本人ヨリ御香儀ヲ進納スル者ニ對シテハ記念五條袈裟ノ着用ヲ特許ス

第三條 第二條ノ希望者ハ左ノ御香儀ヲ進納致スヘシ

- 一、内陣上座以上 金五拾圓以上
- 一、内陣本座以下 金參拾圓以上
- 一、餘之間以下 金貳拾圓以上

第四條 記念五條袈裟着用特許者ハ許狀ヲ下付ス

第五條 記念五條袈裟着用特許者ハ現品ニ許狀ヲ添付シ本山ニ差出ストキハ記念印章ヲ押捺ス

○勝如上人傳燈奉告法要記念五條袈裟制定之件

(昭和七年二月二十日 甲達第四號)

今般傳燈奉告法要記念五條袈裟別記之通制定相成ル

種別	地色	地質	地	文	紋
侍真以上	檜皮色	綾地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
内陣上座	檜皮色	綾地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
二等以上	檜皮色	綾地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
内陣列座	檜皮色	堅地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
以內陣列座上	檜皮色	堅地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
餘之間	檜皮色	堅地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分
以下	檜皮色	堅地	白茶色	瑞草	下リ藤紋徑二寸六分

○明如上人二十五回忌法要記念五條袈裟制定之件

(大正十五年十二月 甲達第十二號)

今般信知院殿明如上人二十五回忌法要記念五條袈裟別記之通制定相成ル

(別記)

種別	地色	地質	紋	樣
衲衆	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
内陣上座	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
二等以上	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
内陣列座	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
以內陣列座上	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
餘之間	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌
以下	古代紫	堅地	藤菱總紋	撚金赤白萌

堂班衣體・明如上人二十五回忌法要記念五條袈裟制定之件 勝如上人傳燈奉告法要記念五條袈裟制定之件

堂班衣體・勝如上人傳燈奉告法要記念五條袈裟着用特許之件 特種五條袈裟並紋切袴着用特許之件

○勝如上人傳燈奉告法要記念五條袈裟着用特許之件 (昭和七年二月二十日) (甲達第五號)

今般傳燈奉告法要記念五條袈裟着用特許規程左之通相定ム

(左記) 傳燈奉告法要記念五條袈裟着用特許規程

第一條 左ニ掲ケタル者ニ對シ傳燈奉告法要記念五條袈裟ノ着用ヲ特許ス但シ堂班衣體ノ着用ヲ許可セラレタル者又ハ女子僧侶教師準教師服裝ノ着用ヲ許可セラレタル者ニ限ル

一、傳燈奉告法要ニ出勤シタル者

二、傳燈奉告法要事務所職制ニ基キ任命セラレタル事務員ニシテ實務ニ從事シタル者

三、寺及門徒ノ懇志請高完納ノ寺院ニ屬スル者但シ懇志納付高金貳拾圓ニ滿タサル者ヲ除ク

第二條 記念五條袈裟着用ノ特許ヲ得タル者ニハ許狀ヲ下附ス

第三條 記念五條袈裟ニハ記念章ヲ捺印ス 前項ノ捺印ヲ願出ツル場合ニハ其ノ願書ニ許狀ヲ添

付スヘシ

○特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許之件

(明治四十三年五月) (甲達第十六號)

本年甲達第十號ヲ以テ特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程發布候處從來教學費獻金者ニ對スル五條袈裟着用特許候者ハ來ル六月以降ト雖モ從前ノ通り着用差支無之儀ト相心得ヘシ

○金入疊袈裟之件 (明治四十三年九月) (乙達第三號)

各府縣下

正副總組長 正副組長

金入疊袈裟ハ特別拜領ノ者ヲ除ク外末寺一般着用不相成候處往々着用致候者有之趣不都合ノ次第ニ付速ニ其着用ヲ差止メ其旨本山ニ申出ヘシ

○皆水晶珠數爪紅中啓之件

(明治十一年一月) (達書第七號)

末寺僧侶中

從來皆水晶珠數並ニ爪紅中啓ハ妄リニ依用不相候處近頃右成規ヲ亂シ候者モ往々有之不都合ニ候自今授與無之者ハ依用不相成候條此段相違候事

堂班衣體・金入疊袈裟之件 法衣亂用取締之件

○藤之丸其他紋章袈裟着用之件

(明治四十一年十二月) (甲達第四十二號)

改正 大正一〇、八

本山ノ許可ヲ經サルモノハ藤之丸(下リ藤)桐(五七)鶴之丸紋章袈裟ノ着用ヲ許サス但シ從前ヨリ拜領セル者ハ更ニ着用ヲ願出ヘシ

○法衣亂用取締之件

(明治四十二年九月) (訓告第十一號)

末寺一般

近來着用未タ差許サレサル者ニシテ金紋五條袈裟又ハ藤之丸其他紋章袈裟着用之件

堂班衣體・法衣亂用取締之件 別格寺衣體各堂班衣體許狀並取扱法

離紋ニ紛ラハシキ輪袈裟ヲ亂用シ或ハ紫緯白切袴ヲ着用スヘキ者ニシテ紫切袴ヲ用ユルカ如キ規定違反ノ者往々ニシテ有之哉ニ聞エ候處斯クノ如キハ派内ノ規律ヲ壞リ秩序ヲ紊ルコト尠カラズ自今一層犯則者ノ取締ヲ嚴重ニ致スヘク候條各自堅ク規定ヲ遵守スヘシ右特ニ訓告ス

○別格寺衣體各堂班衣體許狀並ニ取扱法

其 一 (大正十年三月 甲達第一號)

今般別格寺衣體各堂班衣體許狀更改並ニ其取扱法ヲ別記之通リ相定ム

但シ本甲達ハ大正十年五月一日ヨリ施行ス

- 一、衣體許狀ハ左記難形之通リ第一號、第二號、第三號ノ三種トス

(第一號)

第 號	何府縣何市郡何町村
割印	何寺住職(副住職前住職又ハ衆徒) 寺
大正	執行 所 年 月 日
所 印	所 年 月 日
執行 所	執行 所

今般其寺永代内陣上座二等被差許候事

(第二號)

第 號	何府縣何市郡何町村
割印	何寺住職(副住職前住職又ハ衆徒) 某
大正	執行 所 年 月 日
所 印	所 年 月 日
執行 所	執行 所

今般其寺所屬中内陣本座一等着席並通常衣體特別衣體甲種特別衣體特種五條袈裟紋切袴着用(巡讃衣體着用)右被差許候事

(第三號)

第 號	何府縣何市郡何町村
割印	何寺住職(副住職前住職又ハ衆徒) 某
大正	執行 所 年 月 日
所 印	所 年 月 日
執行 所	執行 所

今般終身内陣本座一等着席並通常衣體特別衣體特種五條袈裟紋切袴着用右被差許候事

二、前項三種ノ許狀ニハ其許可ノ種類ヲ記入ノ上交付シ尙別格寺衣體並各堂班衣體表ヲ添付ス

其 二 (大正十年三月 甲達第二號)

從來得度許可ノ者ニハ得度衣體許狀ヲ交付セルモ自今該許狀ヲ廢止シ別格寺衣體並ニ各堂班衣體表ヲ交付ス

其 三 (大正十年三月 甲達第三號)

自今住職許可ノ者ニハ住職申付辭令ノミヲ交付スルコト、シ繼席許狀ハ廢止ス

堂班衣體・別格寺衣體各堂班衣體許狀並取扱法

衣體混用ヲ許サ、ル件

○衣體混用ヲ許ササル件 (大正十年八月 甲達第十八號)  
自今同堂班ニ於ケル通常特別甲種特別衣體ノ混用ヲ許サス

服

制

服裝規程細則	：二九〇	立教開宗七百年紀念傳道參與	：二九六
服裝規程表	：二九〇	布教使賞與輪袈裟制定之件	：二九六
外陣結界內參拜席規程	：二九二	刑務女教誨師服裝制定之件	：二九七
衲衆衣體之件	：二九二	佛教大中學教職員輪袈裟制定	：二九七
巡讚衣體之件	：二九三	龍谷大學出身者疊袈裟制定之件	：二九八
事務員疊袈裟之件	：二九三	佛教中學及中學校教職員學生	：二九八
現役事務員略章之件	：二九三	疊袈裟制定之件	：二九八
正副組長疊袈裟制定之件	：二九四	有階者輪袈裟之件	：二九八
集會會衆疊袈裟制定之件	：二九四	傳燈奉告法要記念五條袈裟制	：二九九
集會會衆略章之件	：二九四	定之件	：二九九
本願寺布教使輪袈裟制定之件	：二九五	傳燈奉告法要記念五條袈裟着	：二九九
本願寺布教使輪袈裟冥加之件	：二九五	用特許規程制定之件	：二九九
本願寺布教使略章之件	：二九六	安居講師疊袈裟被下之件	：二九〇
本願寺輔導使疊袈裟並二略章	：二九六	女子僧侶服裝並三法式三關ス	：二九〇
制定之件	：二九六	女子教師正規服裝許狀制定之件	：二九〇
		女子教師制服之件	：二九〇
		女教士制服之件	：二九〇
		女教士並二女教士徽章制定之件	：二九〇

服制

○服裝規程 (明治四十一年十一月甲教示第五十二號)

改正 大正四、一〇 大正一〇、一〇 昭和三、九

第一條 衣(別圖ノ如シ)ヲ色衣、黒衣ノ二種トシ製裝ヲ七條、五條、小五條、疊、輪製裝ノ五種トス

第二條 服裝ヲ分チテ左ノ三類トシ第一類及第二類服ハ法式ニ用ヒ第三類服ハ法式以外ノ儀式ニ用フモノトス

第一類

- 禮裝(一種) 色衣 七條 切袴
  - 禮裝(二種) 黒衣 七條 切袴
  - 正裝(一種) 色衣 五條 切袴
  - 正裝(二種) 黒衣 五條 切袴
  - 略正裝(一種) 色衣 五條
  - 略正裝(二種) 黒衣 五條
  - 略裝(一種) 黒衣 小五條
  - 略裝(二種) 黒衣 墨製裝
- 但シ禮裝ニハ僧綱板ヲ附着ス

服制・服裝規程

第二類

- 正服(一種) 黒衣 輪製裝又ハ疊製裝袴
- 正服(二種) 黒衣 輪製裝又ハ疊製裝

第三類

- 禮服(一種) 白服 布袍 輪製裝又ハ疊製裝
  - 禮服(二種) 俗服 布袍 輪製裝又ハ疊製裝
- 但シ疊製裝ハ本山事務員其他特許セラレタル者ニ限ル

第三條 第一類服ニハ中啓ヲ用ユ

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
 本規程ニ牴觸スル從前ノ諸達示ハ之ヲ廢ス  
 別圖(雛形略之)  
 衣(色衣ハ從前ノ半素絹形 黒衣ハ袖ヲ縮ム)



服制・服裝規程細則 事務員衣體表

○服裝規程細則 (大正六年一月 甲達第七號)

改正 大正一〇、一〇 大正一三、一四 昭和 三、九 昭和 五、一二

- 一、禮裝ニ附着スヘキ僧綱板ハ衣ト連續作製スルヲ禁ス
- 一、巡禮衣體ニハ僧綱板ヲ禁ス
- 一、第一類服ニハ必ス白服白襪ヲ用ヒ第二類服ニハ白服俗服又ハ洋服ヲ用フルコトヲ得
- 一、第二類服及第三類服ニ和服ヲ用フル場合ハ必ス白襪ヲ用フ
- 一、一種正服ノ袴ハ切袴又ハ俗袴ヲ用フルコトヲ得但シ切袴ハ白服ノ時ニ限ル
- 一、一種禮裝ヲ用フルハ主トシテ報恩講、御歷代年忌慶讚會、葬儀等トス
- 一、一種正裝ヲ用フルハ主トシテ高祖大師、前住上人、

○事務員衣體表

役名	色	衣	五	條	小	五	條	切	袴
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 御忌日、御歷代祥忌、降誕會、修正會、除夜會、讚佛會、歡喜會等トス
- 一、一種略裝ヲ用フルハ主トシテ晨朝日没等トス
- 一、第一類二種服ヲ勤式ニ用フルコトハ特ニ指定スル場合ニ限ル
- 一、官吏ノ大禮服ヲ着用スヘキ儀式ニ參列スルトキハ一種禮服トシ通常禮服ノトキハ二種禮服トス
- 一、結衆參仕ノ服裝ハ別ノ規程ニ依ル
- 一、布敷使ノ布敷服裝ハ左ノ如シ
- 御消息披露一種正裝
- 御直諭(御垂示)披露一種略正裝
- 祝教 二種略正裝但シ一般末寺ニ於テハ第二席ヨリ一種略裝ヲ用フルモ差支ナシ
- 法話 一、二種略裝又ハ一、二種正服
- 講演 一、二種正服又ハ一、二種禮服

追テ明治四十年八月所達第五十一號、明治四十四年八月甲達第三十三號、明治四十四年八月甲達第三十六號 服制・事務員衣體表

別院堂掌	無紋 黑色	淺黄色 絨地	○	○	○	○	○	○	薄色堅地紫緯白雲八藤大紋
本山堂掌	無紋 黑色	木蘭色 地模様	○	○	○	○	○	○	○
別院承仕	無紋 黑色	淺黄色 白鐵線唐草	○	○	○	○	○	○	○
本山承仕	無紋 黑色	紺地 白鐵線唐草	○	○	○	○	○	○	○
別院參勤	黑	紫地 紋 白	○	○	○	○	○	○	○
輪番助	黑	紫地 紋 白	○	○	○	○	○	○	○
輪番事	黑又ハ菜花色	藍海松地 萌黄鐵線唐草	○	○	○	○	○	○	○
守真堂	黑	紫地 白鐵線唐草	○	○	○	○	○	○	○
侍真長	濃 桑 色	植色(經金茶)綾地 鶴丸	○	○	○	○	○	○	○
侍真補	濃 桑 色	紫地 紋 白	○	○	○	○	○	○	○
副會行事	龍 膽 重 色	紫地 鶴丸 紋 白 浮織	○	○	○	○	○	○	○
會行事	龍 膽 重 色	紫地 鶴丸 紋 白 浮織	○	○	○	○	○	○	○
執行	橡 葉 色	紫綾地 下藤紋 白 浮織	○	○	○	○	○	○	○

服 制・外陣結界内參拜席規程 衲衆衣體之件

大正五年十一月甲達第二十七號、昭和二年七月甲達第十七號ヲ總集セシモノナリ

俗袴) 着用ノ一般僧侶  
禮服用ノ徽章又ハ參拜章佩用男子  
但シ大法要等ノ場合ハ臨機別ニ之ヲ定ム

○外陣結界内參拜席規程 (昭和三年六月) (甲達第四號)

改正 昭和三、六 昭和三、九

- 一、外陣結界内參拜席ハ正面第四列疊以東並ニ南北兩餘間トス
- 一、正面 略裝二種(黒衣、墨裝若クハ黒麻衣、籍裝)又ハ正服二種(黒衣、輪裝、或ハ墨裝)着用者
- 但シ必ス白服、白襪着用ノコト
- 一、北餘間下 禮服一、二種(布袍、墨裝又ハ輪裝裝俗袴)着用ノ本山事務員
- 但シ俗役ハ禮服用用ノコト
- 紋服用用ノ徽章又ハ參拜章佩用婦人
- 一、南餘間下 略服三種(布袍、輪裝又ハ墨裝

○衲衆衣體之件 (明治四十一年十二月) (甲達第四十號)

末寺 一般

今般衲衆衣體左之通相定メラル

- 一、香色衣 經栗皮色 緯黃色
- 一、紫地浮織紋白五條裝
- 一、藤丸大紋切袴

○巡讚衣體

- 一、白衣、緞子、紗、綾紗、離紋(本座二等ハ離紋ヲ許サス)無紋精好

○事務員疊裝之件 (明治四十一年二月) (甲達第九號)

改正 明治四一、六 明治四二、七  
大正 六、一 大正 六、六  
大正 七、五 大正 九、四

明治四十一年二月甲達第九號本山事務員疊裝別記之通更改相成ル

(別記)

役名	地合	地色	地模様	紋章	徑紋數
執 行	綾地	紺玉	海松菱	摺金	徑一寸六分
侍 眞	堅地	濃桑色	菊菱	浮織	徑一寸二分
侍 眞 補	堅地	濃桑色	菊菱	白下り藤數	徑一寸二分

服 制・巡讚衣體 事務員疊裝之件 現役事務員略章之件

○現役事務員略章之件 (大正十三年五月) (甲達第八號)

改正 大正一四、八

今般大正十二年九月發布ノ甲達第三十二號ヲ廢シ現役事務員正副組長略章別記ノ通相定ム

(別記)

紋章 下り藤  
地質 銀、七寶  
色合 綠及蔓ハ金色花ハ白色

特授役員	堅地	香	色	若松菱	浮織	徑一寸六分
親授役員	堅地	松葉	重	小菱	白糸沈織	徑一寸五分
稟授役員	堅地	松葉	重	花菱	白糸沈織	徑一寸四分
例授役員	堅地	藍海松茶	千	草	白糸沈織	徑一寸二分
雇	堅地	鐵納戸	無	地	白糸沈織	徑一寸二分

服制・現役事務員略章之件 正副組長疊袈裟制定之件 集會會衆略章之件

徑四分  
冥加 金壹圓

○集會會衆疊袈裟制定之件

(明治四十二年十月)  
(甲達第四十二號)

今般集會會衆疊袈裟別記之通制定相成ル

(別記)

地合堅地、地色青丹、地模様紫色藤、紋章白糸  
沈織下り藤、紋徑一寸四分、數二、裏地白羽二重

○正副組長疊袈裟制定之件 (昭和八年七月)  
(甲達第十三號)

今般正副組長疊袈裟別記之通相定ム

昭和八年七月一日 執行長 大谷尊由

(別記)

地合	地色	地模様	紋章	經紋數
堅地	松葉色	重花菱 地文茶	白糸沈織 下り藤	徑一寸四 分數二

○集會會衆略章之件 (大正十四年二月)  
(甲達第三號)

今般集會會衆略章別記ノ通相定ム

(別記)

紋章 下り藤  
地質 銀、七寶  
色合 綠及蔓ハ金色、花ハ藤紫色  
徑 六分

○本願寺布教使疊袈裟制定之件

(昭和三年七月)  
(甲達第五號)

今般本願寺布教使及本願寺布教使補疊袈裟別記之通リ相定ム

(別記)

等級	種別	地合	色目	地模様	紋章	紋數	紋徑
特授	堅地	紺	萌黃藤浮	花蔓字連白五三桐	織	二	七一寸
親授	堅地	紺	萌黃藤	花蔓字連白五三桐		二	七一寸
稟授	堅地	紺	萌黃藤	花蔓字連白五三桐		二	五五分
例授	堅地	紺	萌黃藤	花蔓字連白五三桐		二	三一分

但シ現品ノ下附ハ規定ノ冥加ヲ上納スヘシ

○本願寺布教使疊袈裟冥加之件

(昭和三年七月)  
(乙達第三十號)

本年七月甲達第五號ヲ以テ制定セル本願寺布教使疊袈裟冥加金別記之通リ相定ム

(別記)

松原深諦

等級	種別	冥加額
特授	堅地	金九圓
親授	堅地	金六圓五拾錢
稟授	堅地	金六圓
例授	堅地	金五圓五拾錢

但シ送料金拾八錢ヲ要ス

服制・本願寺布教使疊袈裟制定之件 本願寺布教使疊袈裟冥加之件





服制・傳燈奉告法要記念五條袈裟着用特許規程制定之件

- 女子僧侶服裝並ニ法式ニ關スル規定制定之件
- セラレタル者ニ限ル
- 一、傳燈奉告法要ニ出勤シタル者
  - 二、傳燈奉告法要事務所職制ニ基キ任命セラレタル事務員ニシテ實務ニ從事シタル者
  - 三、寺及門徒ノ懇志請高完納ノ寺院ニ屬スル者但シ懇志納付高金貳拾圓ニ滿タサル者ヲ除ク
- 第二條 記念五條袈裟着用ノ特許ヲ得タル者ニハ許狀ヲ下附ス
- 第三條 記念五條袈裟ニハ記念章ヲ捺印ス
- 前項ノ捺印ヲ願出ツル場合ニハ其ノ願書ニ許狀ヲ添附ヘシ

安居講師疊袈裟被下之件

條爲心得此段相達候事

勸學 白茶地媚茶地紋白六藤疊袈裟

司教 藍海松茶地紋白六藤疊袈裟

女子僧侶服裝並ニ法式ニ關スル規定制定之件 (昭和六年七月)

- 第一條 女子ニシテ度式ヲ受ケタル者ハ別記ノ服裝ヲ用ヒテ佛祖ニ奉侍シ法務ニ從事ス
- 第二條 女子僧侶ニハ堂班ヲ許サス本堂法式ニアリテハ外陣ニ着席スヘシ席次ハ法藤順ニ依ル
- (別記)

七條袈裟	色目	地質	備考
緣、古代紫色	無文地	唐草平金襴	横被ヲ附セス
甲、木蘭色		(蓮、鐵線ヲ除ク)入交	縦曲尺三尺五寸 横曲尺六尺四寸

安居講師疊袈裟被下之件

(明治二十五年八月)

(局達番外)

山内一般

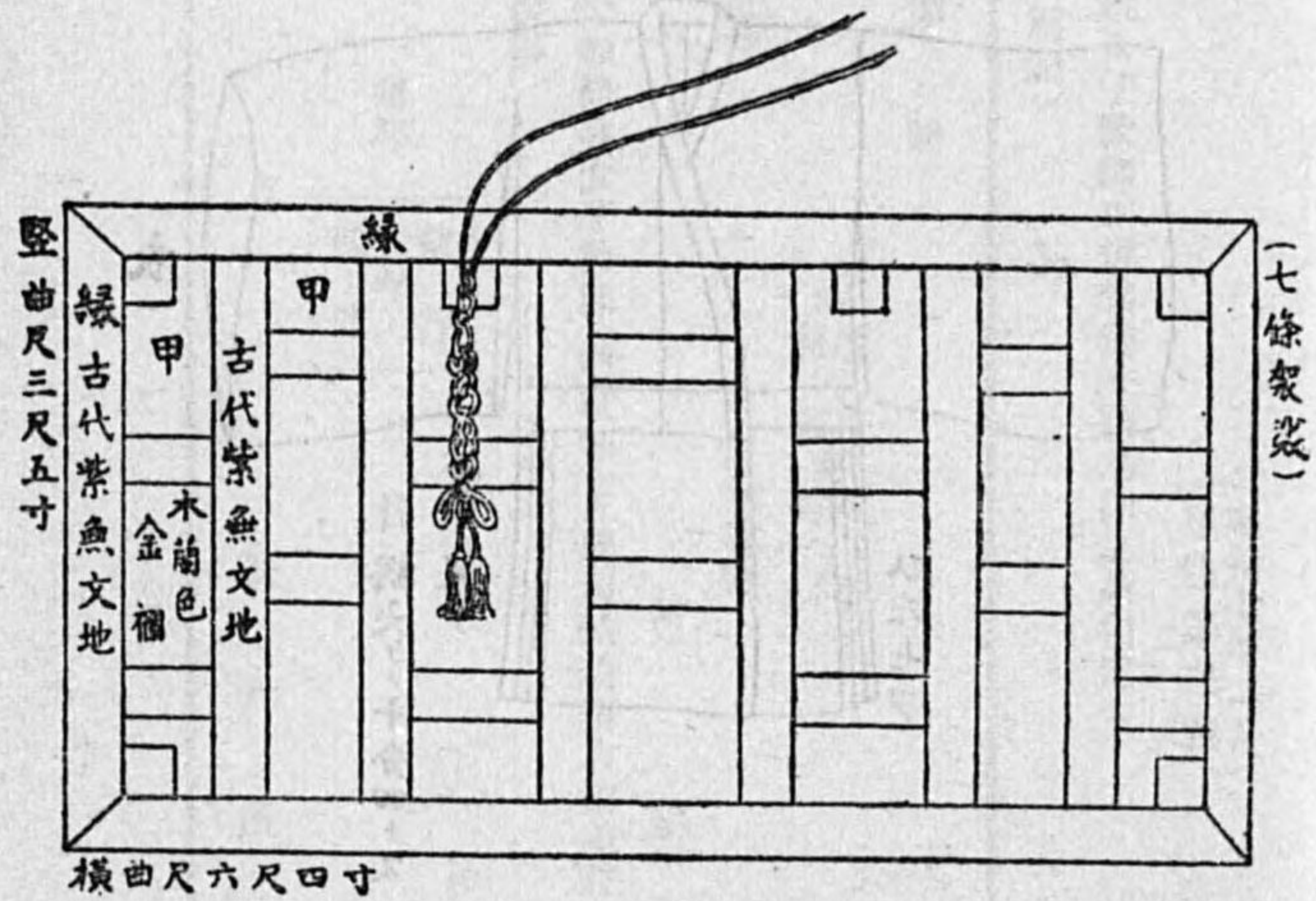
安居本講副講相勤候勸學司教ヘ左記之通疊袈裟被下候

修多羅 紫白入交

五條袈裟	水色	唐草文(藤、蓮、鐵線、桐ヲ除ク)緞子又ハ紗綾	新制定形(別圖)
輪袈裟	桔梗色	平金襴	幅曲尺一寸七分
衣	黒色	平絹、紗(無文)	在來ノ形
布袍	黒色	平絹、紗(無文)	在來ノ形
切袴	古代紫	平絹	在來ノ形

- 一、七條袈裟、五條袈裟及切袴ハ教師準教師ニ限リ差許サル
- 一、前項ノ許可ヲ得ントスルモノハ衣體冥加金拾圓上納ヲ要ス

服制・女子僧侶服裝並ニ法式ニ關スル規定制定之件



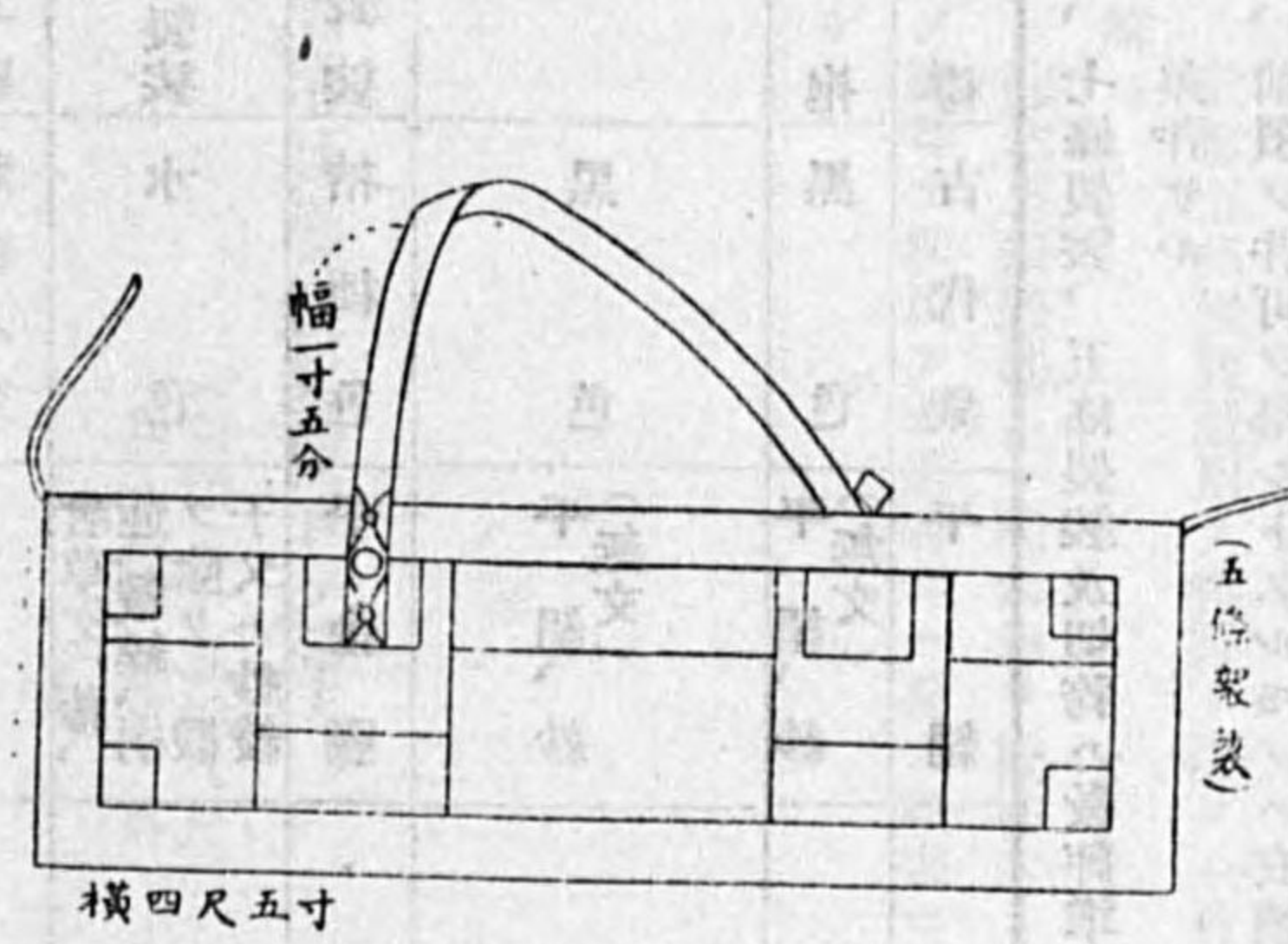
服制・女子僧侶服装並ニ法式ニ關スル規定制定之件

(修多羅)

房四寸

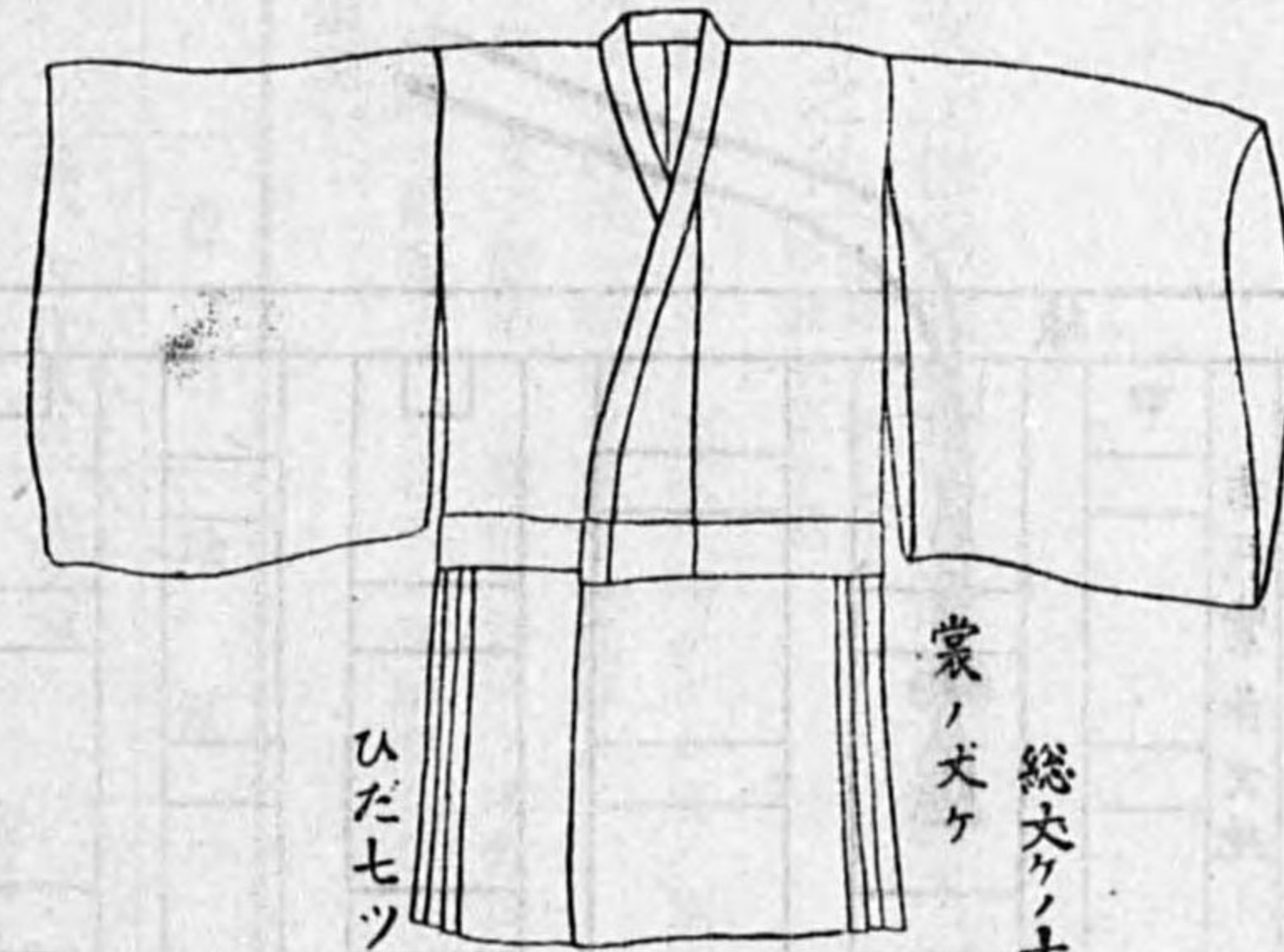
曲尺一尺八寸

紫白紫白



(五條袈裟)

(衣)

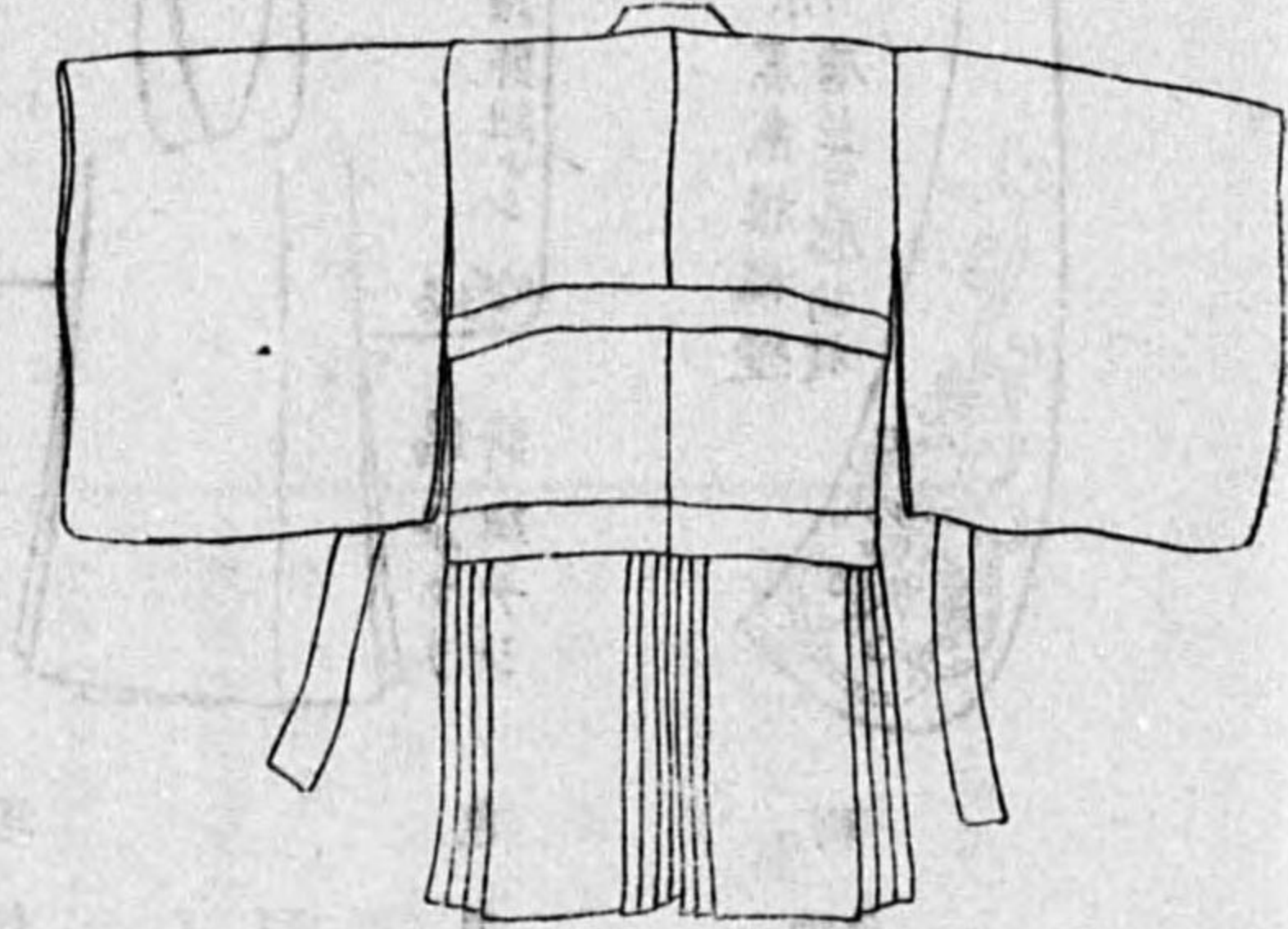


裳ノ丈ケ

ひだ七ツ

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

附則



服制・女子僧侶服装並ニ法式ニ關スル規定制定之件 女子教師正規服装許狀制定之件

○女子教師正規服装許狀制定之件

(昭和七年二月 甲達第三號)

今般女子教師正規服装許狀別記之通相定ム

(別記)

第 號

何府何市何町字何

何縣何郡何村字何

何寺衆徒

候事

今般終身女子教師(準教師)正規服装着用右被差許

昭和

執行所年印

月日

執行所

服制・女教士制服制定之件 教士並女教士徽章制定之件

○女教士制服 (大正十二年二月 甲達第五號)

今般女教士制服別記ノ通り相定ム

(別記)



襟 黒系模様縫  
唐草三藤折枝

地 無紋

セル

アルバカ

羽二重

貫紗

色 黒

袴

地セル  
紫紺

○教士並女教士徽章制定之件

(大正十二年二月 甲達第六號)

派内一般

今般教士並女教士徽章別記ノ通り相定ム

(別記)

表面



銀臺七寶燒  
地及縁銀杏(黄)菊崩シ  
(銀)模様  
徑曲尺七分五厘

裏面



浮文字

他宗派交渉

- 興正寺派別立之件其一其二…三〇五
- 興正寺派卜定約之件…三〇六
- 山元派卜協約交換之件…三〇八
- 出雲寺派卜締約之件…三〇九
- 誠照寺派卜定約之件…三〇〇
- 佛光寺派卜定約之件…三〇一
- 大谷派卜締約之件…三〇二
- 兩山立會末寺取扱規約…三〇三
- 兩派末徒住職教師轉派取扱規約…三〇四
- 大谷派卜協和之件其一其二…三〇五
- 他派法主招請ニ關スル件…三〇五
- 他宗僧侶歸參ニ關スル件…三〇六
- 眞宗各派協和並立教開宗記念法要期日之件…三〇六



他宗派交渉

○興正寺派別立之件其一

(明治九年九月 達書第六十六號)

末寺僧侶中

今般興正寺一派別立ノ儀御開届相成候ニ付權大教正華園攝信殿ヨリ申出ノ趣有之今後五派中一管長ニテ布教上取締ハ勿論教義事務取扱候旨管長ヨリ教部省へ届出相成候趣通知有之候就テハ兩派門末ニ於テ彼我ノ偏執ヲ挾ミ鬪牆ノ醜態ヲ醸候様ノ儀無之様門徒末々迄篤相諭可申此段相違候事

○興正寺派別立之件其二

(明治九年九月 達書第六十四號)

末寺僧侶中

先般興正寺住職權大教正華園攝信殿ヨリ同寺下寺ノ内同志ノ者ニ限リ引率別派致度候段懇願有之候ニ付キ情

他宗派交渉・興正寺派別立之件其一 興正寺派別立之件其二

實酌量ノ上教部省へ添願相成候處本月十三日別紙之通御達相成候條此段相違候事

(別紙)

眞宗本願寺住職

大教正 大谷 光 尊

今般其末寺興正寺別立ノ儀ニ付キ申出ノ趣モ有之依テ別紙ノ通興正寺住職權大教正華園攝信へ相違候條此旨爲心得相違候事

教部大輔 穴 戸 璣

眞宗本願寺末

興正寺住職

權大教正 華 園 攝 信

今般本寺本願寺ト協議ノ上別立ノ儀願出開届候條此旨相違候事

教務大輔 穴 戸 璣

他宗派交渉・興正寺派下定約之件

○興正寺派下定約之件 (明治十年十一月)

(號外達書)

末寺僧侶中

去ル明治九年中興正寺別派之際同寺へ從屬ノ末寺員數不取調之廉有之候ニ付キ昨三十一日更ニ於飛雲閣兩山會盟之上別紙條約書交換候條此段爲心得相違候事

(別紙)

條約

去ル明治九年七月興正寺別派申立之際從屬末寺員數取調不行届ノ廉有之同年十月別派許可之後屢往復討議ニ及ヒ今般本願寺興正寺之間ニ於テ左之條約相結ヒ候條向後兩山共此條約ヲ確守シ決シテ異論有之間敷候事

第一條

- 京都府下 十三ヶ寺
- 大阪府下 四ヶ寺
- 兵庫縣下 十五ヶ寺
- 滋賀縣下 五ヶ寺
- 和歌山縣下 三ヶ寺
- 高知縣下 十ヶ寺
- 愛媛縣下 七十七ヶ寺

堺縣下 五十二ヶ寺

(寺號略ス以下同シ)

右百七十九箇寺ハ去ル明治九年七月興正寺別派之際從屬相成候寺名ニ付改メテ茲ニ記載ス

第二條

- 堺縣下 二ヶ寺
- 京都府下 一ヶ寺

右三箇寺ハ本願寺ニ可屬末寺ニ候處先般興正寺別派申立ノ際誤テ同寺從屬ノ部ニ届出相成候ニ付今般改メテ本願寺末寺ノ部ニ收入致候事

第三條

- 堺縣下 五ヶ寺
- 愛媛縣下 一ヶ寺

右六箇寺ハ先般興正寺ヨリ從屬寺名届出ノ部ニ相洩候得共到底從屬請願ニ付今般改メテ興正寺從屬末寺之部ニ相加ヘ候事

第四條

- 愛媛縣下 三ヶ寺
- 京都府下 一ヶ寺
- 滋賀縣下 三ヶ寺

致交換候也

明治十年十月三十一日

本願寺住職

大教正大谷光尊代理

中教正日野澤依

興正寺住職

大教正華園攝信

本願寺

二等執事 香川 葆 晃

二等錄事 幡山 教 圓

五等錄事 内田 了 讓

興正寺

三級出仕 佐々木 淨 天

兼大錄事 千葉 攝 行

中錄事 楠 乘 願

他宗派交渉・興正寺派下定約之件

第七條 宗規綱領第六編第三款第八條之意旨ニ基キ今後同盟各派末徒之内宗規背犯等之事故有之僧侶該派本山ヨリ懲戒相加ヘ或ハ擯斥候者該人ヨリ何等ノ口實ヲ以テ庇護依頼申出候共右ハ各派ノ權利ヲ相妨候儀ニ付決シテ受理致間敷候事

致間敷候事

第六條 各山末寺檀徒之者向後轉檀願出候時ハ情實取糺シ轉檀可致事故明瞭之者ニ限リ各山熟議之上取計可申無謂轉檀申出候者ハ各山末寺ニ於テ決シテ受理致間敷候事

與シ同寺從屬之部ニ相加候事

第五條 前條ニ掲タル寺院ニ限リ今般所屬相改候上ハ向後兩山末寺之間ニ於テ住職及檀家之者ヨリ如何様ノ儀申立候共決シテ轉派出入之儀受理致間敷候事

右四十七箇寺ハ既ニ本願寺ニ屬スル末寺ニ候處不得止事故有之候ニ付キ今般本願寺ヨリ興正寺へ改テ附

- 堺縣下 二十七ヶ寺
- 大阪府下 一ヶ寺
- 石川縣下 六ヶ寺
- 京都府下 六ヶ寺

第五條 前條ニ掲タル寺院ニ限リ今般所屬相改候上ハ向後兩山末寺之間ニ於テ住職及檀家之者ヨリ如何様ノ儀申立候共決シテ轉派出入之儀受理致間敷候事

第六條 各山末寺檀徒之者向後轉檀願出候時ハ情實取糺シ轉檀可致事故明瞭之者ニ限リ各山熟議之上取計可申無謂轉檀申出候者ハ各山末寺ニ於テ決シテ受理致間敷候事

第七條 宗規綱領第六編第三款第八條之意旨ニ基キ今後同盟各派末徒之内宗規背犯等之事故有之僧侶該派本山ヨリ懲戒相加ヘ或ハ擯斥候者該人ヨリ何等ノ口實ヲ以テ庇護依頼申出候共右ハ各派ノ權利ヲ相妨候儀ニ付決シテ受理致間敷候事

右之條々兩山協議之上固ク致盟約候條後證之爲各捺印

他宗派交渉・山元派ト協約交換之件

○山元派ト協約交換之件 (大正二年八月 甲達第十八號)

今般山元派ト別紙ノ通り協約交換候條爲心得此段相達ス

(別紙)

協約書

兩派本山ニ於テ益交誼ヲ全セン爲メ兩山委員連署協定ノ條件左ノ如シ文中ニ甲、乙、兩派文字ハ兩派相互ノ呼稱トス

第一條 甲派ノ末寺乙派ニ轉屬センコトヲ願出ツルモ乙派ハ之ヲ受理スヘカラス

第二條 甲派ノ僧侶ハ又檀家ニシテ乙派ニ轉屬センコトヲ願出ルモ甲派ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ許可スヘカラス

第三條 甲派ニ於テ僧侶ヲ擯斥セラレ又ハ自己ノ希望ニヨリ歸俗シタル者乙派ニ得度ヲ願出ルモ乙派ハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

右ニ就キ兩派本山ハ其僧侶ノ擯斥並ニ歸俗者ヲ其都度互ニ通知スヘシ

第四條 教師、教師試補及是等ニ補セラレヘキ資格ハ

減シ然ラサル時ハ更ニ五ヶ年間有效トス爾後ノ期限ニ達セシ時亦同シ

附帶契約

一、兩派ノ法主ハ他ノ一派ノ末寺及檀徒ノ懇請ニ應シ法要ヲ親修シ又ハ巡教ヲ爲スヲ得但シ其都度兩山ノ協議ヲ經ヘキモノトス

右協約書ニ通テ作成シ兩派委員調印ノ上本日ヲ以テ交換ヲ了スルモノナリ

大正二年八月十八日

- 眞宗本願寺派協約締結委員 執行 大洲 鐵 也 團
- 眞宗本願寺派協約締結委員 執行 所 贊 事 長 原 田 了 哲 團
- 眞宗山元派協約締結委員 補 事 法 水 智 教 團

他宗派交渉・山元派ト協約交換之件 出雲寺派ト締約之件

兩派相互ニ其轉屬ニ際シ相當資格ニ對配スヘシ

第五條 甲派ノ僧侶ニシテ教師以上ノ者ハ乙派ノ末寺ノ招聘ニ應シテ布教ヲ爲スヲ得但シ所屬本山若クハ地方事務所ノ證明ヲ添ヘ布教セントスル地方事務所若クハ其本山ニ届出ツヘシ

第六條 前條ノ布教ニシテ兩派ノ交誼ヲ害シ又ハ其派ノ施設ヲ妨クルノ嫌アルトキハ兩派本山ハ早ク其事實ヲ認メタル方ヨリ直ニ其布教ヲ停止シ所屬本山ハ他ノ一派ノ要求ニヨリ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七條 兩派ノ僧侶ハ相互ニ兩派ノ學校ニ入學シ其派ノ僧侶ト同等ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第八條 甲派ノ僧侶ハ乙派ノ本山別院及末寺ノ法要ニ參勤スルコトヲ得但シ着席ハ特ニ定メタル座席ニ由ルヘシ

第九條 甲派ノ本山ハ必要ニ應シ乙派ノ教師以上ノ僧侶ヲ其本山ノ承認ヲ經テ事務學事布教ニ從事セシムル爲メ任用スルコトヲ得

第十條 本協約ハ交換ノ日ヨリ效力ヲ生シ其日ヨリ起算シテ滿五ヶ年間有效トス右期限ニ至リ兩派ノ一方カ廢約又ハ更改ノ意思ヲ通知シタルトキハ效力ヲ消

○出雲寺派ト締約之件 (明治十四年六月 達書番外)

各府縣下

末寺僧侶中

今般出雲寺派ト別紙之通定約交換相成候條爲心得此段相達候事

(別紙)

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定約スル條件如左

第一條 甲派末寺ニシテ住職檀家協議ノ上一寺擧テ乙派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス

第二條 甲派本山ニ於テ師命背反等ノ事故アリテ擯斥ヲ受ケシモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ニ得度ヲ願出ルモ兩派互ニ受理スヘカラス但シ擯斥又ハ歸俗ヲ許諾スルノ都度甲派ヨリ乙派ニ通知スヘキモノトス

第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出ルコトアレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘシ

第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要ス

他宗派交渉・出雲寺派下締約之件 誠照寺派下定約之件

ル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス  
右之條々兩山協議ノ上固ク致約盟候條後證之爲捺印致  
交換候也

明治十四年五月十三日

- 真宗本願寺派
- 本願寺執行
- 權大教正 近 松 攝 眞
- 眞宗出雲寺派
- 毫攝寺執事
- 權少講義 藤 季 了 寛

○誠照寺派下定約之件(明治十四年六月)

(達書番外)

先般誠照寺派下別紙之通定約交換相成候條爲心得此段  
相違候事

- 各府縣下
- 末寺僧侶中

(別紙)

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定  
約スル條件如左

- 第一條 甲派末寺ニシテ住職檀家協議ノ上一寺舉テ乙  
派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス
- 第二條 甲派本山ニ於テ師命背反ノ事故アリテ擯斥ヲ  
受ルモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ヘ得度願出ルモノ兩派  
互ニ之ヲ受理スヘカラス但シ擯斥又ハ歸俗ヲ許諾ス  
ルノ都度甲派ヨリ乙派ニ通知スヘキモノトス
- 第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出  
ル事アレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘシ
- 第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要ス  
ル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス

明治十年三月

- 真宗本願寺派
- 本願寺住職
- 大教正 大 谷 光 尊
- 眞宗誠照寺派
- 誠照寺住職

權中教正 二 條 秀 源  
今般前書之通兩山法主殿御盟約相成候ニ付テハ兩山寺  
務役員之者謹テ之ヲ遵守シ決シテ異議申立間敷候依テ  
爲後證連署交換候也

- 本願寺執事代理
- 權少教正 長 谷 川 楚 教
- 權少教正 藤 山 澤 稱
- 誠照寺執事
- 權大講義 波 多 野 量 光

○佛光寺派下定約之件(明治十四年十二月)

(達書番外)

今般佛光寺派下別紙之通定約交換相成候條爲心得此段  
相違候事

各府縣下  
末寺僧侶中  
他宗派交渉・誠照寺派下定約之件 佛光寺派下定約之件

(別紙)

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定  
約スル條件如左

- 第一條 甲派末寺ニシテ住職檀家協議ノ上一寺舉テ乙  
派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス
- 第二條 甲派本山ニ於テ師命背反等ノ事故アリテ擯斥  
ヲ受ケシモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ヘ得度願出ルモノ兩  
派互ニ受理スヘカラス但シ擯斥又ハ歸俗ヲ許諾スル  
ノ都度甲派ヨリ乙派ヘ通知スヘキモノトス
- 第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出  
ルコトアレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘ  
シ
- 第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要ス  
ル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス

明治十四年十二月六日

- 真宗本願寺派
- 本願寺執行

他宗派交渉・佛光寺派ト定約之件 大谷派ト締約之件

權少教正 長谷川楚教

眞宗佛光寺派

佛光寺執事補

權中教正 奥 有 讓

第三章

宗規綱領ヲ改定セントスルトキハ必ス協議スヘキ事

第四章

兩派ノ教徒互ニ相競テ宗教擴張スヘキハ勿論ナリト雖モ其ノ功ヲ我一派ニ專ラニセン爲ニ他ノ一派ノ障礙ヲナスカ如キハ大ニ宗門ノ本旨ニ背ク堅ク之ヲ制止スヘキ事

右内務省御達書ノ旨趣ヲ體シ締盟結約スルコト斯ノ如シ自今以後相共ニ之ヲ確守シ益和親ヲ本トスヘシ依ツテ爰ニ兩寺執事連署捺印シテ各一本ヲ藏スル者也

明治十五年九月二十一日

本願寺執行

中教正 日 野 澤 依

權中教正 大 洲 鐵 然

少教正 赤 松 連 城

少教正 香 川 葆 見

權少教正 長 谷 川 楚 教

權少教正 石 原 僧 宣

東本願寺執事

中教正 大 谷 勝 縁

○大谷派ト締約之件 (明治十五年十月)

末寺僧侶中

今般東本願寺ト別紙之通締約交換相成候條此段相違候事

(別紙)

第一章

明治十五年三月二十二日内務省ヨリ兩寺へ御達ノ件々ハ永ク之ヲ確守スヘキ事

第二章

榮譽ニ關シ或ハ名望ニ涉ル等ノ事ニ付政府ニ請願セントスルトキハ必ス前以テ協議ヲ經ヘキ事

同寺執事

權中教正 長 圓 立

同寺副執事

少教正 小 早 川 大 船

同寺二級出仕

權少教正 大 谷 勝 珍

○兩山立會末寺取扱規約 (明治十九年七月)

兩山立會末寺中

過ル明治十一年七月兩山立會末寺取扱規約相違置候處今般兩山協議ノ上別紙ノ通り改定候條此段相違候事

(別紙)

兩山立會末寺取扱規約

第一條 本尊並ニ祖師眞影及皇太子七高祖ノ影像ハ必ス兩派協議ノ上許可スヘキモノトシ前住上人ノ影像ハ必ス兩派法主ノ影像ヲ安置セシムヘキモノトス

他宗派交渉・大谷派ト締約之件 兩山立會末寺取扱規約

第八條 兩派ニ關スル冥加禮金等ハ都テ定規ノ半額宛

請フモノトス

第七條 堂班昇進並ニ繼席ハ必ス兩派へ出願シ許可ヲ

條及本條ノ手續ヲナスモノトス

第六條 住職申付ノ際ハ兩派管長殿御連署ニテ其御届

書ヲ地方廳へ差出スモノトス但シ兼務出願ノ際ハ前

驗ハ一代ハ甲派ニ於テ一代ハ乙派ニ於テス

第五條 住職進退ハ兩山ニ於テ該願書ヲ受理シ調査ノ

上差支ナキモノハ甲派(試驗ヲ行フ)ヨリ乙派へ通知

シ兩山各自ニ定規書式ノ辭令書ヲ授與スヘシ但シ試

驗ハ一代ハ甲派ニ於テ一代ハ乙派ニ於テス

第四條 教師ハ必ス得度ヲ許セシニ派管長ヨリ申付ヘ

シ但シ托鉢願ノ儀モ本條ニ準ス

第三條 得度ハ兩派本山ニ出願セシメ正副住職タラシ

ムヘキ見据ノモノニ限リ一代ハ甲派一代ハ乙派ニ於

テ許可スヘシ其他ノ衆徒ハ甲乙兩派ヲ問ハス願人ノ

請願ニ任セ許可スヘシ但シ衆徒ノ増減ハ其都度住職

ヨリ詳細兩派へ届出ヘシ

第二條 寺檀協議ノ上境内持添地及堂宇等賣拂或ハ新

築移轉等ニ付地方廳へ願出之節ハ必ス兩派本山ヨリ

添書ヲ附スヘキモノトス

他宗派交渉・兩山立會末寺取扱規約 兩派末徒住職教師轉派取扱規約

ヲ兩派へ納ムヘシ

第九條 凡諸願伺等其ノ事故ノ兩派本山ニ亙ルト否トニ拘ラス必ズ組長連署奥印シ兩派本山ニ差出スヘシ  
第十條 寺院明細帳ハ兩派ニ收メ各一般末寺ノ分ニ加

フ

第十一條 住職及衆徒一派内ノ規則ニ背ク事アラハ處分ノ後事故願末ヲ直ニ通知スヘシ若シ宗制寺法ニ違スルコトアラハ必ズ兩派協議ノ上之ヲ處分スヘシ

第十二條 所管ノ府縣ヨリ照會等ノアルトキハ兩派協議ノ上回答スヘシ

第十三條 從前立會道場ト稱スルモノ其兩派本山ニ於テ已ニ寺號ヲ付スルト否トニ關セス實際寺院トシテ存スヘキ者ハ都テ兩派ヨリ所管ノ府廳へ寺院通稱ノ儀ヲ申立之ヲ立會末寺ニ加フヘシ

第十四條 前條ノ外臨時非常ノ事ハ都テ協議ノ上處分スヘシ

○兩派末徒住職教師轉派取扱規約

(明治二十九年六月甲達第二十八號)

末寺 一般

今般別記之通兩山末徒及住職教師轉派取扱規約相結候條爲心得此段相達ス

兩山末徒住職及教師轉派取扱規約

第一條 兩山末徒ニシテ教師若ハ入位以上補任者及明治二十八年十二月以前ヨリ現ニ正副住職(非教師副住職及教師試補正副住職ヲ除ク)タル者兩派何レヨリ轉スルモ無試験ニテ相互對配ノ取扱ヲナスヘキモノトス

第二條 兩山末徒ニシテ左項ノ一ニ該當スル者兩派何レヨリ轉スルモ相互對配ノ住職ヲ許可スヘシ

一、非教師副住職

一、教師試補正副住職

第三條 前二條外ノ者ト雖モ兩山教校學歴上教師ニ補セラルヘキ資格アル者ハ相互同様ノ取扱ヲ爲スヘシ  
第四條 本規約ハスヘテ兩山ノ證明ニ依リテ之カ取扱ヒヲナスヘシ

○大谷派ト協和之件其二

(明治三十八年六月訓告第三號)

門末 一般

本月二十一日大谷派大法主親シク本山へ御來訪遊ハサレ時局ノ推移ト宗門ノ前途ニ對シ深ク考ヘル所アリ自今兩派彌ヨ親善シ同心戮力以テ宗門ノ面目ヲ發展スヘキ機運ヲ失ハス唇齒輔車ノ情ヲ以テ提携スヘキ旨御懇話遊ハサレ我大法主御同意ノ旨御答遊ハサレ候條門末一同尊旨ヲ奉體シ苟クモ門派的感情ノ障壁ヲ去リ専ラ宗門ノ開揚ニ努メニ諦躬行ノ實ヲ顯ハサンコトヲ期スヘシ尊旨ニヨリ茲ニ訓告ス

○大谷派ト協和之件其一 (明治二十二年三月訓告第一號)

末寺 一般

大谷派本山ト交際ノ儀ハ從來協同和合致來候へ共方今ノ形勢最モ協力ヲ要シ相互ニ彼我ノ隔意ヲ離レ協和親密以テ力ヲ教門ニ盡スヘキ時機ニ候へハ大法主殿ニ於カセラレテモ向後尙一層兩山ノ交誼ヲ厚クシ和親ノ實ヲ表セラレ候條門末一同宜ク此旨體認スヘシ

他宗派交渉・兩派末徒住職教師轉派取扱規約 法主招請ニ關スル件

○他派法主招請ニ關スル件

(明治十一年三月達書第三十八號)

末寺 僧侶 中

大谷派ト協和之件其一 大谷派ト協和之件其二 他派

他宗派交渉・他派法主招請ニ關スル件 他宗僧侶歸參ニ關スル件 眞宗各派協和並立教開宗記念法要

期日之件 他派ノ法主各府縣下へ巡回等ノ節本派内ノ寺院へ招請致候儀不相成候條此段相違候事

成候條宜シク此旨ヲ體認シ益々協和ノ實ヲ揚グルコトヲ期セラレヘシ

(別記)

聯合諭達

曩ニ立教開宗七百年記念ノタメ眞宗十派協和會ヲ組織シ各派本山相提携シテ共通ノ事件ヲ處辨シ彌々祖風ノ宣揚ニ努メ國家社會ニ貢獻セムコトヲ企圖セシトコロ法要ハ希觀ノ盛儀ヲ以テ修了シ(高田派本山ハ大正十三年修行)各派ノ事業ハ逐次ソノ歩ヲ進メントス此秋ニアタリソノ聯合ヲ繼續シ共同ノ行動ヲ進ムルコトハ最モ必要ヲ感スルトコロナリ依テ自今毎年四月十五日ヲ以テ本山並ニ末寺ニ於テ一座ノ法要ヲ修シ永ク開宗ノ洪恩ニ報イントス各寺住職宜クコノ趣旨ヲ服膺シ以テ協和ノ實ヲ揚グルニ勉メラレヘシ

大正十二年八月五日

本願寺派執行 原田了哲  
大谷派事務總長 阿部惠水  
高田派執事 加藤忍殿  
佛光寺派執事 佐々木良祐  
興正派總務 越智敏雄

○他宗僧侶歸參ニ關スル件

(明治二十三年十二月 教示第三三號)

他宗ノ僧侶ニシテ本寺へ改宗歸參スルトキハ時宜ニ依リテ特ニ法蘭ヲ授ク

○眞宗各派協和並立教開宗記念法要期日之件

(大正十二年八月 訓告第三號)

眞宗各派本山協和ニ關シ別記之通り聯合諭達ヲ發布相

木邊派執事事務取扱 高田善達  
出雲寺派執事 藤光雲  
山元派執事 藤堂智順  
誠照寺派執事 波多野源耀  
三門徒派執事 島津鷺峰

他宗派交渉・眞宗各派協和並立教開宗記念法要期日之件





願記

○門末諸願伺届取扱ニ關スル注意

一 組長ハ門末ヨリ本山へ差出ス諸願伺届ニ就キ正確ニ調査ヲ遂ケ差支ナシト認メタルトキハ左ノ書式ニ依リ奥書シ教務所經由本山へ進達スヘシ  
(書式)

願ニ對スル奥書

前記ノ通相違無之ニ付御許可相成度候也

(奥印仕候也)

何々組長 何

某團

伺ニ對スル奥書

前記ノ通伺出候條何分ノ御指令相成度候也

何々組長 何

某團

届ニ對スル奥書

前記ノ通相違無之ニ付奥印仕候也

何々組長 何

某團

一 組長ニ於テ諸願伺届ニ關シ差支アリト認ムルトキハ奥書セズ別ニ意見書ヲ添付スヘシ

一 門末ヨリ本山へ差出ス願(辭令又ハ許狀等)ノ下付ナ

願記・門末諸願伺届取扱ニ關スル注意

クシテ指令ヲ要スルモノハ二通)又ハ届書ハ一通トシ伺書ハ二通差出サシムヘシ

一 御添書願ノ件ハ凡テ御添書願一通ニ官廳宛願書二通ヲ添付セシムヘシ

一 官廳宛願書ニ其宛名(長官ノ姓名)記載ナキトキハ御添書下付相成ラサルニ依リ右宛名記載漏レナキ様願人へ注意スヘシ

一 末寺僧侶ノ諸願ニ對シテハ其寺又ハ本人ノ三季教育補充費元護持會金其他御香儀等義務金納否ヲ調査シ若シ未納アルトキハ願書進達ニ先チ本山へ納金セシムヘシ

一 組長ハ門末ノ願伺届ニ對シ手数料ヲ徴收スルコトヲ得ス但シ之ヲ徴スルノ必要アルトキハ組内ノ協議ヲ經テ本山ノ認可ヲ受ケヘキモノトス

一 左ニ列記スル諸願届ニ對シテハ組長ハ其願届ニ要スル條件及書式ニ違ハサル様整備セシメタル上本山へ進達スヘシ

巡讚願之件

○巡讚願之件

改正 大正一一、六 昭和八、九

一 永代内陣本座二等以上ノ正副住職又ハ前住職ハ願ニ依リ巡讚差許サレ白衣(緞子、紗綾、紗、無紋精好)着用許可セラル

但シ本座二等ハ離紋ヲ許サス

一 左記期日ハ巡讚御許可ナキヲ以テ出願者ハソノ心得ニテ上京セラルヘシ

十四日、十六日、十八日

御歴代御祥月命日並ニ讚佛會中

一 巡讚出願ノ者ハ本人上京左記願書ヲ差出シ御禮金並ニ衣體冥加金ヲ上納スヘシ

但シ巡讚出願ノ者ニシテ御堂年頭出勤セサリシ者ハ巡讚願ニ先チ御堂出勤願出ツヘシ

(書式)

巡 讚 願

一堂 班 何々

一初代巡讚(又ハ何代)

今般巡讚御許可被成下度此段奉願候也

何 府 市 町  
何 縣 郡 村  
何 寺 正副住職前住職  
何 某◎  
年 月 日  
(組長管事奥書スルコト)

執行御中

御堂出勤願

何 府 市 町

何 縣 郡 村

何 組 何 寺 住 職

何 某◎

一堂 班 何々

一 教師進教師何年月日又ハ舊教職何年月日

私儀今般上京仕候ニ付何月何日ヨリ御堂出勤仕度候條御許可被成下度此段奉願候也

執行御中

年頭慶賀願

何 府 市 町

何 縣 郡 村

何 組 何 寺 住 職

何 某◎

一堂 班 何々

一 教師、進教師何年月日又ハ舊教職何年月日

私儀今般上京仕候ニ付年頭慶賀御許可相成候様御取計被成下度此段奉願候也

年 月 日 右 何 某◎

執行御中

○巡讚御禮金

一 内陣本座二等住職初代巡讚ノ御禮ハ

金參百圓

同二代目ノ御禮ハ

金壹百五拾圓

同三代目以後代々ノ御禮ハ

金貳拾五圓

一 内陣本座一等住職初代巡讚ノ御禮ハ

金壹百五拾圓

同二代目ノ御禮ハ

金七拾五圓

願 記・巡讚願之件 巡讚御禮金取扱之件 巡讚御禮金

○巡讚御禮金取扱之件 (明治三十一年九月)

(局達第九十二號)

巡讚願取扱之件ニ關シ左ノ通被定候條此段相達ス

一 明治十一年三月六日以前巡讚許可之寺院ハ自今代々御禮金ヲ要セス白衣ヲ冥加ノミニテ之レヲ許可ス

一 明治十一年三月六日以前准巡讚許可ノ寺院ハ自今代々内陣上座一等ノ巡讚御禮金ノ半額即左ノ通ニテ許可ス

初代 御禮金拾貳圓五拾錢

二代 御禮金六圓貳拾五錢

願 記・巡讃御禮金 私記嘆徳文傳授願之件

- 同三代目以後代々ノ御禮ハ  
金貳拾五圓
- 一内陣上座二等住職初代巡讃ノ御禮ハ  
金五拾圓
- 同二代目ノ御禮ハ  
金貳拾五圓
- 同三代目以後代々ノ御禮ハ  
金拾貳圓五拾錢
- 一内陣上座一等住職初代巡讃ノ御禮ハ  
金貳拾五圓
- 同二代目ノ御禮ハ  
金拾貳圓五拾錢
- 同三代目以後代々ノ御禮ハ  
金七圓五拾錢
- 但シ別格寺住職ノ巡讃御禮金ハ従前ノ例ニヨル
- 一巡讃ノ人数ニ加ヘラレタル者ハ白衣(緞子、紗綾、紗、無紋精好)着用ヲ許サル
- 但シ本座二等ハ離紋ヲ許サス
- 一冥加金七圓五拾錢納ムヘシ

○私記嘆徳文傳授願之件

- 一巡讃許可済ノ者ハ願ニ依リ私記嘆徳文傳授セララル
- 一私記嘆徳文傳授出願ノ者ハ本人上京左記願書ヲ差出スヘシ

(書式)

私記嘆徳文傳授願

一堂 班 何々

一巡 讚 何年何月何日許可

今般私記嘆徳文傳授被成下度此段奉願候也

何 府 市 町

何 縣 郡 村

何 某

(組長管事奥書スルコト)

執行 御 中

○私記嘆徳文御傳授御禮金

- 一内陣本座二等以上正副住職ニシテ巡讃済ノ者私記嘆徳文ノ御傳授ヲ願フトキハ御禮金

	上座一等	上座二等	本座一等	本座二等
初代	金參拾七圓五拾錢	金七拾五圓	金百圓	金百貳拾五圓
二代以後	金拾貳圓五拾錢	金五拾圓	金七拾五圓	金百圓

初代御傳授ノ者ハ私記嘆徳文御傳授ノ事

但シ冥加金貳拾五圓納ムヘシ

注意

- 一、私記嘆徳文初代御傳授ノ節ハ御禮金ノ外ニ御軸代金貳拾五圓ヲ要ス
- 一、二代目以後ハ御軸拜受希望ノ者ニ限り御軸代ヲ要ス

○院、房、庵號願之件

- 一堂班内陣本座二等以上ノ正副前住職ハ死後院號依願許可セララル
- 一内陣列座餘之間ノ正副前住職ハ死後房號依願許可セララル
- 一脇之間以下ノ正副前住職ハ死後庵號依願許可セララル
- 一院(房)號出願ノ者ハ左記願書ト共ニ御禮金ヲ上納スヘシ

(書式)

死後院(房)號御授與願

何 府 市 町

何 縣 郡 村

何 寺 住 職(副住職)

何年何月何日死亡 何 某

右何某ハ院號(房號)何々院(何々房)ト御授與被成下度此段奉願候也

何 寺 住 職(又ハ副住職)

何 兼務住職

(副住職又ハ兼務住職ナキトキハ法類ヨリ出願スヘシ)

願 記・私記嘆徳文御傳授御禮金 院、房、庵號願之件

願 記・院、房、庵號願之件 院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金  
(組長管事奥書スルコト)  
執行 御 中

一、内陣本座二等以上上座一等迄正副前住職死後院號  
拜受御禮金ハ  
金壹百圓  
以上御染筆御禮金  
金五拾圓  
門徒信徒死後御染筆院號法名拜受ノ御禮金ハ  
金壹百圓

○院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金  
之件 (明治四十二年五月  
甲達第二十八號)

院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金自今別記之通り  
更改ス  
追而本達示ニ概觸スル從前ノ御禮金内規ハ總テ之ヲ  
廢ス  
(別記)  
院、房、庵號御授與御禮金内規  
一、脇之間以下正副前住職死後庵號拜受御禮金ハ  
金五拾圓  
一、餘之間内陣列座正副前住職死後房號拜受御禮金ハ  
金五拾圓

○堂班衣體願之件

一永代堂班昇進願ハ住職ノ有無ニ拘ハラズ一般末寺ニ  
差許サル  
一一代(住職)堂班願ハ正副住職又ハ前住職ニ限り差許  
サレ其者存生中又ハ二代目相續者ノ願ニ依リ永代堂  
班ニ差繼許可セラル  
一終身堂班願ハ住職衆徒ノ區別ナク派内一般僧侶ニ差  
許サル

一教師拜命ノ者ハ願ニ依リ教師對配衣體トシテ外陣列  
座又ハ脇之間衣體着用許可セラル  
一終身堂班並ニ教師等ノ對配ニテ許可ノ一代堂班ハ永  
代ニ差繼クコトヲ得ス  
一衆徒ノ所屬寺堂班衣體願ハ後住職候補者一名ニ限り  
差許サル  
一堂班衣體出願ノ者ハ冥加表ニ基キ冥加金ヲ上納スヘ  
シ  
一無住寺ノ永代堂班ヲ除ク外堂班願ハ堂班冥加ト共ニ  
必ス衣體冥加ヲ上納スヘシ  
一後住看据者ニ限り所屬中堂班ヲ出願スルコトヲ得  
一堂班衣體願書式左ノ如シ  
(書式)  
堂 班 願  
今般堂班(永代一代)何々ニ昇進仕度候條御許可被成下  
度此段奉願候也  
何 府 市 町  
縣 郡 村  
何 寺 正 副 住 職 前 住 職 又 ハ 衆 徒  
年 月 日 何 某 〇  
(永代堂班ハ檀家總代ヨリ出願スル事ヲ得)  
願 記・堂班衣體願之件

(組長管事奥書スルコト)  
執行 御 中

衣 體 願  
一何々堂班 通常 特別衣體  
一教師對配外陣列座又ハ脇之間衣體  
右衣體着用御許可被成下度此段奉願候也  
何 府 市 町  
縣 郡 村  
何 寺 住 職 (副住職前住  
職又ハ衆徒)

年 月 日 何 某 〇  
(組長管事奥書スルコト)  
執行 御 中

所屬寺堂班衣體願(長男衣體ノコト)  
私儀明治十六年甲達第五號御達ノ趣旨ニ基キ今般所屬  
寺堂班何々衣體着用御許可被成下度此段奉願候也  
何 府 市 町  
縣 郡 村  
何 寺 衆 徒

年 月 日 (本人) 何 某 〇  
右寺住職(又ハ兼  
務住職)  
何 某 〇  
(無住ナレハ法類ノミ連署ノコト)

願 記・堂班衣體願之件 所屬中堂班願之件

内陣上座一等別格特別衣體御禮金

何府市町

右寺住職 何

檀家總代

某印

何府市町

何

(檀家總代連署スルコト)

執行御中

(組長管事奥書スルコト)

○所屬中堂班願之件

所屬中堂班願

何府市町  
何縣郡何村  
何寺衆徒

何

某印

私儀右寺所屬中堂班何々ニ昇進仕度候條御許可被成下  
度此段奉願候也

年 月 日

右本人

何

某印

○上座一等甲種特別衣體御禮金

(大正七年三月) 改正 大正一〇、一二  
(甲達第六號)

内陣上座一等甲種特別衣體

初代

金參千五百圓

二代

金貳千貳百圓

三代以後

金壹千貳百圓

○上座二等本座一等甲種特別衣體御禮金

(大正七年五月) 改正 大正一〇、一二  
(甲達第十一號)

内陣上座二等甲種特別衣體

初代

金壹千參百圓

二代

金八百五拾圓

三代以後

金五百圓

内陣本座一等甲種特別衣體

願 記・寺院免物冥加表

上座一等甲種特別衣體御禮金 上座二等本座一等甲種特別衣體御禮金 免物諸冥加之件

○内陣上座一等別格特別衣體御禮金

(昭和八年二月) 法度第一號

内陣上座一等別格特別衣體

初代

金七千圓

二代

金五千圓

三代以後

金參千圓

初代  
二代  
三代以後

金五百圓  
金參百五拾圓  
金貳百五拾圓

○免物諸冥加之件

(大正五年六月) 甲達第十五號

改正

大正 大正 大正  
大正 大正 大正  
昭和 昭和 昭和  
三、二、一 三、二、一 三、二、一  
四、三、二 四、三、二 四、三、二

○寺院免物冥加表

○太子七高僧

願記・寺院免物冥加表

- 綾表具 壹百貳拾圓
- 金襴表具 壹百八拾圓
- 御開山様御影
  - 三番形綾 九拾圓
  - 同金襴 壹百貳拾圓
  - 二番形綾 壹百圓
  - 同金襴 壹百四拾圓
  - 一番形綾 壹百拾圓
  - 同金襴 壹百六拾圓
- 右同斷無圖
- 綾表具 壹百八拾圓
- 金襴表具 貳百貳拾圓
- 但シ脇之間以下ハ二番形迄許可サル餘之間以上ハ何レモ差支ナシ
- 諡號御影
  - 宗祖大師中宗大師各壹幅 壹百四拾圓
  - 三番形金襴 壹百六拾圓
  - 二番形金襴 壹百八拾圓
  - 一番形金襴 貳百五拾圓
  - 宗祖大師無圖金襴

但從前三番形御開山様御影ヲ拜受セスシテ直ニ二番形以上若クハ宗祖大師御影ヲ出願スルトキハ別冥加トシテ金貳拾圓ヲ要シ速如上人御影ヲ拜受セスシテ直ニ中宗大師御影ヲ出願スルトキハ別冥加トシテ金拾圓ヲ要ス脇之間以下ヨリ二番三番ノ諡號御影ヲ出願スルトキハ増冥加金拾圓ヲ要ス

○特別一番形眞向御影 四百五拾圓  
但シ現今本座二等以上並ニ慶應三年以前堂班餘之間以上許可ノ寺院へ御授與

○御繪傳

- 常雲綾 貳百六拾圓
- 同金襴 參百圓
- 青黛雲綾 貳百八拾圓
- 同金襴 參百貳拾圓
- 紺青雲綾 參百圓
- 同金襴 參百八拾圓
- 紺青雲裏箔金襴 四百五拾圓
- 右出願ノ節從前御傳鈔拜受セサルモノハ必ス同時ニ出願スヘシ

冥加金拾五圓ヲ要ス

○御歷代御影

- 四番形綾 五拾圓
- 同金襴 七拾圓
- 三番形綾 六拾五圓
- 同金襴 八拾圓
- 四番形蓮師黑衣綾 六拾五圓
- 同金襴 七拾五圓
- 三番形蓮師黑衣綾 七拾圓
- 同金襴 八拾圓

○御歷代連座御影

- 四番形綾 七拾五圓
  - 同金襴 九拾圓
  - 三番形綾 八拾五圓
  - 同金襴 壹百圓
- 前各項出願之御影寄進人五十名迄増冥加一名ニ付金五拾錢宛

○自影

- 黑衣黒袈裟 五拾五圓
- 願記・寺院免物冥加表

黑衣袈裟附 七拾五圓  
色衣 七拾五圓

金紋縁金紋五條袈裟等堂班以外ノ特別衣體着用品ニ改正ス  
影ハ増冥加金拾圓

寸法	御染筆九字尊號下付冥加表	寸法金軸共	冥加金(各壹幅ニ付)
二寸	總縁紺地雲風中縁 白地紅紋麻桐模様	縦一尺二寸 横四寸六分	五十代五拾圓
三寸	同	縦一尺七寸 横七寸	百代五拾圓
四寸	同	縦二尺七寸 横一尺一寸	二百代五拾圓
五寸	同	縦三尺三寸 横一尺三寸	三百代壹百圓
七寸	同	縦四尺六寸 横一尺七寸	五百代壹百圓
中品	同	縦六尺七寸 横二尺二寸	一貫代壹百五拾圓
大品	同	縦八尺六寸 横二尺六寸	三番形貳百圓

追テ從來脇之間以下へ許可ノ中品尊號ハ右表中ノ中品ニ改正ス  
○餘之間以上へ許可

願記・寺院免物冥加表 在家免物冥加表

大品六字九字十字尊號各壹幅 貳百圓

○御藏版物

教行信證	參圓五拾錢
七祖聖教	五圓
小本眞宗法要	八圓
龍谷梵唄集	壹圓六拾錢
標注三部經	壹圓
校點三部經一等	五圓
同 二等	四圓
御傳鈔	拾五圓

○在家免物冥加表

○御本尊

一寸板表具

參圓五拾錢

願記・在家免物冥加表

○紺紙金泥尊號

六字尊號

無寸板表具	六圓五拾錢
一寸板表具	參圓

○六字九字十字尊號各壹幅

同 三寸	七圓
同 二等	拾圓
同 一等	拾參圓

御裏法名申添願出ツルトキハ壹名ニ付

金五拾錢

○御眞筆尊號 六字九字十字各壹幅

同 四寸	同 三等	拾貳圓
同 同	同 二等	拾五圓
同 同	同 一等	拾貳圓
同 四寸	同 五等	七圓
同 同	同 四等	拾圓
同 同	同 三等	拾貳圓
同 同	同 二等	拾五圓
同 同	同 一等	拾貳圓
同 二寸	同 五等	貳圓
同 同	同 四等	參圓
同 同	同 三等	五圓
同 同	同 二等	六圓
同 同	同 一等	八圓
同 三寸	同 五等	參圓
同 同	同 四等	五圓
同 同	同 三等	八圓
同 同	同 二等	九圓
同 同	同 一等	拾圓
同 三寸五分	同 五等	六圓
同 同	同 四等	八圓
同 同	同 三等	拾圓
同 同	同 二等	拾貳圓
同 同	同 一等	拾四圓

二寸

綾

壹圓八拾錢

同 同	同 五等	貳圓
同 同	同 四等	參圓
同 同	同 三等	五圓
同 同	同 二等	六圓
同 同	同 一等	八圓
同 三寸	同 五等	參圓
同 同	同 四等	五圓
同 同	同 三等	七圓
同 同	同 二等	拾圓
同 同	同 一等	拾貳圓
同 三寸五分	同 五等	六圓
同 同	同 四等	八圓
同 同	同 三等	拾圓
同 同	同 二等	拾貳圓
同 同	同 一等	拾四圓
同 四寸	同 五等	七圓
同 同	同 四等	拾圓
同 同	同 三等	拾貳圓
同 同	同 二等	拾五圓
同 同	同 一等	拾七圓

願 記・在家免物冥加表

四寸	五等	七	圓
同	四等	拾	圓
同	三等	拾	圓
同	二等	拾	圓
同	一等	拾	圓
五寸	三等	拾	圓
同	二等	拾	圓
同	一等	拾	圓
七寸	三等	拾	圓
同	二等	拾	圓
同	一等	拾	圓
懷中尊號	無寸	貳	圓
同	三等	參	圓
同	二等	參	圓
同	一等	參	圓
諸講中同行中へ許可	六字九字十字尊號各壹幅	壹百五拾圓	
中品金襴		貳百圓	
小品金襴		貳百圓	
小形御影		貳百圓	

祖師聖人 蓮如上人 明如上人 各壹幅

二寸形	一等	八	圓
同	二等	五	圓
三寸形	一等	拾	圓
同	二等	七	圓
三寸五分形	一等	拾	圓
同	二等	拾	圓
四寸形	一等	拾	圓
同	二等	拾	圓
五寸形	一等	拾	圓
同	二等	拾	圓
六寸形	一等	拾	圓
同	二等	拾	圓
七寸形	一等	拾	圓
三寸五分形	明如上人へ下付セラレス		
宗祖大師號御影			
二寸形		拾	圓
三寸形		拾	圓
四寸形		拾	圓
五寸形		拾	圓
六寸形		拾	圓
七寸形		拾	圓
小形雙幅御繪傳		壹百六拾圓	

願 記・在家免物冥加表

一	等	貳	百	圓
御傳鈔拜受セサルモノハ同時ニ願出ツヘシ				
諸講中並ニ長御印章拜受ノ同行中へ許可				
四番形御歴代御影	但御山様御影ヲ除ク	六	拾	圓
綾表	具	八	拾	圓
金襴表	具	貳	拾	圓
木佛尊像御札		貳	拾	圓
法如上人御眞筆判				
御和讃御文章				
正信偈和讃		參	拾	圓
同	小形並製	參	拾	圓
同	小形特製	五	拾	圓
御文章五帖一部		四	拾	圓
同	八ヶ條	拾	貳	圓
同	小形並製	參	拾	圓
同	同特製	五	拾	圓
御藏版物				
教行信證		參	圓	五拾錢
七祖聖教		五	圓	
小本眞宗法要		八	圓	

龍谷梵唄集 壹圓六拾錢

標注三部經		壹	圓
校點三部經	一等	五	圓
同	二等	四	圓
御傳鈔		拾	圓
正信偈和讃		五	圓
同	小本	壹	圓
御文章五帖一部		貳	圓
同	御加へ	四	圓
同	薄葉小本合冊並製	參	圓
同	特製	六	圓
領解文		五	圓
御裁斷御書		五	圓
御遺訓御書		參	圓
折紙法名		五	圓
御判形絹地法名		參	圓

(注意)  
二寸形ハ五十代、三寸形ハ百代、三寸五分形ハ百五十代、四寸形ハ二百代、五寸形ハ三百代、七寸形ハ五百代、一尺形ハ一貫代ノ事也



願 記・在家免物冥加表

○表具付仕立上ケ寸法(曲尺)大略  
但シ金軸ヲ除ク

- 無圖形 縦九尺〇八分 横四尺
  - 一番形 七尺七寸六分 三尺六寸
  - 二番形 七尺一寸二分 二尺九寸
  - 三番形 六尺八寸六分 二尺六寸
  - 四番形 六尺三寸 二尺二寸
  - 一尺形 六尺七寸 二尺一寸
  - 七寸形 縦四尺六寸 横一尺六寸
  - 五寸形 三尺三寸 一尺二寸
  - 四寸形 二尺七寸 一尺
  - 三寸五分形 二尺二寸 八寸
  - 三寸形 一尺七寸 六寸
  - 二寸形 一尺一寸五分 四寸
  - 小形御繪傳 五尺九寸 一尺五寸
- 爲替振替口座大阪三二二番等ニテ出願ノ節ハ左記  
目方ノ割合ヲ以テ書留小包料送納ノ事
- 御本尊 二寸形 二十 匁
  - 同 三寸形 三十五 匁
  - 同 三寸五分形 六十 匁

○小形御影

- 同 四寸形 六十五 匁
  - 同 五寸形 百五 匁
  - 同 七寸形 百七十 匁
  - 三寸壹幅入 六十五 匁
  - 同 貳幅入 八十五 匁
  - 三寸壹幅入 百五 匁
  - 同 貳幅入 百八十五 匁
  - 四寸壹幅入 百六十五 匁
  - 同 貳幅入 二百五十 匁
  - 五寸壹幅入 二百四十 匁
  - 六寸壹幅入 三百四十 匁
  - 大本御文章壹部 五百五十 匁
  - 同 八ヶ條壹部 二百七十 匁
  - 小本御文章壹部 九十五 匁
  - 小本御和讃壹部 三十二 匁
  - 大本御和讃壹部 二百二十 匁
  - 校點三部經壹部 二百四十 匁
  - 小形御繪傳雙幅 五百十 匁
- 冥加引替郵送願出ノ向アルモ取扱セス

願 記・在家免物冥加表 第一號表 第二號表 第三號表

書留小包料金表

目方	二匁	四匁	六匁	八匁	一匁	一匁二	一匁四	一匁六
内地	拾八匁	貳拾參匁	四拾五匁	六拾參匁	七拾貳匁	八拾壹匁	九拾五匁	壹圓
臺灣	拾五匁	貳拾參匁	四拾五匁	六拾參匁	七拾貳匁	八拾壹匁	九拾五匁	壹圓
朝鮮	拾五匁	貳拾參匁	四拾五匁	六拾參匁	七拾貳匁	八拾壹匁	九拾五匁	壹圓

- 御本尊小形御影木佛尊像御札ノ御裏法名申添願出ノ者ハ願主一名ニ限リ冥加ヲ要セス以上一名ヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ要ス
- 御染筆尊號ノ下附ハ別ニ定ムル規定ニヨル
- 郵送願出ノ者ハ希望ノ御品ノ冥加ニ書留郵送料ヲ同時ニ送金シ御品目並ニ願人ノ住所氏名ヲ明記セラレマシ
- 振替送金ノ場合ハ通信欄ニ希望ノ御品ヲ明記セラレマシ尙振替ハ多少着金ノ日數ヲ要ス
- 御下附濟ノ御品ハ何レノ場合タリトモ御取替願出ヲ許サレヌ
- 從來各寺門信徒ニシテ如何ハシキ町判物ノ御本尊其他御影ヲ崇敬スル向アルヤニ聽及ヒ甚々遺憾ノ至リニ付特ニ二寸形及四寸形以下ニ四等五等ノ御本尊ヲ御制定アリ依テ之カ趣意ノ貫徹ヲ期セラレマシ

○第一號表 (寺號公稱木佛安置冥加)

寺號公稱	金貳拾圓
木佛安置	金拾圓
木佛御札再下附	金五圓

○第二號表 (得度ニ關スル冥加)

得度衣體	入籍料	合計
金貳拾五圓	金五圓	金參拾圓

但シ此ノ外ニ衆徒三季冥加一ヶ年分ヲ要ス

○第三號表 (教師並ニ準教師ニ關スル教會金)

種別	教會金	住籍料	合計
教師	金參拾圓	金五圓	金參拾五圓
準教師	金參拾圓	金五圓	金參拾五圓
教士	金參拾圓	〇	金參拾圓

願 記・第三號表 第四號表 第五號表

準教師	金五拾圓	○	金五拾圓
補教師	金五圓	○	金五圓
舊試補ヨリ教師申付	金五圓	○	金五圓

○第四號表 (學階ニ關スル料金)

滿籍	金五圓	得業已上ノ有階者
得業	金五圓	
助教	金拾圓	
輔教	金貳拾圓	

○第五號表

(一代堂班並ニ衣體冥加)

改正 大正一〇、一一

堂班	一代昇進	通常衣體	特別衣體	合計
外陣列座	金五圓	金七圓	金參圓	金拾五圓
脇之間	金貳拾五圓	金拾五圓	金五圓	金四拾五圓
餘之間	金參拾五圓	金參拾圓	金拾圓	金七拾五圓
内陣列座	金六拾圓	金四拾五圓	金貳拾五圓	金百參拾圓

但シ後住在職中トス  
一、終身堂班及褒賞例ニ依ルモノハ永代ニ差繼クコトヲ得ス

○第六號表

(永代堂班並ニ衣體冥加)

改正 大正一〇、一一

堂班	永代昇進	通常衣體	特別衣體	合計
外陣列座	金貳拾圓	金七圓	金參圓	金參拾圓
脇之間	金七拾圓	金拾五圓	金五圓	金九拾圓
餘之間	金壹百圓	金參拾圓	金拾圓	金百四拾圓
内陣列座	金貳百參拾圓	金四拾五圓	金貳拾五圓	金參百圓
本座二等	金五百圓	金六拾五圓	金參拾五圓	金六百圓
本座一等	金七百圓	金七拾五圓	金六拾五圓	金八百四拾圓
上座二等	金貳千圓	金百五拾圓	初代金壹千圓 二代金六百圓 三代以後金參百圓	

願 記・第五號表 第六號表 第七號表注意

本座二等	金貳百圓	金六拾五圓	金參拾五圓	金參百圓
本座一等	金參百圓	金七拾五圓	金六拾五圓	金四百四拾圓
上座二等	金壹千圓	金百五拾圓	初代金壹千圓 二代金六百圓 三代以後金參百圓	
上座一等	金貳千五百圓	金貳百圓	初代金壹千圓 參百圓 二代金八百圓 三代以後金四百圓	

(注意)

一、上座二等迄ハ永代(第六號表)一代及終身(第五號表)共超越昇進ノトキハ其次級以下ノ通常及特別衣體冥加ノ上納ヲ要セス  
一、上座一等ハ上座二等永代及特別衣體濟ミニ非サレハ許可セス  
一、永代繼目出願ノ節ハ永代冥加ノ内ヨリ一代冥加ヲ減シタル差額ヲ上納セシム但シ特別衣體未許可ノ者ハ別ニ其冥加金ヲ納ムヘシ  
一、一代ヨリ永代堂班ニ差繼キ又ハ昇進申請ノ場合ハ假令住職死亡後ト雖モ特ニ生存中ト同様ニ取扱フ

上座一等	金五千圓	金貳百圓	初代千參百圓 二代金八百圓 三代以後金四百圓
------	------	------	------------------------------

(第七號表注意)

(大正十年八月 甲達第十七號)

一、上座二等以上正副住職ヲ出願スルトキハ繼席冥加並ニ通常衣體冥加ノ上納ヲ要ス  
二、本座一等以下外陣列座迄正副住職出願スルトキハ繼席冥加並ニ通常特別衣體冥加ヲ併セテ納ムヘシ  
三、平僧ハ繼席冥加並ニ特別衣體冥加ヲ納ムヘシ  
以下單ニ衣體トアルハ上座二等以上ハ通常衣體、本座一等以下外陣列座迄ハ通常衣體、特別衣體、平僧ハ通常衣體ヲ指ス  
四、所屬寺堂班衣體ヲ出願スルトキハ衣體冥加ノミヲ納ムヘシ  
五、所屬寺堂班衣體許可濟ノ者正副住職出願スルトキハ繼席冥加ノミヲ納ムヘシ  
但シ甲寺所屬寺堂班衣體濟ノ衆徒ニシテ乙寺ノ正副住職出願スルトキハ其堂班甲乙兩寺共同堂班ヲ

願 記・第七號表注意 第七號表

リトモ轉換冥加並ニ繼席冥加衣體冥加ヲ併セテ納ムヘシ

六、甲寺衆徒ニシテ乙寺正副住職出願スルトキハ乙寺繼席冥加衣體並ニ轉換冥加ヲ納ムヘシ

七、轉住スルトキハ甲乙兩寺堂班上級下級ニ拘ラス其住職スヘキ寺格ノ繼席冥加衣體冥加ヲ納ムヘシ但シ住職スヘキ寺院ニ於テ一代堂班ヲナス場合ハ其

堂班ニ相當スル繼席冥加ヲ納ムヘシ

八、終身堂班許可ノ者ニシテ正副住職又ハ轉住スルトキハ其住職スヘキ寺格カ自己ノ堂班ヨリ上級ナルトキハ其寺格ノ繼席冥加並ニ衣體冥加ヲ納ムヘシ又自己ノ堂班ヨリ下級ナルトキハ其寺格ノ繼席冥加ノミヲ納ムヘシ

第七號表

(大正十四年三月法度第一號)  
繼席並ニ通常特別甲種衣體冥加ノ區別

改正昭和七、五

寺格	正住 繼席	副住職	前住 其寺正住繼席	副住	通常衣體	特別衣體	甲種特別衣體	別格特別衣體
別格寺金百圓	金五拾圓	金六拾圓	金貳百圓	金貳百圓	○	○	○	○
上座一等金八拾五圓	金四拾貳圓	金五拾壹圓	金貳百圓	初代千參百圓 二代八百圓 三代以後四百圓	初代金參千五百圓 二代金貳千貳百圓 三代以後金千貳百圓	初代金七千圓 二代金五千圓 三代金參千圓		
上座二等金六拾五圓	金參拾貳圓	金參拾九圓	金百五拾圓	初代壹千圓 二代六百圓 三代以後參百圓	初代金八百圓 二代金五百圓 三代以後金三百圓			
本座一等金五拾圓	金貳拾五圓	金參拾圓	金七拾五圓	初代金五百圓 二代金參百圓 三代以後金貳百圓	初代金五百圓 二代金參百圓 三代以後金貳百圓			
本座二等金四拾圓	金貳拾圓	金貳拾四圓	金六拾五圓	金參拾五圓	○	○	○	○
內陣列座金參拾圓	金拾五圓	金拾八圓	金四拾五圓	金貳拾五圓	○	○	○	○

第八號表 (雜種類)

改正 昭和七、二 昭和七、七

但シ教會設立者ハ本表ノ住職ニ、教會擔任教師ハ副住職ニ準シ設立者擔任教師ト同一人ナル場合ハ住職ニ準ス、住職ニシテ教會ノ設立者及ヒ擔任教師タル時ハ兼務住職ノ取扱ニ準ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本派ヨリ他派へ轉屬	金五拾圓
他派ヨリ轉屬	金貳拾圓
轉換	金貳拾圓
歸俗	金參拾圓
二物	金拾圓

證 明 願	金貳圓
托鉢證牌	金參圓
度牒再成請替	金參圓
籍裝裝再請	金參圓
加印	金壹圓
許狀再請	金參圓
教師並準教師料	金貳拾圓

願 記・第七號表 第八號表

願記・第八號表 教師對配衣體冥加

寺院 興創 復立 舊再	寄附 金募 集	建 物 改再 築建	土 地 賣 却	說 教 所 新 設	教 會 設 立	寺 跡 移 轉	御 添 書	堂 班 疊 袈 裝	講 名	勅 語 御 寫	事 務 員 身 分 審 查 料	布 教 使 審 查 料	學 階 受 驗 料	教 師 並 準 教 師 受 驗 料
金五 圓	金五 圓	金五 圓	金拾 圓	金參 拾圓	金參 拾圓	金五 拾圓		金五 圓	金拾 圓	金拾 圓	金貳 拾圓	金貳 拾圓	金參 拾圓	金拾 圓

建 物 修 繕	金 參 圓
改 名 其 他	金 參 圓

○教師對配衣體冥加

配 衣 體 對	通 常	特 別	合 計
外 陣 列 座	金七圓五拾錢	金壹圓五拾錢	金九圓
脇 之 間	金拾五圓	金參圓	金拾八圓

但シ外陣列座ヲ經テ脇之間衣體ヲ出願スルトキハ合計金貳拾五圓五拾錢上納スヘシ

○大谷墓地下付冥加金

- 一、特別墓地一基分(三尺四方)ニ付金壹百五拾圓
  - 二、普通墓地一基分(同)ニ付金百圓
- 但シ特別墓地ハ一基ヲ増ス毎ニ墓地代ノ外ニ金拾圓  
普通墓地ハ金五圓ヲ増冥加ヲ要ス

○御消息御禮金

御 代 筆	金五拾圓以上
御 眞 筆 御 寫	金百圓以上
御 巧	金貳百圓以上

願記・大谷墓地下付冥加金 御消息御禮金

○得度願之件

- 得度願(用紙ハ交付ス)
- 何府市町何番地
  - 何縣郡村何番地
  - 戶主又ハ何某何男
  - 何年何月何日生
  - 私儀本宗教法ニ從事仕度候ニ付
  - 一何府市町何寺衆徒ニ御差加
  - 一法名何何(二字名)ト御授與
  - 得度御許可被成下度此段願上候也
  - 年 月 日 右本人 何 某
  - 何府市町 何 某
  - 何縣郡村 何 某
  - 何寺住職、兼務住職 何 某
  - 前記ノ通相違無之候條御許可相成度候也
  - 何教區何組長 何 某
  - 右差支無之候條及進達候也
  - 何教區管事 何 某
  - 一派内何學校何年級修了済
  - 得度願之件